

京都大学 アカデミックデイ 2018

報告書

Kyoto University
Academic Day 2018



研究について、研究者と語り合いませんか？

Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?



2018年9月22日(土) 10:00-16:00 ※但し、一部プログラムについては17:00まで実施

10:00 - 16:00, 22 September, Saturday, 2018

京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館 | Kyoto University Clock Tower Centennial Hall

参加費：無料(申込み不要) | No charge/No registration required

開催日時 2018 年 9 月 22 日（土）10 時から 16 時 ※但し、一部プログラムについては 17 時まで実施

会場 百周年時計台記念館 2 階

目次 1. 概要

1-1. イベント概要

1-2. 山極総長からのメッセージ

1-3. 会場配置図

2. プログラム

2-1. 研究者と立ち話

2-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

2-3. お茶を片手に座談会

2-4. 研究者の本棚

2-5. 対話マラソンのための給水ポイント

3. アンケート

3-1. 来場者アンケート

3-2. 出展者アンケート

3-3. 京都大学アカデミックデイ賞

4. 出展者情報

4-1. 研究者と立ち話

4-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

4-3. 出展参加者一覧

5. その他

5-1. 出展者向け事前説明会

5-2. イベント終了後の学内限定タイム（出展者交流）

5-3. 広報物

6. 支援体制・準備スケジュール

6-1. 支援体制

6-2. スタッフリスト

6-3. 準備スケジュール

6-4. デザイン・制作物スケジュール

7. （資料）ブックリスト

1. 概要

1-1. イベント概要

2018年9月22日、百周年時計台記念館で「京都大学アカデミックデイ 2018」を開催しました。第8回目となる今年は、学部生・大学院生を含む244人が60組（高校からの出展）3組を含むの研究プロジェクトにおいて発表しました。また来場者は437人に上りました。

「京都大学アカデミックデイ」は、市民や研究者、文系、理系を問わず、誰もが学問の楽しさ・魅力に気付くことができる「対話」の場となることを目的として、「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。本学の研究者が来場者と直接対話することで、本学の研究活動を分かりやすく説明するとともに、本学における研究活動に国民の声を反映させることを目指しています。

企画のデザインや運営は学術研究支援室（KURA）、研究推進部研究推進課及び「国民との科学・技術対話」ワーキンググループが協働し、対話が促進されるプログラム4つを用意しました。

様々な分野の研究に触れられるポスター展示の「研究者と立ち話」、研究者とじっくり対話できる「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」、テーマに沿って研究者と来場者が議論する「お茶を片手に座談会」、そして参加研究者のお勧め図書を紹介する「研究者の本棚」です。会場のあちこちで、研究者と来場者の対話が生まれました。また、会場内には、「対話マラソンのための給水ポイント」を設置し、飲み物を無料で提供しました。

また、来場者にはアンケート調査への協力を依頼しました。寄せられた回答の中から、企画や出展に関する意見やコメントを出展者にフィードバックすることで、今後の対話活動をさらに発展させていきます。



会場（百周年時計台記念館）

1-2. 山極総長からのメッセージ

京都大学アカデミックデイにご来場のみなさまへ

京都大学は創立以来、対話を根幹とした自由の学風のもと創造の精神を涵養し、多様で質の高い高等教育と先端的学術研究を推進してまいりました。情報技術が目覚しく発展し、世界の情勢が急激に激動するなか、京都大学は地球社会の調和ある共存を目標にして多元的な課題の解決に果敢に挑戦しております。そのために私は、京都大学を世界や社会へ通じるための「窓」として位置づけ、新しい時代の要請に応えていこうと思います。窓、すなわち WINDOW にちなんで、次のような方針を掲げています。Wild and Wise（野生的で賢い学生を育てる）、International and Innovative（国際的で革新的な能力を重視する）、Natural and Noble（自然に学び、高潔な人格を育てる）、Diverse and Dynamic（多様で変化に満ちた世界を理解する）、Original and Optimistic（独創性を明るい気分とともに育てる）、Women and the World（女性が輝く、希望に満ちた環境を作る）、という計画です。そして、京都大学の学術研究の成果を市民に還元するとともに、市民の理解と支持を得て、共に学術研究を推進していこうと考えています。



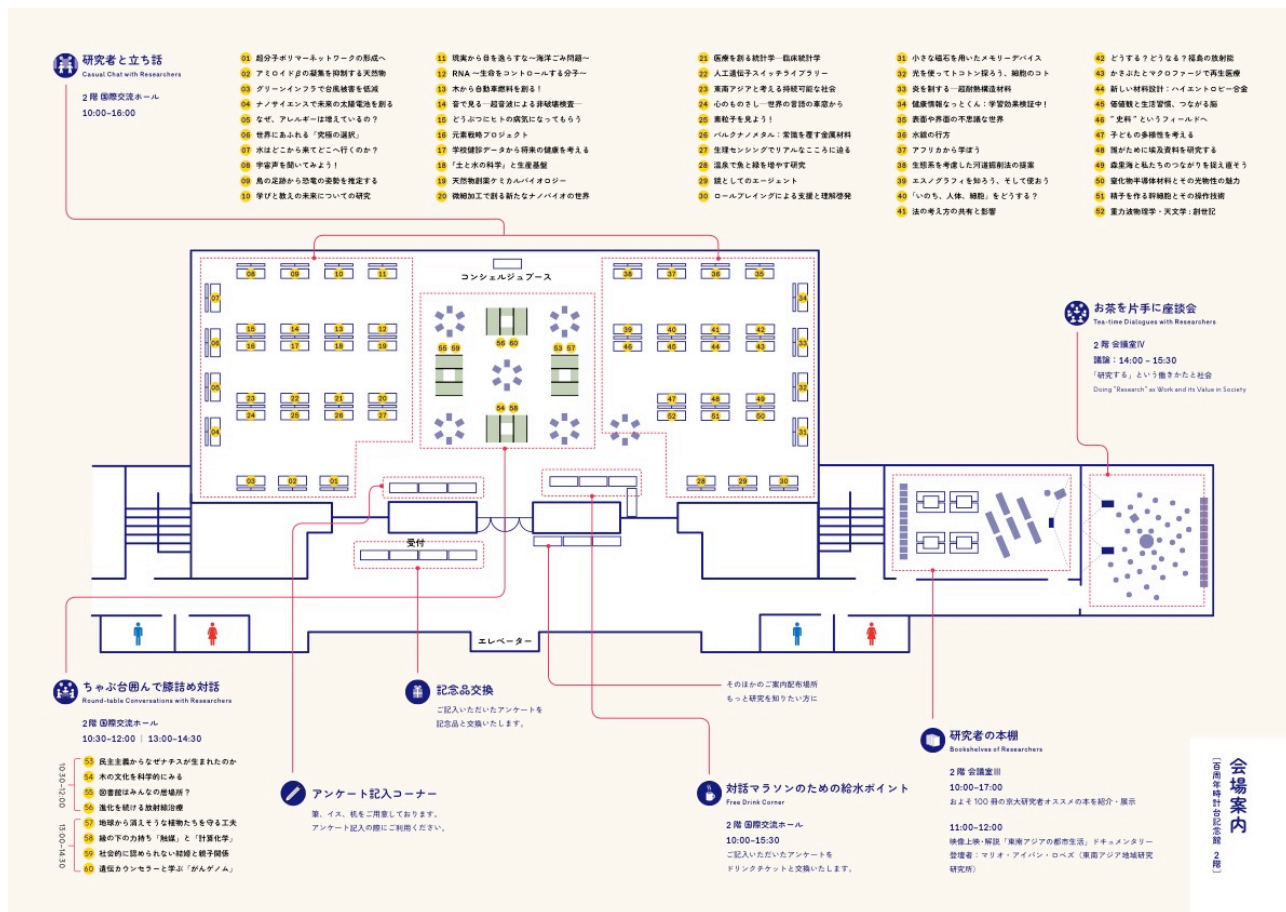
京都大学アカデミックデイは、みなさまと京都大学の研究者とが直接対話をする場として企画したものです。学術研究の成果だけでなく、研究が営まれているさまや、同じ1人の人間としての研究者を知っていただく機会になればと思っています。そしてこの機会に是非、研究者に疑問を投げかけてください。みなさまとの対話は、研究者にとって自らの研究の社会の中の位置づけや課題を捉え直す機会となります。そして、成果還元の可能性や新たな活躍の場が広がって行きます。

この対話の場である京都大学アカデミックデイが、みなさまと共に我が国の学術研究を育む場になることを期待しています。

京都大学総長 山極壽一

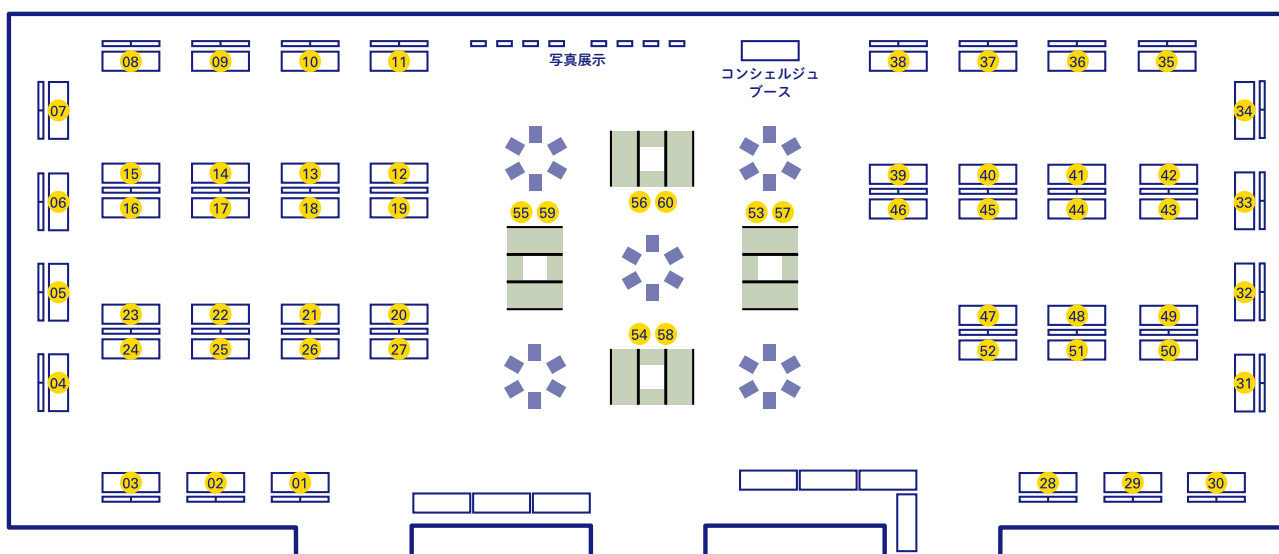
1-3. 会場配置図

1-3-1. 「京都大学アカデミックデイ」配置図

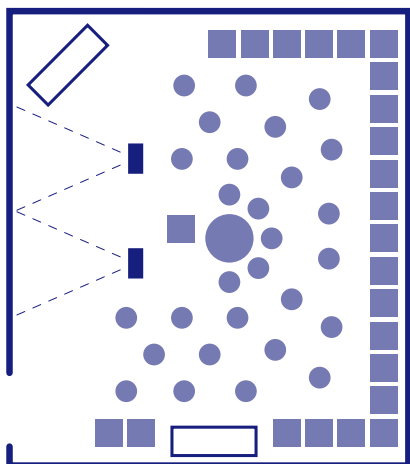


■ 1-3-2. 各コーナーレイアウト

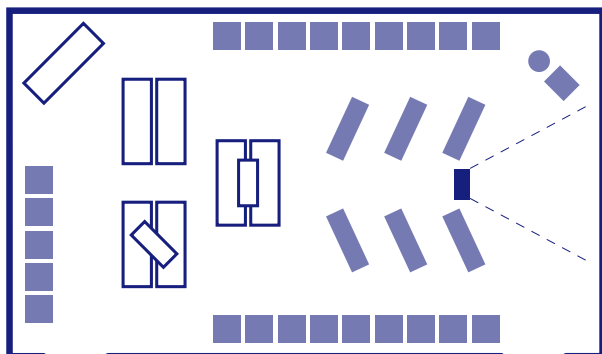
● 2階 国際交流ホール：研究者と立ち話・ちゃぶ台囲んで膝詰め対話



● 2階 会議室Ⅳ：お茶を片手に座談会



● 2階 会議室Ⅲ：研究者の本棚



2. プログラム

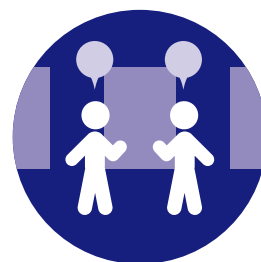
2-1. 研究者と立ち話

■ 2-1-1. 概要

日時 9月22日（土曜日）10時～16時

会場 百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール

大学研究者、高校生などによる研究紹介のコーナー。会場には52のポスター展示がずらりと並び、ポスターの前ではその研究を行っている研究者が来場者と直接語り合いました。また、ポスターの前に模型や実験器具、資料等を並べ、それらを使って紹介をする研究者の姿も多く見られました。さまざまな立場で研究をしている人が一堂に集まっていたため、研究者同士の交流も深まり、互いに刺激をシェアする場になっていました。



■ 2-1-2. コンシェルジュブース

「数が多すぎてどこから回れば良いのかわからない」といった来場者からの声に応えるため、今年はコンシェルジュブースを設置。京都大学の学生がコンシェルジュとなり、来場者の要望や質問に答えました。希望があればガイド役として来場者と一緒に「研究者と立ち話」を回ることもできましたが、今回は来場者が自ら積極的に場内を回っていた様子でした。

協力：有限会社関西教育考学



■ 2-1-3. 「研究者と立ち話」出展一覧

● 京都大学

出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
Kira Landenberger（大学院工学研究科）	超分子ポリマーネットワークの形成へ
入江一浩（大学院農学研究科）	アミロイドβの凝集を抑制する天然物
森信人（防災研究所）	グリーンインフラで台風被害を低減
金光義彦（化学研究所）	ナノサイエンスで未来の太陽電池を創る
高野裕久（大学院地球環境学）	なぜ、アレルギーは増えているの？
大庭弘継（大学院文学研究科）	世界にあふれる「究極の選択」
勝山正則（大学院農学研究科）	水はどこから来てどこへ行くのか？
小嶋浩嗣（生存圏研究所）	宇宙の声を聞いてみよう！
田中郁子（大学院理学研究科）	鳥の足跡から恐竜の姿勢を推定する
緒方広明（学術情報メディアセンター）	学びと教える未来についての研究
齊藤博英（iPS細胞研究所）	RNA～生命をコントロールする分子～
坂志朗（大学院エネルギー科学研究科）	木から自動車燃料を創る！
松田直樹（大学院工学研究科）	音で見るー超音波による非破壊検査ー
高橋良輔（大学院医学研究科）	どうぶつにヒトの病気になってもらう
田中庸裕（実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池元素戦略研究拠点ユニット） 田中功（構造材料元素戦略研究拠点ユニット）	元素戦略プロジェクト
井出和希（政策のための科学ユニット）	学校健診データから将来の健康を考える
村上章（大学院農学研究科）	『土と水の科学』と生産基盤
掛谷秀昭（大学院薬学研究科）	天然物創薬ケミカルバイオロジー
横川隆司（大学院工学研究科）	微細加工で創る新たなナノバイオの世界
佐藤俊哉（大学院医学研究科）	医療を創る統計学ー臨床統計学
杉山弘（大学院理学研究科）	人工遺伝子スイッチライブラリー
河野泰之（東南アジア地域研究研究所）	東南アジアと考える持続可能な社会
西本希呼（大学院人間・環境学研究科／東南アジア地域研究研究所）	心のものさしー世界の言語の車窓から
小原脩平（大学院理学研究科）	素粒子を見よう！
辻伸泰（大学院工学研究科）	バルクナノメタル：常識を覆す金属材料
内田由紀子（こころの未来研究センター）	生理センシングでリアルなこころに迫る
大本義正（大学院情報学研究科）	鏡としてのエージェント
Björn-Ole Kamm（大学院文学研究科）	ロールプレイングによる支援と理解啓発
塩田陽一（化学研究所）	小さな磁石を用いたメモリーデバイス
松田道行（大学院医学研究科／大学院生命科学研究科）	光を使ってトコトン探ろう、細胞のコト
乾晴行（大学院工学研究科）	炎を制するー超耐熱構造材料

岡林里枝（環境安全保健機構）	健康情報なっとくん：学習効果検証中！
湊丈俊（産官学連携本部）	表面や界面の不思議な世界
高岡昌輝（大学院工学研究科）	水銀の行方
松田素二（大学院文学研究科）	アフリカから学ぼう
宇田川彩（人文科学研究所）	エスノグラフィを知ろう、そして使おう
佐藤恵子（医学部附属病院）	「いのち、人体、細胞」をどうする？
松本和洋（大学院法学研究科）	法の考え方の共有と影響
米田稔（大学院工学研究科）	どうする？どうなる？福島放射能
西東洋一（ウイルス・再生医科学研究所）	かさぶたとマクロファージで再生医療
乾晴行（大学院工学研究科） 辻伸泰（大学院工学研究科）	新しい材料設計：ハイエントロピー合金
村井俊哉（大学院医学研究科）	価値観と生活習慣、つながる脳
大野美紀子（東南アジア地域研究研究所）	“史料”というフィールドへ
田村綾菜（こころの未来研究センター）	子どもの多様性を考える
横山操（総合博物館）	誰がために埃及資料を研究する
赤石大輔（森里海連環学教育研究ユニット）	森里海と私たちのつながりを捉え直そう
石井良太（大学院工学研究科）	窒化物半導体材料とその光物性の魅力
篠原隆司（大学院医学研究科）	精子を作る幹細胞とその操作技術
田中貴浩（大学院理学研究科）	重力波物理学・天文学：創世記

● 高等学校・高等専門学校

学校名	出展タイトル
京都府立海洋高等学校	現実から目を逸らすな～海洋ごみ問題～
大阪府立長野北高等学校	温泉で魚と緑を増やす研究
兵庫県立加古川東高等学校	生態系を考慮した河道掘削法の提案

「研究者と立ち話」レポート

京都大学アカデミックデイは研究者と一般市民（非研究者）の対話を目的として行われており、「研究者と立ち話」は数ある企画の中でも、最も多くの研究者が参加する企画でした。

そもそも研究者と一般市民が「対話」をするためには、双方が「対等」でなければなりません。研究者が研究内容を発表する場の一つである一般的な学会では、発表者・聴講者がその分野では同等の知識を持っています。そのため双方が対等な立場であり、積極的な対話が成り立ちやすい環境です。しかし今回のような企画では、発表者（研究者）と聴講者（一般市民）は知識量という観点では決して対等ではなく、その点を研究者側が十分に理解し、工夫を行わなければならないように思われました。

来場者アンケートで最も多くの得票数を得た「RNA～生命をコントロールする分子～」は、題材自体は難しい内容であったものの、研究室の日常風景をイラスト化したほか、顕微鏡を用いて実演するなど、数ある企画の中でも随所に工夫が凝らされていた発表でした。研究者としては普段の何気ない風景・操作でも、一般の方々にとってはそのひとつひとつが非日常であり、それだけでも話のタネにつながります。研究「内容」だけではなく研究「生活」も織り交ぜながらのブース作りは、専門知識のほとんどない来場者の方々でも気軽に話を聞きやすく、対等な関係でフラットな対話を行える、本企画のひとつの答えのように感じました。

また本企画はポスター形式の発表を念頭に置いておりましたが、必ずしもポスターの紙面上ですべての解説を行わなければならないわけではありません。私自身は生物化学を学ぶ「理系」で、ポスター上で背景・方法・結果・考察をまとめるのが当然のように思っており、実際に同様の分野の研究者たちは実験背景から考察までをポスター紙面上に綺麗にまとめ、その紙面上で研究成果の説明を行うというスタイルが多いように感じました。しかし、ほかの分野の研究者のポスターを覗いてみると、ポスター上に書かれているのは研究報告ではなく研究分野の説明であったり、いま人々が直面している問題の提示であったりと、ポスターを人の関心を集めるツールとして使い、説明はほかの媒体（タッチパッドや実物、口頭など）で行うというスタイルも多く見受けられました。このような発表形式は私自身にとっては新鮮で、ほかの研究者の発表を間近で見聞きできたからこそ得られた驚きでした。このように、研究者－研究者間の交流・対話を通じて自らの研究・発表に刺激を得られるのも本企画のひとつの大きな役割のようにも思われました。

農学研究科 修士課程 2 年 野村泰介

コンシェルジュブース レポート

コンシェルジュブースの設置は、今回がはじめての試みとのことでした。来場者の要望にあわせたブースを即座にご案内できるようにと、出展者の簡単な発表内容とプロフィール、出展場所を事前に予習しておきました。

早速、当日の朝一番にその準備が活かされる時が来ました。NP0 法人京都カラスマ大学の募集で集まった来場者のご案内です。まず、皆さまのお名前と興味のあること（学術分野、ブース番号など）を伺い、関連する場所をご紹介します。実際に会場を回り始めてみると、皆さまそれぞれのご興味の赴くままあれもこれもとより予定よりも盛り沢山になってしまいましたが、存分に楽しんでいただけたと思います。また、午後には高校生がコンシェルジュを頼って来てくださいました。彼の場合も、カラスマ大学と同様の方法でご案内をしました。

そのほかの時間、コンシェルジュブースに来場者が来られることはあまりありませんでした。困りごとがないのは良いことと思いつつも少し寂しい気持ちもありました。おそらく、アカデミックデイが恒例行事となり、来場者が常連もしくは来場経験者から口コミを聞いてきた方で、システムに戸惑うケースが少なかったためと考えられます。入口付近の案内板や HP が充実して、情報が十分に行き届いている証拠であるとも思われます。さらには、出展者側が話しかけやすいオープンな雰囲気を提供できており、サポート役がそれほど必要なかったとも推察されます。

しかしながら、もともと大学の内外を繋ぐことに個人的興味があった私にとって、今回のコンシェルジュという役割は非常に面白く、楽しいものでした。このような役割が社会に増えることで、学術が文化として共有され、人類の新たな発展・幸福に繋がるのではないかと思います。したがって、今後もこのコンシェルジュというシステムが継続されることを望みます。ひとつ提案をするとすれば、コンシェルジュブース設置場所の変更が考えられます。入口付近のパンフレットやドリンクの配布コーナーに近い方が活用されやすいのではないかと印象を受けました。

農学研究科 博士課程 3 年 風間春奈

■ 2-1-4. 関連企画

● 写真展示

今回初めて設置した写真展示のコーナーです。普段一般の方が見られない研究室や実験室での様子を撮影した、パンフレット用写真を展示しました。撮影にご協力いただいたのはほとんどが今回のアカデミックデイ出展者で、来場者にはブースの訪問と合わせて、実際の研究の様子を見てもらうことができました。



2-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

2-2-1. 概要

日時 9月22日（土曜日）10時30分～12時／13時～14時30分

会場 百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」は、研究にまつわるあんな話、こんな話を、来場者と研究者がお茶の間気分で話し合うコーナーです。会場には3帖の畳から成る4つのちゃぶ台ブースを設置。10時30分から12時の間に4つ、13時から14時30分の間に4つ、計8つの研究者／グループが対話に臨みました。各研究グループは「どんな研究を行っているのか」「なぜその研究をしているのか」などを説明。来場者も様々な質問を投げ、研究者と対話しました。また本企画でも、学生サポーターがスムーズな運営をサポートしました。



■ 2-2-2. 「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」出展一覧

日時	出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
9月22日（土） 10:30～12:00	藤原辰史（人文科学研究所）	民主主義からなぜナチスが生まれたのか
	田鶴寿弥子（生存圏研究所）	木の文化を科学的にみる
	八谷舞（人文科学研究所）	図書館はみんなの居場所？
	溝脇尚志（大学院医学研究科）	進化を続ける放射線治療
9月22日（土） 13:00～14:30	瀬戸口浩彰（大学院地球環境学堂）	地球から消えそうな植物たちを守る工夫
	榊茂好（福井謙一記念研究センター）	縁の下の力持ち「触媒」と「計算化学」
	藤倉康子（人文科学研究所）	社会的に認められない結婚と親子関係
	和田敬仁（大学院医学研究科）	遺伝カウンセラーと学ぶ「がんゲノム」

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」レポート

今回は午前に4つ、午後に4つのちゃぶ台が設けられ、私は午後の部(13:00-14:30)を担当しました。全体としては、開催日が土曜日ということもあり来場者の年代が幅広く、熱心に聞いている姿が印象に残りました。また、他の企画と比べて感じたこの企画の特徴は、「ちゃぶ台」は（物理的にも）少し敷居が高いが、そのハードルを乗り越えた先に、タイトルの通り「膝詰め対話」が繰り広げられていたということです。

出展者は、資料を準備するだけでなく、専門的な内容をよりわかりやすく説明できるような空間づくり、研究室ごとに様々な工夫がなされていました。例えば、その場でホワイトボードに絵を描いて説明したり、途中から入ってきた来場者のために、フォローする出展者を配置しておいたこと、今まで話してきたことを手短かにまとめて説明していたこと、書籍や模型など、実際に研究に関連するものを置いていたことなどがあげられます。このような工夫は、より深い議論ができるという意味では良いと思いました。しかし、一回の説明がどうしても長くなってしまう分、多くの来場者がこの企画を楽しむ機会を奪ってしまう可能性もあります。

また来場者については、その空間で熱心にメモを取ったり質問を投げかけていました。そんな双方の熱意があって、ちゃぶ台の空間は活発な議論の場になっていたと思いました。その盛り上がりもあり、午後の部は14:30で終了する予定が、最終的に15:45まで延長することになりました。企画としての盛り上がりがあったことは非常に良いことだと思いますが、午前と午後の部にこのような差が生じてしまったのは、今後の課題に思われます。どの出展もよく準備されていることが感じられた分、来年にはさらに平等な良い企画として、続いていくことを願っています。

サポートする係としては、盛り上がっている状況では、なかなか「お時間ですので…」と解散を促すようなことは言いづらいという面もありました。盛り上がりがない企画よりははるかに良いのですが、より多くの人に研究内容が伝わる効果的な形は、これからも模索していかなくてはならないと思います。せっかくのアカデミックデイ独自の企画ですので、個人的には一般的なプレゼンテーションではなく、さらにより良い独特な形で次世代へと受け継がれていくことを願っています。

農学部4年 山本健寛

2-3. お茶を片手に座談会

2-3-1. 概要

日時 9月22日（土曜日） 14時～15時30分

会場 百周年時計台記念館 2階 会議室Ⅳ

一つのテーマに沿ってみんなで語り合うトークライブ「お茶を片手に座談会」。今回は、『研究する』という働きかたと社会」と題して開催しました。その内容は、研究者は大学にいないければ研究ができないのか？ 知の探求にとって大学は本当に必要なのか？ 「研究する」という働きかたは、現代の社会変化の中で、どう変わってしまったのか、そしてどう変わっていくのか。大学の研究者、企業の研究者、省庁関係者、そして学術研究支援室のURAが白熱した議論を交わしました。



■ 2-3-2. トークテーマ・参加者一覧

● テーマ 「研究する」という働きかたと社会

日時 9月22日（土曜日）14時～15時30分

会場 百周年時計台記念館 2階 会議室Ⅳ

登壇者 工藤剛史（音羽電機工業株式会社）

藤原綾乃（文部科学省 科学技術・学術政策研究所）

山本真司（学校法人河合塾 教育研究部）

マリオ・アイバン・ロペズ准教授（京都大学東南アジア地域研究研究所）

神谷俊郎 URA（京都大学学術研究支援室）

モデレーター：仲野安紗 URA（京都大学学術研究支援室）





「お茶を片手に座談会」レポート（1）

今年度は、『研究する』という働きかたと社会」というテーマで座談会が行われました。社会構造の急速な変化に伴って、大学のあり方も変わらざるを得なくなっています。このことはまた、研究という知的営みのあり方も変わってしまう可能性を示唆しています。大学がなければ研究者は研究を行うことができないのか？もしできるなら、それはどういうあり方になっていくのか？大学人、企業人、省庁関係者がこのことについてディスカッションを繰り広げました。

座談会は、モデレーター（仲野氏）が5人の登壇者（工藤氏、藤原氏、山本氏、ロペズ氏、神谷氏）に順に質問を投げかけ、登壇者がそれについて回答する形式で進められました。学生スタッフの私は、今議論されている大まかなテーマを前方のスクリーンに映し出す役割を請け負っていました。これによって「今何の話をしているのか」を来場者が見失わない助けができたと思います。

全体的には、来場者からの質問が登壇者に投げかけられるなど、会場を巻き込んだ充実した座談会であったと言えます。ただ学生スタッフとして片隅で聞いていた私の視点からは、やや不満な点が残りました。モデレーターが一人の登壇者に質問をし、その登壇者が回答、次にまた別の登壇者に質問をし、その登壇者が回答、次に……という風に、それぞれの登壇者がそれぞれの経験談をただ話だけで終わってしまった印象が全体的に見受けられました。「それぞれ違うことを考えているんだな」ということはわかりましたが、異なる意見の羅列に終わってしまったのではないかと思います。「テーマに沿ってみんなで語り合う」ことが趣旨の企画であるにもかかわらず、登壇者間のディスカッションがほとんどなかったのが非常に残念です。

とは言え、一つの問題を異なる切り口から考えられる機会が提供されることは、来場者にとって貴重なものであったのではないかと思います。趣旨を完全に実現することはなかなか難しいですが、来年以降も登壇者、来場者全員を巻き込んだ大いに意義のある座談会を開催してほしいと思います。

人間・環境学研究科 修士課程2年 榎本啄杜

「お茶を片手に座談会」レポート（2）

「社会にとって「研究」という働き方・仕事はどうあるべきか、企業で「研究」に携わる音羽電気工業の工藤剛史氏、行政から「研究」者を追う文部科学省の藤原綾乃氏、教育現場から社会と「研究」のミスマッチを見つめる河合塾の山本真司氏、そしてイギリスの書店員を経て京大で「研究」しているマリオ・アイバン・ロペズ氏を迎えて議論しました。また内容は、キーワードを中心にTwitter (@acaday2018Z) で実況中継を行いました。

今回の座談会で多く議論されたのは「社会・産業界と大学のミスマッチ」（山本氏）。山本氏は長く教育業界で産業界から見た大学の評価を調べた経験から、産業界のニーズと大学の研究がミスマッチを起こしており、その結果大学の職業学校化、つまり”役に立つ研究・教育”を求める流れができつつあると発言しました。一方で企業研究者である工藤氏は、あまり予算規模の大きくない中小企業にとっては、研究規模の大きい大学研究者と繋がりができることはビジネスを進めていく上で重要だと述べました。その上で、大学の研究者がシーズを、企業研究者はニーズを重視するなど、それぞれ考え方の違いや得手不得手があるので、それを補い合えるような関係を作るのが大事だと述べました。よく学生間的话题に挙がることですが、大学・企業の間を問わず、今の日本社会では”役に立つ研究”を求められています。”役に立つ研究”を追求した結果、大学では「産業界の要請に合わない研究に対する締め付けが強く」（山本氏）なり、企業では「興味関心のある分野をやらなくなる、または薄利多売・コモディティ化」（工藤氏）する恐れがあり、そうなった企業から「日本人技術者のアジア流出」（藤原氏）が起こる構図がこの議論から推察できました。

そのような状況の中で、研究者は何を目指すべきなのか、どのようなキャリアを積んでいくべきなのか。藤原氏は自身の調査から、最初の5年間の成果がその後のキャリアに直結していると述べました。「その成果と自分のやりたいことを繋ぎながらコネクションを作っていくことが大事だ」という主張には、登壇者の方は皆同意されていました。その議論の先には、「大学内の多様性を生かして研究することが、社会にとってプラスになる」（山本氏）、つまり”多様性を許す”大学のあり方があるように、私は感じました。そのために

は、「社会人のニーズにフィットした大学教育」(ロペズ氏)、あるいは「大学に入る前に仕事をする」(ロペズ氏)など、大学の出口だけでなく、入口の多様性についても議論を深める必要がありそうです。

今回の座談会は昨今の働き方改革の流れからか、たくさんの一般来場者が参加し、多くの質問が投げかけられました。会を通して、大学・研究の“多様性”を認めるためには、市民の研究に対する“多様”な意見をすくい上げ、相互理解を進める必要があります。この相互理解があれば「研究」という働き方はもっと魅力的になると、改めて感じました。では、その相互理解はどうしたら進むのか。「働きかた」という切り口から、奇しくも京都大学アカデミックデイが目指す「科学・技術対話」の課題が浮き彫りになった座談会であるようにも思います。

農学研究科 修士課程2年 伊左治俊策

2-4. 研究者の本棚

2-4-1. 概要

日時 9月22日（土曜日）10時～17時

会場 百周年時計台記念館 2階 会議室Ⅲ

京都大学アカデミックデイに出展する研究者の推薦図書を展示した「研究者の本棚」と、映像上映・解説「東南アジアの都市生活」ドキュメンタリーを企画。会場では、多くの来場者が本や映像を介して研究者と対話しました。



■ 2-4-2. 研究者の本棚

京都大学アカデミックデイに参加している研究者に、事前に「今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本」「今ハマっている本」「若者にお勧めしたい本」「自分の研究に関連して紹介したい本」の4つの質問をし、会場ではその本と、選んだ理由などのコメントを紹介。来場者に本から研究者のことを知ってもらい、また当日参加している研究者との対話のきっかけになることを狙って企画をしました。当日は学術書だけでなく、小説や漫画など幅広いジャンルがずらりと並び、来場者が興味深そうに手に取る様子が見られました。

※本報告書の最後に推薦図書のブックリストを付けています。

協力：京都大学生生活協同組合



「研究者の本棚」レポート

「研究者の本棚」企画は、京都大学アカデミックデイに出展する研究者が、「今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本」、「今ハマっている本」、「若者にお勧めしたい本」など、4つのテーマに沿って推薦した本を紹介・展示するものです。研究者が執筆した学術書の他、村上春樹の小説に漫画など、様々な年代が楽しめる幅広いジャンルの本が紹介されていました。

当日、私は午後にこの企画を担当しました。メイン会場で行われている「研究者と立ち話」企画が終了する16時までは客足が少なく、最も賑わったのは、16時から企画終了（17時）までの時間でした。室内は席数が十分に確保されており、静寂な空間であったため、軽く体を休めたり、各人が興味のある本に目を通す空間としては機能していたのではないかと思います。より充実させるためのアイデアとして、当日参加している研究者が時間を決めて入れ替わりで来場者の前で自分のオススメの本を紹介する、という形を取ると、より活発な企画になるのではないかと思います。

教育学部4年 桑原利旺

■ 2-4-3. 映像企画

● 映像上映・解説「東南アジアの都市生活」ドキュメンタリー

日時 9月22日（土曜日）11時～12時

会場 百周年時計台記念館 2階 会議室Ⅲ

京都大学東南アジア地域研究研究所では、2012年から Visual Documentary Project を開始し、東南アジアの若手映像作家が制作する短編ドキュメンタリーを募集・上映しています。

2017年は「東南アジアの都市生活」をテーマに作品を募集したところ、各国から多数の応募がありました。

アカデミックデイ 2018では、このプロジェクトの紹介を兼ねて、応募作の中から上位作品2本を上映し、研究者が解説しました。

上映作品 『密告 Tip-off』、『私たちのヤンゴン』

解説 マリオ・アイバン・ロペズ准教授（東南アジア地域研究研究所）



「映像企画」レポート

「研究者の本棚」と隣接するコーナーで、映像企画が開催されました。本年度は、東南アジアの短編ドキュメンタリー映画の上映と京都大学東南アジア地域研究研究所のマリオ・アイバン・ロペズ氏のミニトークという内容でした。上映された映画は「私たちのヤンゴン」と「密告」の2作です。この2作は東南アジア地域研究研究所の「ヴィジュアルドキュメンタリープロジェクト」で、東南アジアの若手映像作家から募集した映画で、京都国際映画祭や新宿国際映画祭でも上映された作品です。このプロジェクトの目的としてロペズ先生は「学問という枠組みを超えて映像により新たな視点から社会的・政治的問題を伝え、異なるコミュニティの架け橋にしたい」と語っていました。

上映作品の1つ、「私たちのヤンゴン」は、近年、急速な変化を遂げつつあるミャンマーの旧首都ヤンゴンの日常や、そこで暮らす人々を独特の視点で描いた作品です。英領ビルマ時代の19世紀末では東南アジアの中心都市でありながら、第二次大戦後にはネウィンによる独裁時代はインフラが非常に悪化しました。そして近年では就労機会を求めた若者が農村部からヤンゴンに移住したり、外資により高層ビルの建築が進んだり、急速な変貌を遂げています。そのような歴史的背景や民衆の現状もあってか、作品では「ヤンゴンは唯一の街」だと何度も語られます。そのような独特な街での現状と環境の変化などに対する人々の葛藤を、詩の朗読や風景描写を織り交ぜながら、ユニークに描いています。遠い異国での物語ですが、ポストモダンも終わりというような時代において、これからの途上国に対する先進国の役割や、移民問題やグローバリゼーションについて考える上でも、非常に有意義な映画なのではないかと感じました。

もう1つの作品、「密告」は、フィリピンのドゥテルテ大統領が掲げる麻薬撲滅キャンペーンで、無実の罪で息子を亡くした家族の苦境と、現在のフィリピンの政治危機を独白的に描いています。生々しい描写も多くショッキングな内容でした。日本でも頻繁にニュースで取り上げられているにも関わらず、あまり実感が無く、理解もしていなかったフィリピン情勢について手に取るように感じることができ、映像の持つ力をいかに発揮した作品ではないかと感じました。

テーマの馴染みの無さや難しさのためか、会場では開始直前の客足はあまり多くありませんでしたが、徐々に増えはじめ、様々な年齢の来場者が数多く見えました。映画が始まると皆真剣なまなざしで映画を鑑賞し、先生の話に耳を傾けていました。そして、1時間ほどと短時間ではありましたが本企画が終わると会場全体に映画の余韻が漂いながら、皆帰っていったように感じました。

全体として重たいテーマで、陰鬱な気分にもなるようなものでしたが、普段あまり自ら触れることのない話だと思えますので、アカデミックデイのような行事で開催するにふさわしい内容であると思います。

工学研究科 修士課程2年 山田周平

■ 2-4-4. 関連企画

京都大学アカデミックデイ参加研究者のお勧めの本について、他の施設でも特設コーナーが設置されました。

● 附属図書館

京都大学アカデミックデイ 2018 開催前の 9 月 11 日から 30 日まで、附属図書館 1 階で、京都大学アカデミックデイ参加研究者がセレクトした本のうち、「若者にお勧めしたい本」と「自分の研究に関連して紹介したい本」「今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本」から一部をレビューとともに展示しました。
<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1379501>



● 京大生協ショップルネ（書籍コーナー）

京大生協のショップルネ 1 階イベントスペースでも、9 月 18 日から「研究者の本棚」特設コーナーが設けられ、書籍が展示されました。



2-5. 対話マラソンのための給水ポイント

■ 概要

日時 9月22日（土曜日）10時～15時30分
会場 百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール

本年度も“対話マラソンのための給水ポイント”として、コーヒーやジュース、お茶を提供するドリンクコーナーを用意しました。研究者も来場者も夢中で対話し続け、気付けば喉がカラカラ…。「小休止にありがたい」と好評のこのコーナーで喉の渇きを潤し、飲み物を片手に研究者は担当ブースに、また来場者は対話したいブースを探しに戻る様子が見られました。対話を続けてもらうためには欠かせないコーナーです。



3. アンケート

3-1. 来場者アンケート

■ 3-1-1. アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、来場者に2種類のアンケートにご協力いただきました。

1 種類目は、「対話マラソンのための給水ポイント（ドリンクコーナー）」でご利用いただける「ドリンクと交換アンケート」。「京都大学アカデミックデイ」をどこで知ったのか？どのような人が来場されたのか？を主催者が知ることがこのアンケートの目的です。

もう1種類は、お帰りの際にご協力いただいた「記念品と交換アンケート」です。「京都大学アカデミックデイ」の滞在時間や研究者との対話で印象に残ったことなどをご記入いただきました。



● ドリンクと交換アンケート（A5 サイズ：148×210mm）



京都大学アカデミックデイ2018

ドリンクと交換アンケート

早めに記入！

以下のアンケートにご記入いただくと、「対話マラソンのための給水ポイント」(ドリンクコーナー)でご使用いただけるドリンクチケットになります。15:30までにドリンクコーナーにお持ちください。ドリンクチケットと交換させていただきます。

※15:30を過ぎてもアンケートは受付にて回収しておりますので、ぜひご記入ください

2018.9.22

Q 1. 「京都大学アカデミックデイ」の開催をどこで知りましたか？（複数回答可）

ポスター・チラシを見て ① 高校 ② 京都大学 ③ その他の大学(大学名:)
 ④ 地下鉄 ⑤ 市バス ⑥ その他の公共施設(施設名:)
 ⑦ 新聞記事(紙名:)
 ⑧ 京都大学ホームページ ⑨ 京都大学内食堂設置の三角柱 ⑩ ツイッター、フェイスブック
 ⑪ メーリングリスト、メルマガ
 ⑫ 「京都大学アカデミックデイ」関係者・出展者からの紹介
 ⑬ 会場に来て初めて知った(a. 当日配布チラシを見て b. 時計台に来て)
 ⑭ その他()

Q 2. 京都大学のその他のイベントに参加されたことはありますか？（複数回答可）

① 春秋講義 ② 京大ウィークス ③ 京都大学オープンキャンパス ④ ホームカミングデイ
 ⑤ 京都大学アカデミックデイ(過去 回参加) ⑥ その他()

Q 3. 京都大学ホームページや京都大学Facebookサイトを閲覧されたことはありますか？

① よく閲覧する ② 数回閲覧したことがある ③ 閲覧したことがない、知らない

Q 4. 科学・技術に関心がありますか？

① とても関心がある ② 関心がある ③ 関心があるともないとも言えない
 ④ 関心がない ⑤ 全く関心がない ⑥ わからない

Q 5. 科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか？

① はい ② いいえ ③ わからない

Q 6. 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？

① 見つけられた。大抵、その内容は容易に理解できる。
 ② 見つけられた。しかし、ほとんどの場合、その内容を理解することは難しい。
 ③ 見つけられなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つけられない。
 ④ わからない

Q 7. ご自身について教えてください。

① 小学生 ② 中学生 ③ 高校生 ④ 高等専門学校 ⑤ 京大生 ⑥ 京大以外の大学などの学生
 ⑦ 京大教員・研究者(年齢 代) ⑧ 京大職員(年齢 代) ⑨ その他(ご職業 、年齢 代)

Q 8. お住まいの都道府県はどちらですか。

① 京都市内 ② 京都府内 ③ その他(都・道・府・県)



Dialog with the Public

ご協力、ありがとうございました。

● ドリンクチケット（名刺サイズ：55×91mm）

何度でも使える

ドリンクチケット

* 対話マラソンのための
給水ポイント(ドリンクコーナー)で、
ご提示ください



京都大学アカデミックデイ
2018

● 記念品と交換アンケート（A5 サイズ：148×210mm）



京都大学アカデミックデイ 2018

記念品と交換アンケート

帰る前に記入！

以下のアンケートにご記入の上、受付までお持ちください。京都大学アカデミックデイオリジナルグッズを差し上げます。※品切れの場合はご容赦ください

2018.9.22

本日はご来場ありがとうございました。今後の企画のためにご協力をお願いします。

Q 1. 本日の「京都大学アカデミックデイ」の滞在時間はどの程度でしたか？
最も近いものを1つだけお答えください。

① 1時間未満 ② 1時間～2時間 ③ 2時間～3時間
④ 3時間～4時間 ⑤ 4時間～5時間 ⑥ 5時間以上

Q 2. 研究者と話して、発見したこと、気づいたこと、印象に残ったことは何ですか？

Q 3. 本日の「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」と「研究者と立ち話」の中で、あなたが良かったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？

例：「ワクワクしたで賞」、「ばくの話をよく聞いてくれたで賞」、「研究のウラ話を赤裸々に話してくれたで賞」、「これからも研究をがんばってほしいで賞」など

出展番号（出展番号はパンフレットを参照）	賞の名前

Q 4. 「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。

良かった点	悪かった点



Dialog with the Public

ご協力、ありがとうございました。

● 記念品（付箋）



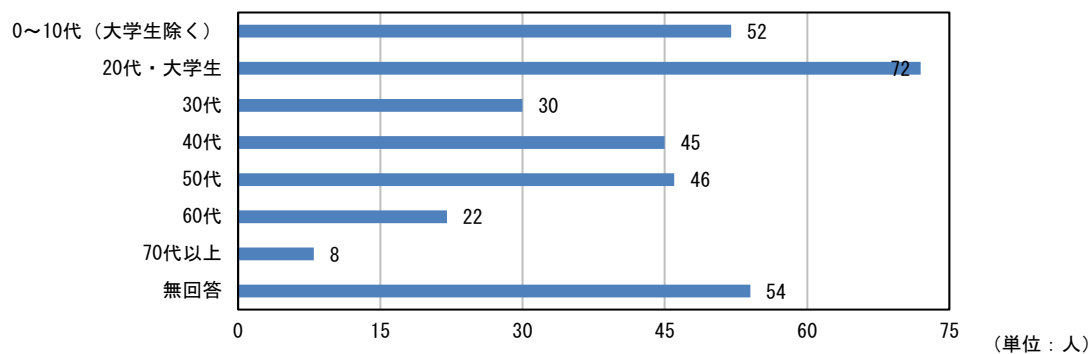
■ 3-1-2. 「ドリンクと交換アンケート」の結果

来場者 437 人

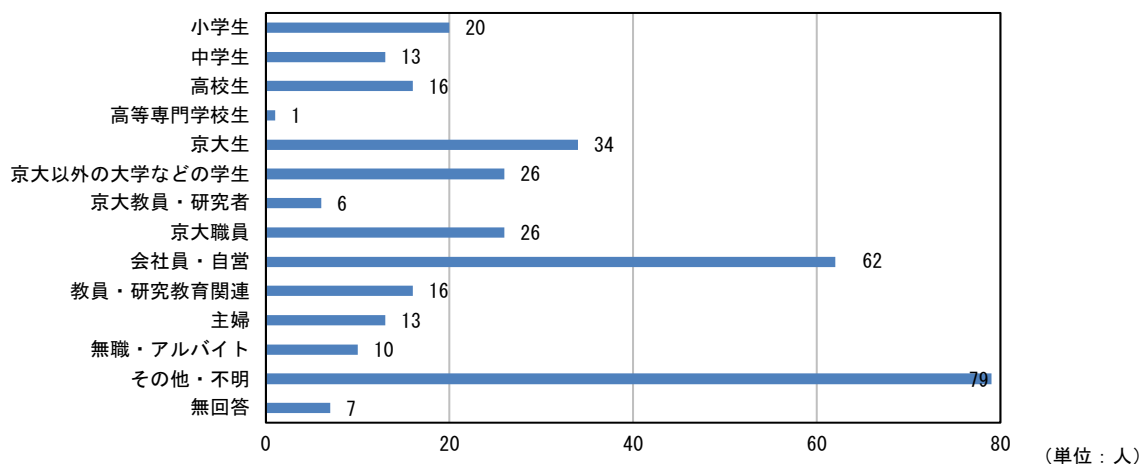
回答者数 329 人（回収率 75.3%）

● 来場者はどのような方だったのか？

・年齢層

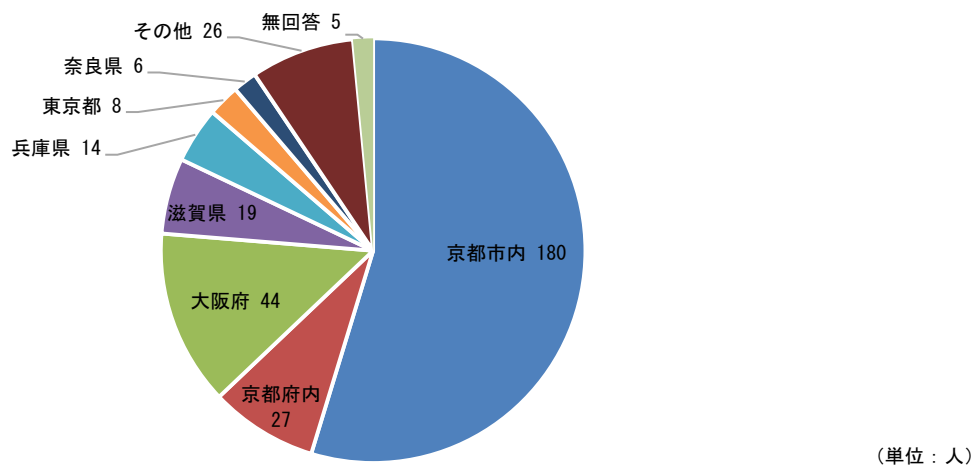


・所属



※「会社員・自営」～「その他・不明」は、アンケート設問「Q7. ご自身について教えてください。」で「⑨その他」と回答されたものより集計。「京大以外の大学などの学生」には、「⑨その他（他大学の学生）」等と回答されたもの2件を含む。

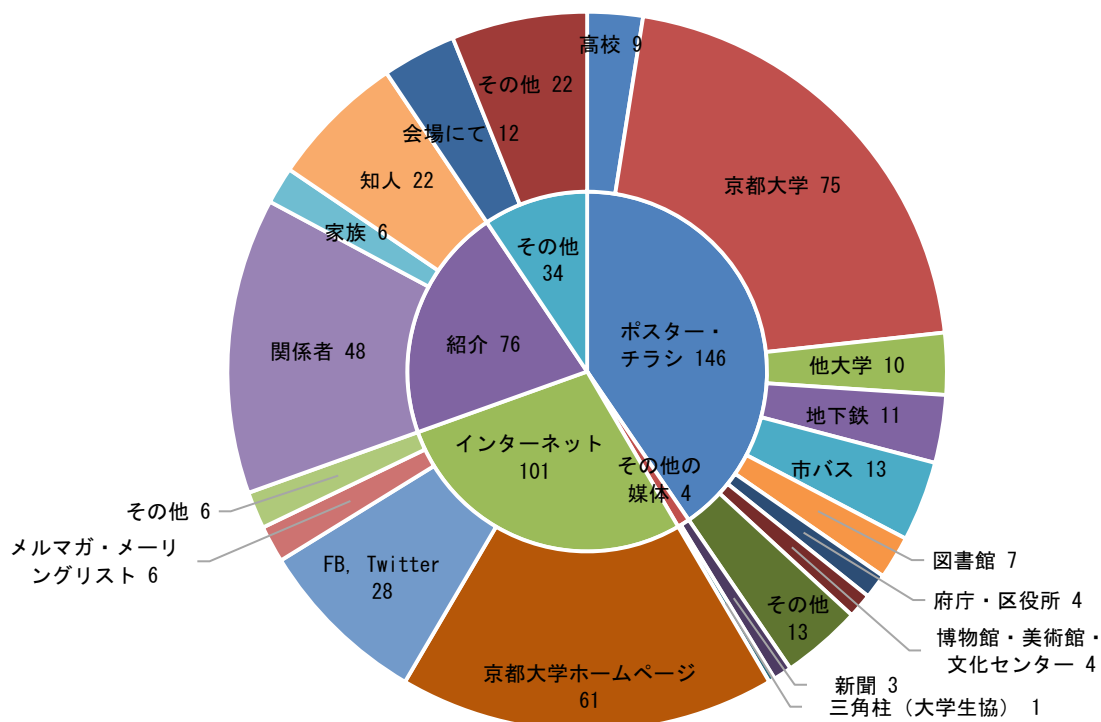
・住まい



※その他の内訳：愛知4、三重4、岡山4、静岡3、福岡2、沖縄2、北海道1、岩手1、茨城1、岐阜1、香川1、鳥取1、福島1

● 来場者は京都大学アカデミックデイをどこで知ったのか？

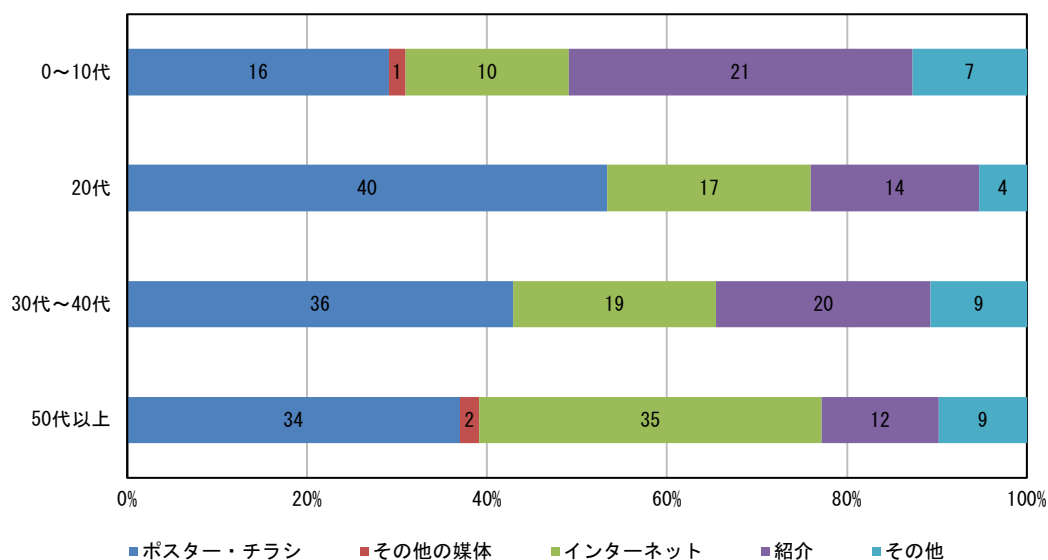
・開催を知ったところ（全体）



(単位：件)

※複数回答を含む。

・開催を知ったところ（年代別）

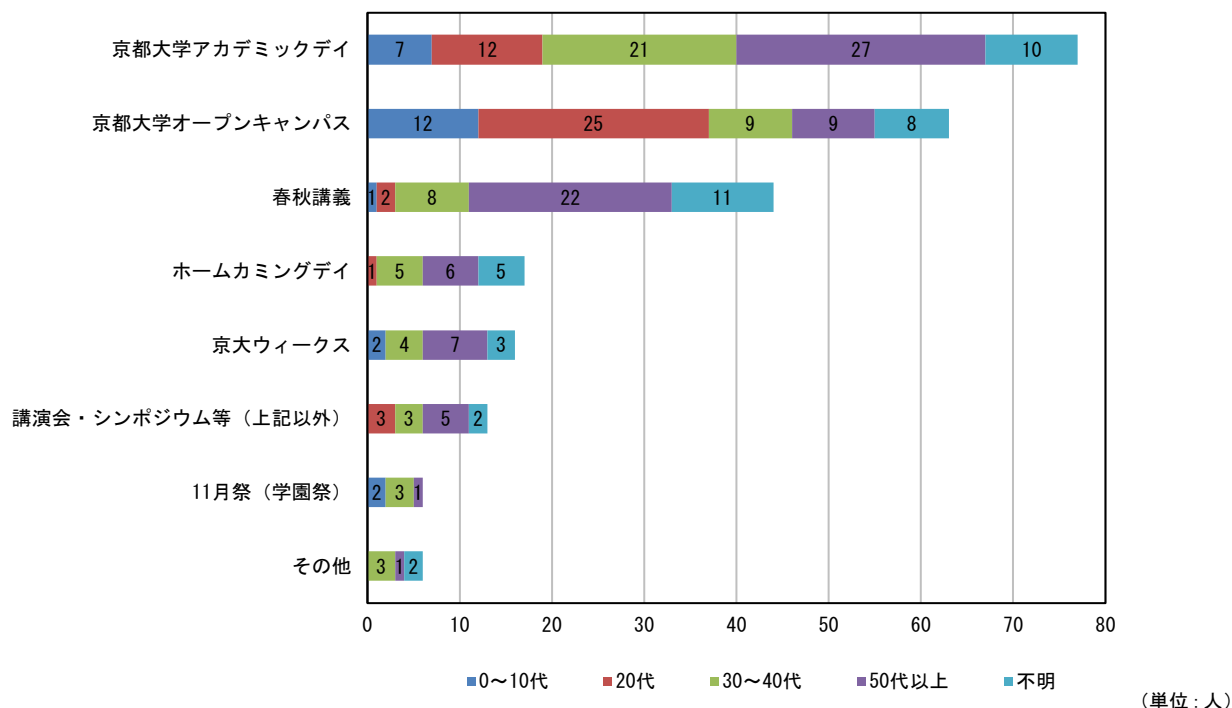


(単位：件)

※複数回答を含む。

● 京都大学のイベントに参加したことはありますか？

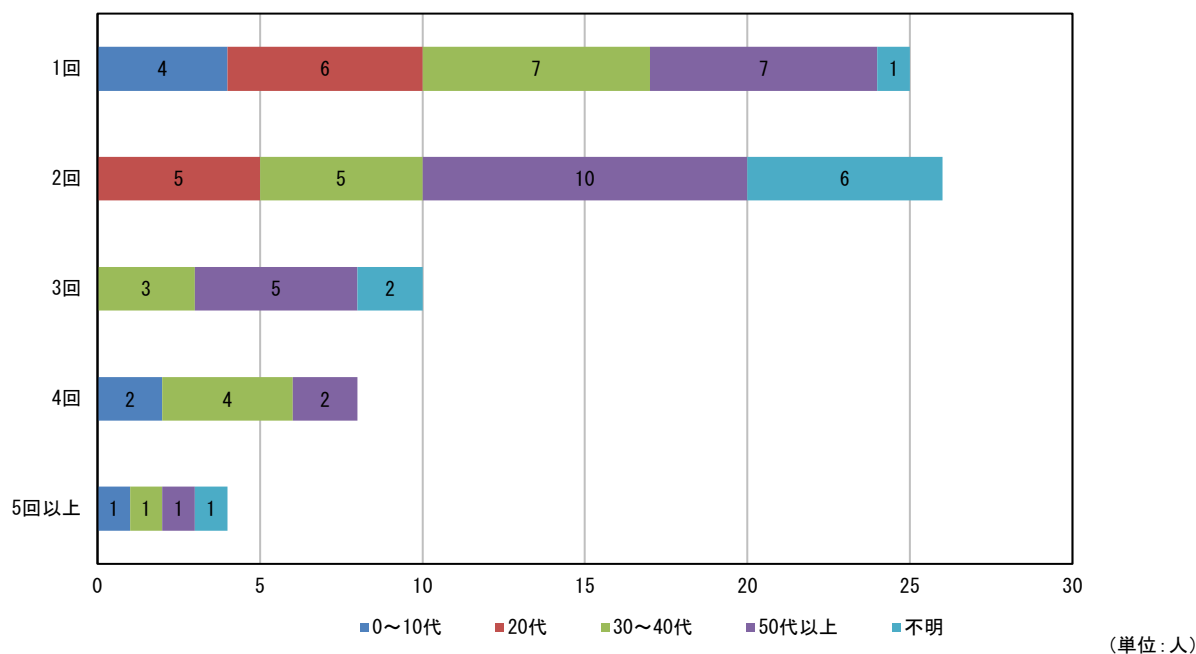
・本イベントの他に、参加したことのある京都大学のイベントは何ですか？（複数回答可）



※「講演会・シンポジウム等（上記以外）」～「その他」は、アンケート設問「Q2. 京都大学のその他のイベントに参加されたことはありますか？（複数回答可）」で「⑥その他」と回答されたものより集計。いずれの回答もなかったのは157件。

・京都大学アカデミックデイに過去に何回参加しましたか？

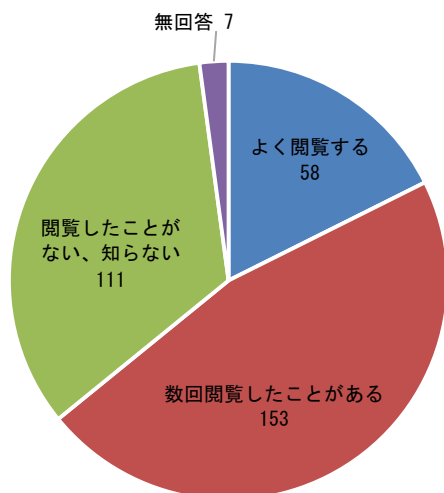
（過去に京都大学アカデミックデイに参加した方の内訳）



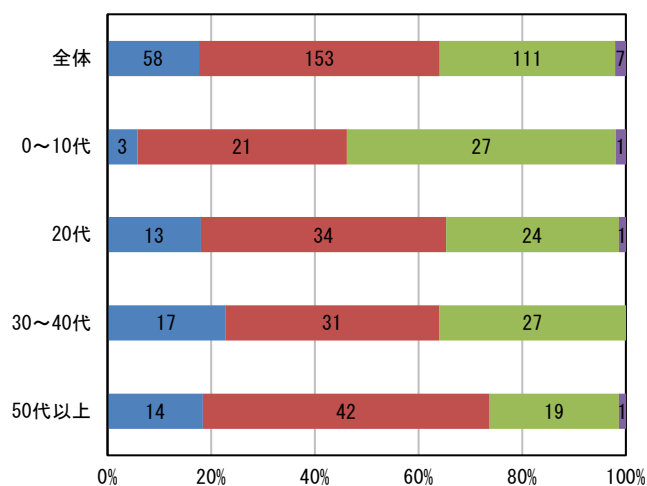
※過去の参加回数最高は7回。京都大学アカデミックデイへ過去に参加したことがあると回答があり、過去の参加回数の回答が無かったものが4件。

● 京都大学ホームページや京都大学 Facebook サイトを閲覧されたことはありますか？

・ 全体



・ 年代別



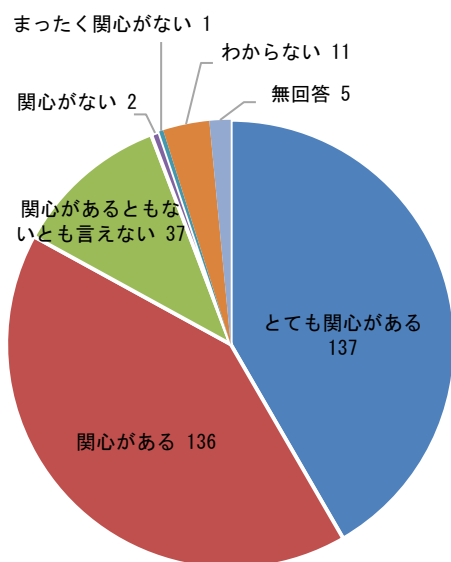
■ よく閲覧する
■ 数回閲覧したことがある
■ 閲覧したことがない、知らない
■ 無回答

(単位: 人)

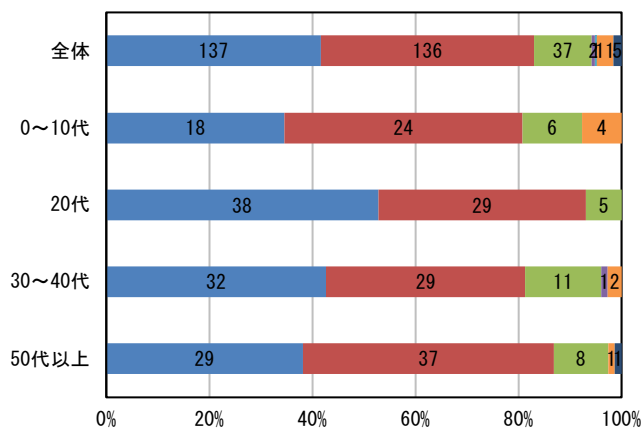
※右図(年代別)「全体」には、年齢不明データを含む。

● 科学・技術に関心がありますか？

・ 全体



・ 年代別



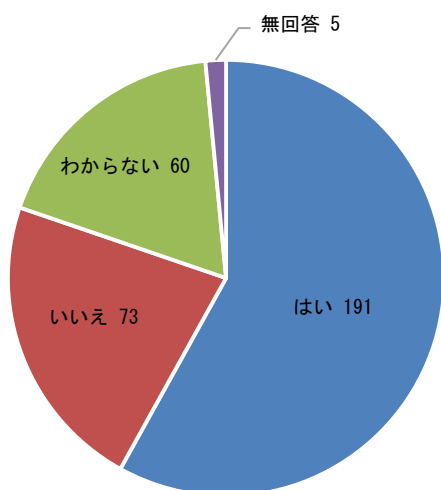
■ とても関心がある
■ 関心がある
■ 関心があるともないとも言えない
■ 関心がない
■ まったく関心がない
■ わからない
■ 無回答

(単位: 人)

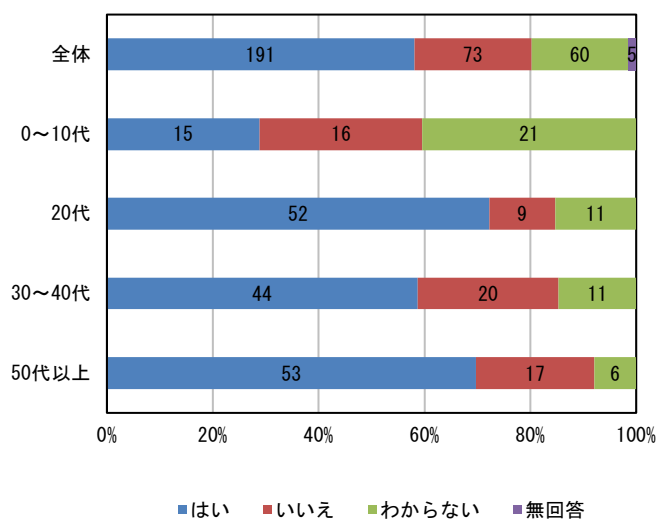
※右図(年代別)「全体」には、年齢不明データも含む。

● 科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか？

・ 全体



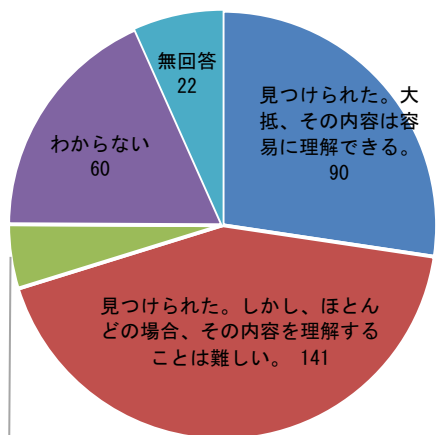
・ 年代別



※右図（年代別）「全体」には、年齢不明データも含む。

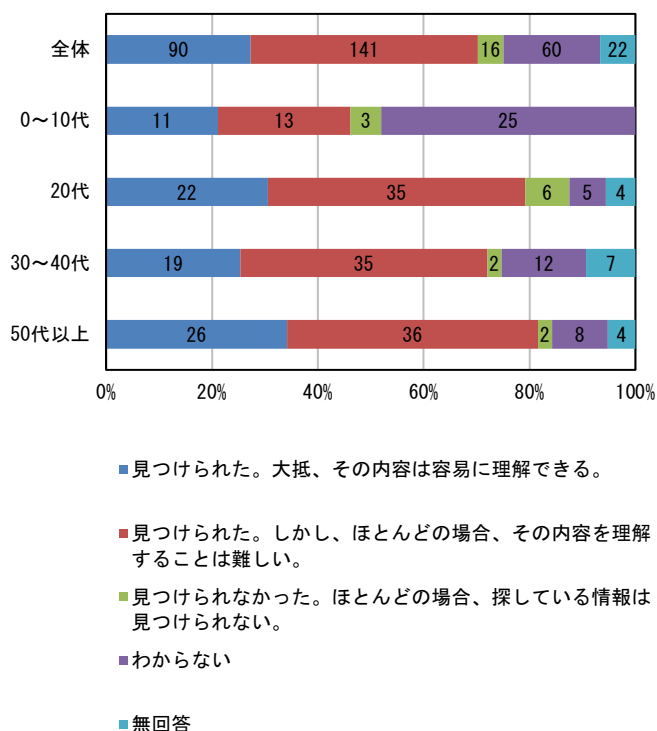
● 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？

・ 全体



見つけられなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つけられない。 16

・ 年代別



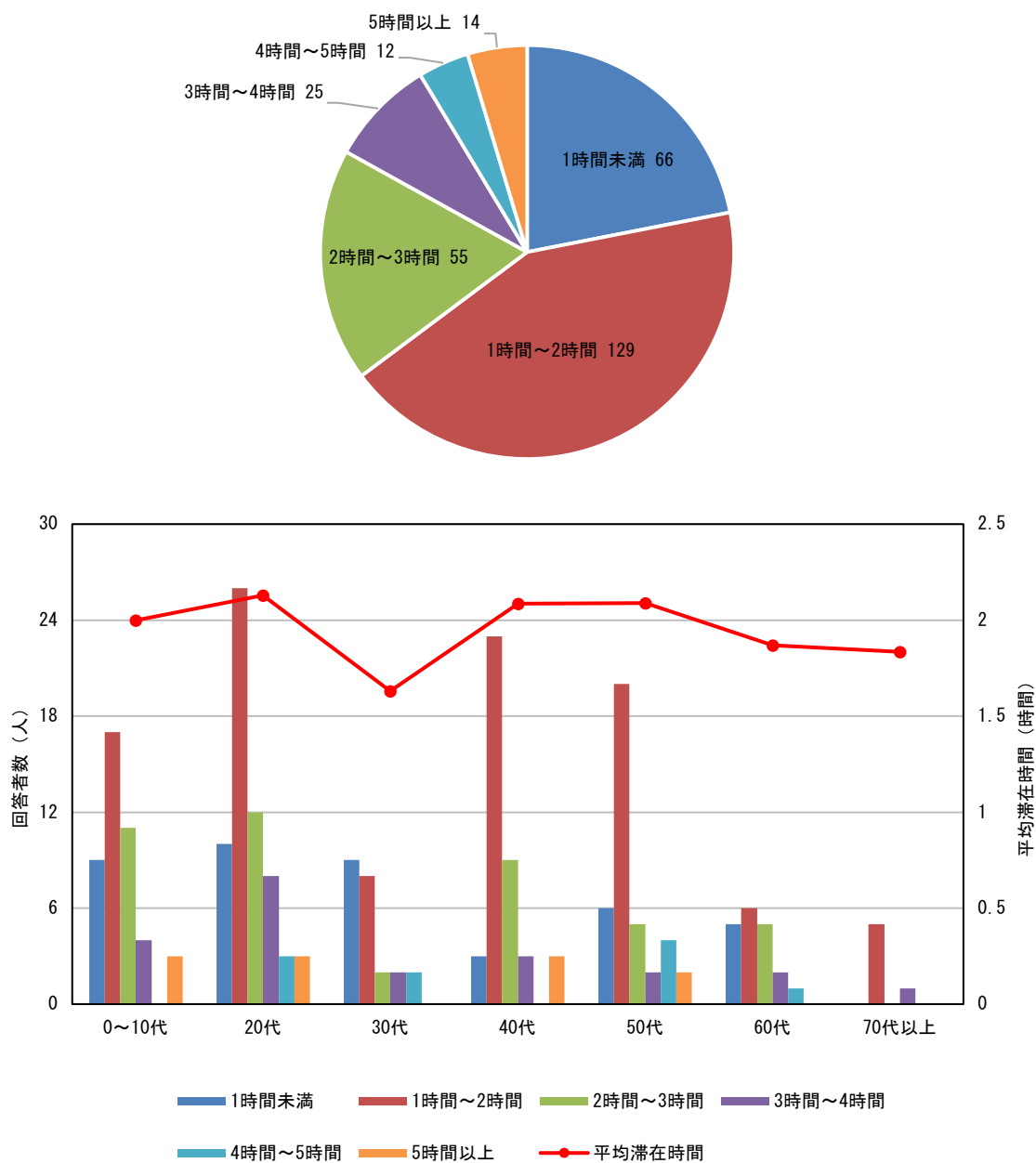
※右図（年代別）「全体」には、年齢不明データも含む。

■ 3-1-3. 「記念品と交換アンケート」の結果

来場者 437 人

回答者数 303 人（回収率 69.3%）

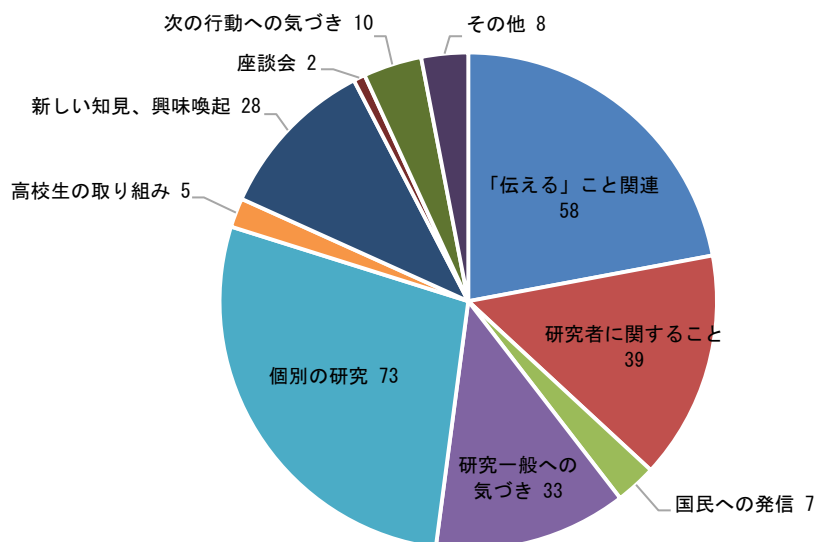
● 京都大学アカデミックデイの滞在時間はどの程度でしたか？



※平均滞在時間は、「1 時間未満」を 30 分、「1 時間～2 時間」を 1.5 時間、「5 時間以上」を 5.5 時間などとして算出。全体の平均滞在時間は、1.9 時間。無回答 2 件を除く。

● 研究者と話して、発見したこと、気づいたこと、印象に残ったことは何ですか？

・全体



(単位: 件)

・主な意見

〈「伝える」ことに関すること (58 件)〉

[身近・距離・親近感 (8 件)]

- 普段接することのない方々だったので緊張しましたが、みなさん気さくで話しやすかったです。(年代不明)
- 直接マンツーマンでお話しできたことで、今まで興味がなかった分野についても興味をもてた。(50 代)
- 体験できるブースが多くて身近に感じた。(年代不明)
- 専門家と話すのは楽しい。(30 代)
- 学生や研究者の生の声は、心を動かされます。(30 代)
- 研究ということが身近に感じました。(50 代)

[丁寧・熱心・親切的な対応 (16 件)]

- みなさん積極的に説明されようとする意欲に感動しました。(年代不明)
- 耳を傾けてくれて有難かった。質問に答えて頂けて嬉しかった。(20 代)
- 具体的に親切に説明していただきました。(40 代)
- 全くの素人に対して皆さん、とても親切に対応してくれたこと。(50 代)
- 自分の専門以外の話を積極的に聞いてくれること。(年代不明)
- 丁寧な説明と楽しく Q & A していただきました。(年代不明)
- 終わりぎわの時間のないときにも質問に丁寧に答えていただけました。(20 代)
- はじめて聞く内容のことも、熱心に教えていただいてありがたかったです。(30 代)
- 自分の研究について熱心に説明してくれたことに感激しました。研究者の方から積極的に話しかけてくれたこと。気軽に話せてよかったです。(年代不明)
- 自分の将来に関して親身にアドバイスをくれた。(20 代)

[分かりやすい説明 (23 件)]

- 学問の今をわかりやすく提示して説明してもらえた。(60 代)
- 中学 1 年生の僕でもわかるように説明してくれたのがよかった。(10 代)
- 高度な内容でもわかりやすく説明してくれてすごいと思った。今後の自分たちの研究にも生かすことができたかなと思った。(10 代)
- 話す内容が専門的になりすぎず分かりやすかった。(20 代)
- 一見難しそうでも説明してもらったことで分かりやすくなった。(20 代)
- 質問にわかりやすく詳細に答えて下さった。京大についての話も色々できた。(20 代)
- かみくだいて説明してくださったので、とっつきやすかった。(20 代)
- 精一杯わかりやすい単語を選んでくれた。(30 代)

- わかりやすく積極的に来場者の方と話されていた点。(30代)
- みなさん一生懸命わかりやすく伝えようとしていたこと。(50代)
- とても誠実にわかり易くご説明して頂きました。有難うございました。(60代)
- わかりやすく伝えてもらえ、よくこちらのつたない話を聞いてくださったこと、とてもありがたく楽しかった。
(年代不明)
- 最前線の研究について分かりやすいことばで楽しくお話して下さったのが印象的でした。(年代不明)

[プレゼンの仕方・工夫など (5件)]

- プレゼンの方法を学ぶべきでは。(特に若い人は一から十まで細かく全て話そうとする。相手との会話からしぼるべきポイントを見つけることも必要では?) (50代)
- タイトル大事ですね。(年代不明)
- 話し方が上手な人が多かった。(20代)
- 自分の研究についてしっかりとプレゼンテーションしているところがすばらしかったと思います。知りたかったことがよくわかりました。(50代)
- ポスターの頭に結論 or 研究の有用性についてかいてほしかった。(40代)

[困難 (4件)]

- わかりやすく説明して頂いたが、ものすごく細かい研究に感心する事しか出来なかった。(70代)
- 難しかった。(10代)
- 少し専門的すぎてわかりにくいところがあった。(60代)
- すべてはわからないが少しわかった。(30代)

[その他 (2件)]

- 自分の研究について、しっかり知っているからこそ、分かりやすい説明ができているなあと思いました。(10代)
- 同じブースの方でもいろいろちがう話をされていた。(年代不明)

〈研究者に関すること (40件)〉

[生き生き・楽しそう (15件)]

- 皆さん研究の話をイキイキと話しておられ、たのしかったデス。(10代)
- キラキラしていました。(40代)
- とても楽しそうに自分の研究を話していた姿が印象的でした。(年代不明)
- 楽しそうに、好きな研究に取り組んでいて、いいな、と思いました。(年代不明)
- おもしろい事を研究している人はイキイキしていた。(年代不明)
- 皆さん楽しそうに自分の研究分野のことを話されていたこと。(20代)
- 楽しそうに研究していると感じました。(20代)
- みなさんが楽しそうに話されていて、研究することの良さを感じました。(30代)

[真剣・夢中・熱意 (10件)]

- 真摯に研究に取り組んでいる姿が印象的でした。(30代)
- 真剣であること。主張に力がこもっていたこと。(40代)
- 本当に京都大学の先生方が1つのことに夢中になって研究されている様子が分かって良かったです。(50代)
- 京大の研究者、熱意がありました。(50代)
- みなさん、熱い!そして(意外にも)気さく。来られて良かったです。(50代)
- 研究に対する熱意が感じられました。(60代)
- 皆さん熱心だった。(60代)
- “情熱”がある。(50代)

[その他の研究者の印象 (14件)]

- いっぱい勉強してはる。(10代)
- 28番の研究。イシガメをさがしに行ったのがきっかけで、魚を増やすための研究をすることになったこと。傷を負ったイシガメを大切に育てているとっても優しい子で、温かい気持ちになりました。(10代)
- 目がこわい。(20代)

- 個性的な人が多かった。(20代)
- 1番の研究で I'm very excited about possibilities for the future! (20代)
- 京大の先生方は未来を背負ってると感じた。(40代)
- 皆さん面白い人ばかり。(40代)
- いろいろな課題と向き合っていると思った。(40代)
- 病気や環境問題に関して今より良くしようと考えておられる方がたくさんおられ勇気づけられました。(50代)
- 1つのテーマをきっかけに次々と研究を深めていかれる姿に感銘を受けました。(60代)
- 皆さんお話上手です。(年代不明)
- ふだん何気なく見逃してることなどにも着目されているのだなと。奥が深くてまだいろいろききたいです。(年代不明)
- 現状をかえる意識が高い。(年代不明)
- ちゃんと目的をもって研究していたこと。(年代不明)

〈国民への発信 (7件)〉

- 社会との接点として必要。(60代)
- レベルが高いと同時に社会貢献の意義を感じた。(年代不明)
- 日常で分かったつもりになっていたことに対する正しい認識が少しでも得られたことは喜びでした。(40代)
- 知識や考えが専門領域に限定され、社会的な広がり(応用や他機関での動向等)に対する関心が不十分では、と感じることがあった。(50代)
- 学術的興味だけでなく、これで何ができるのかという未来への展望が面白かったです。(20代)
- すぐに社会に役立つ研究もだいじだが長い目で見て基礎の研究の大切さを感じた。(年代不明)
- 地道な研究が私達の生活や命に役立っていることが改めてわかりました。(50代)

〈研究一般への気づき (33件)〉

[多様な研究 (11件)]

- 研究者の方々の研究内容は十人十色でどれもとてもおもしろかったです。「へえ～」と思うことや「これってよく考えたらすごいことなんじゃ…」と思うことがたくさん。(10代)
- 色んな研究があるなと思いました！(40代)
- 様々な研究があって、社会に役立てられていること。(40代)
- 京大では将来が楽しみになるような、面白い研究テーマが多くあるなと感じました。(年代不明)
- こんなテーマもあるのか！というものばかりでした。(10代)
- 多くの研究者の方がいろんな分野のことをされていること。(40代)

[分野のつながり (8件)]

- 研究の中には、文系、理系といった区分を超越したものが意外と多くあるのだなと思った。(20代)
- 関係ない分野だと思っていたこととつながりがあったこと。(10代)
- 見たこともない研究も数多くあり、どれも連関していることが興味深かったです。専門バカにならないことも研究には大切なのだと思いました。(20代)
- 普段接しない文系の研究にも理系の研究者が関わっていることが多いこと。(20代)
- 分野間にどこかしらつながりがあるな(だからどれも興味深いのかな)と思いました。(20代)
- 自分の専攻外分野でも、共通する点などがあり面白かった。(20代)

[その他 (14件)]

- 同じ研究者でも立場や研究背景によって問題の解決や解決へのアプローチが違ふこと。当然ではあるが面白かった。(40代)
- それぞれの分野で解明できていないことがまだまだあるけど、すすめていってほしいです。(60代)
- 研究とは、その分野が本当に好きな人のみが続けられるものだと感じた。(20代)
- 地球の何かを良くしたい、そんな種がたくさん並んでいる、そんな感じでした。(10代)
- 研究内容そのものが印象的なものが多かった。(年代不明)
- ふだん自分の研究分野とは異なる多岐に渡る分野の人達の着眼点がおもしろかった。(年代不明)

- 目をそらしてはいけない問題もあるなあ。(40代)
- 新しいステージに進むには工学的に技術や機器が実現される必要があるということ。(50代)
- 実証的。(50代)
- ディープってこと。(50代)
- 利益がない研究とは何かを考えた。学問科学とは何か。(年代不明)
- 何でも研究材料になる。(40代)
- まだわかっていないことがたくさんあるんだなと思った。(20代)
- 研究されてないこと、未解明なことも多いんだと思いました。(年代不明)

〈個別の研究 (73 件)〉

- アルミニウムのかたさにびっくりしました。(10代)
- 全然分からないテーマもあったが、身近なテーマもあり、「世界にあふれる究極の選択」が面白いテーマで印象に残っている。(10代)
- (10番の展覧について) デジタル教科書について様々なことを知って、教師→生徒だけでなく生徒→教師、生徒→生徒の使い方など新しい考えが得られた。(10代)
- (7番の展覧について) いろはすと上流の水が同じくらいのきれいで、水道水は結構汚れていたこと。(10代)
- (15番の展覧について) 研究者と話した後、パーキンソンの病気に新しい認識が出てきた。(10代)
- 「究極の選択」について、現実の問題を解決するにあたって深く考えるきっかけとなったな、と感じた。(20代)
- (45番の展覧について) ストレスを測る機器はすごく不思議です。(20代)
- ロボットの作りは非常に哲学と深い関係があることがとても不思議です。(20代)
- 動物モデルをつくったとき、人と異なる点がいろいろあること。(20代)
- 宇宙関連の研究がどんどん実用段階に進んでいることを知りわくわくしました。(20代)
- 「ひきこもり」の心理を理解するゲーム「安心からの脱出」で思考の循環という言葉にすごく共感しました。(40代)
- 子どもの多様性、学びと教える未来等、すべての子どもが生きやすい社会になって欲しいと思いました。(40代)
- “価値観と生活習慣、つながる脳”は、身近な題材を面白い視点でとらえていて、印象に残りました。(年代不明)

〈高校生の取り組み (5 件)〉

- 高校生の方もいておどろいた。(20代)
- 高校生研究者と話していて、自分が高校生だったときとは桁違いのレベルの高さで感動した。(20代)
- がんばる高校生をみてうれしかったです。(50代)
- 高校生が真剣に研究に取り組んでいたのが印象的でした。(50代)

〈新しい知見、興味喚起 (28 件)〉

- 新しい事を知りました。(60代)
- 普段知ることのないことを聞けてよかった。(年代不明)
- 毎年参加してますが、同じテーマでも新しい発明・発見があり、すごいなあと思っています。(年代不明)
- 色々な知識を得ることができた。(30代)
- 世の中にはいろんな問題がある。(40代)
- 裏話や、面白い話をきけてうれしかったです。(20代)
- とてもおもしろかった。(20代)
- 文系・理系問わず面白い。(50代)
- 科学楽しい。(20代)
- 科学の進歩を感じた。(20代)
- やっぱり学問は良いな～。ワイも学生になりたい。(20代)

- 自分の知らない分野について興味を持てた。(20代)
- 自分の興味のあるブースが多かったので、話が弾むことが多かった。(10代)
- 皆さん興味深い。(70代)
- 最新の研究を分かり易く知る事ができた。(20代)
- テレビなどで知っている研究などよりももっと進んだ、最先端の科学を知ることができたのが楽しかった。(10代)
- 最先端科学のすごさ。(50代)
- 様々なジャンルの本を読んでみようと思いました。(20代)
- アカデミアと企業の交流の話。様々な分野の人と話せておもしろかった。(20代)
- 先端研究の片鱗。(70代)
- すごく専門的なお話がきけてよかったです。(30代)
- ふだんとは違う(であろう)研究者と話せて良かった。(年代不明)

〈座談会 (2件)〉

- 座談会に参加しました。各業界の方からの多面的な意見が良かったです。(40代)
- 社会人でも研究者としての道もあるという事を改めて感じる事ができた。(年代不明)

〈次の行動への気づき (10件)〉

- もっと勉強して、話しの内容を理解し、わからないところを質問できるようになりたいと思いました。(30代)
- もっと話したかった。自分も勉強しなくてはと思った。(40代)
- 全く知らない分野のことを知れて楽しかった。自分の価値観が限られたものであることに気付いた。もっと自分の専門を学ぶべき、学びたい、と思った。(20代)
- 学問や研究との向き合い方やその変遷は人それぞれで、これから自分なりに選んでいけたらいいな、と感じた。(20代)
- どのような方向性で将来を考えればよいか分かった。(年代不明)
- 自分の知っていること+αの知識にふれることができたり、様々な視点をもつきっかけになりました。(20代)
- 普段あまり関わりのない研究分野の話聞いて、自分の分野に通じる点も多く、さまざまな分野を知ることが大切だと感じた。(20代)
- 楽しく会話出来た。興味のあるコーナーで自分の活動に利用させていただこうと思った。(70代)
- 情報を活用することの大切さを学びました。(20代)
- 様々な研究が人の生活を豊かにしているし、いつまでも探究心は大切だと感じました。(50代)

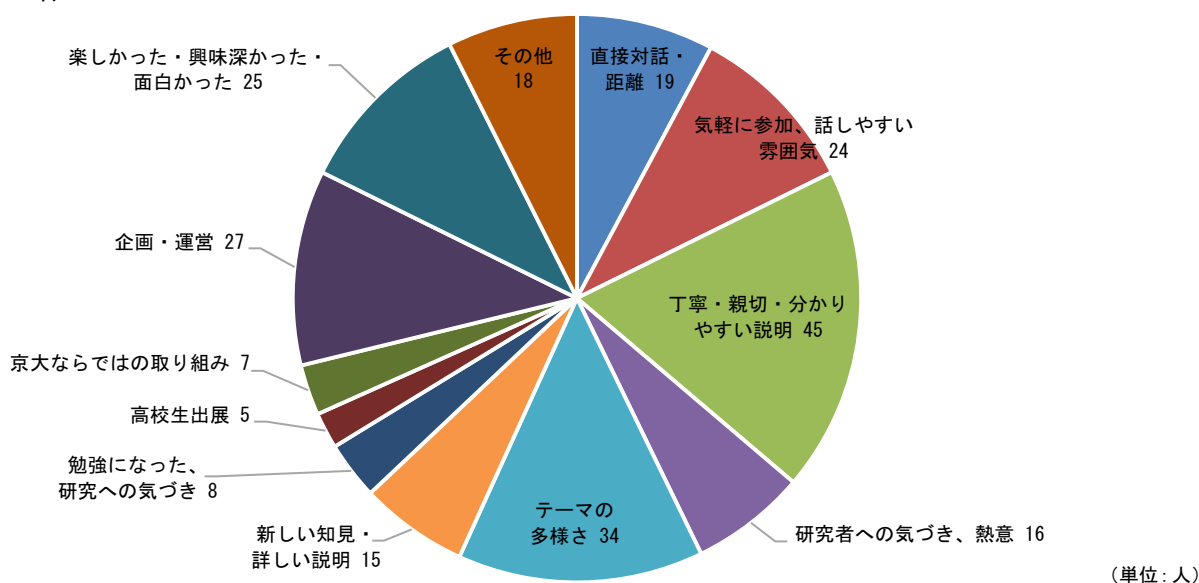
〈その他 (8件)〉

- みなさん年代を問わず、交流されているのが印象的でした。(30代)
- 最先端の研究が京大で沢山されていて、優秀な人が沢山いて、自分はそんなすばらしい環境の大学にいると気づけました。(20代)
- 日本の未来は明るい。(60代)
- マニアックであればあるほど面白い。(50代)

- 「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。

〈良かった点〉

・全体



・主な意見

研究者との直接対話・距離 (19 件)

- 研究者との距離が近く良かった。(年齢不明)
- 研究者に直接話がきけた。(10 代)
- しっかりと面と向かってはなせるところ。(10 代)
- 研究職を目指す者として、現役の研究者に直接やりがい等を聞くことができたのは非常に有益だった。(20 代)
- 「研究者」としてだけではなく「個人」として話してくれる場面が多くタメになることをたくさん聞ける点。(20 代)
- いろんな分野の先生方のお話を対面で個別にお聞きできてよかったです。(30 代)
- 研究者から直接詳しく話がきけたこと。(40 代)
- 今まで気になっていた研究の当事者と話せた。(40 代)
- 研究者とフランクな対話ができた。(60 代)
- 普段話せない研究者の先生方と直接話せるところ。(年齢不明)
- 専門的な話が直接聞ける。(年齢不明)

気軽に参加できる、話しやすい雰囲気 (24 件)

- しゃべりやすかった。(10 代)
- 活気があって話しやすかった。(年齢不明)
- 気軽に楽しく研究者と交流できた点。(年齢不明)
- 話しかけやすい環境。(20 代)
- にぎやか、質問しやすい。ポスターも簡単そう、一般向けに工夫されているのが多い。(10 代)
- 過ごしやすい雰囲気。(20 代)
- オープンに皆さんが語り合える雰囲気。(50 代)
- フレンドリーな空気でした。(50 代)
- 平易な言葉で話せた。(年齢不明)
- 気軽に参加出来る。(20 代)
- 申込不要で、気軽に来られる。(50 代)
- 気軽に色々な研究ブースに行けた。(20 代)
- みなさん気軽に声をかけていただいてまたわかりやすく解説してもらえて楽しいひとときを過ごせました。(50 代)

- 気さくに話してくれたこと。(40代)
- 研究者の方から積極的に話しかけて頂けた点。(20代)
- Welcoming to those (like me) who know nothing about the research but are curious. (20代)
- 小さな子どももウェルカムな点。(40代)
- ふと足を止めるとすぐに声をかけて下さるので、お話しやすかったです。(年齢不明)

丁寧、親切、分かりやすい説明 (45件)

- 学生が親切でした。(40代)
- どの研究者の方も親切にお話して下さった。(50代)
- 素人にもなんとかわかりやすく伝えようと努力してくれる研究者の皆さんに感謝します。ありがとうございます！(10代)
- わからなかったところをていねいに教えてくれた。(10代)
- どんな質問でも丁寧に返して下さったこと。(10代)
- どの展示も見やすく、ていねいに説明して下さったこと。(30代)
- 研究者の方やスタッフが丁寧に対応してくれた。(50代)
- 皆さん丁寧な説明をしていただき、よくわかりました。(60代)
- わからなかったことをていねいにお話ししてもらってたのしかったです。(年齢不明)
- 各ブースの研究者の方が丁寧に説明して下さり、楽しかったです。興味深い研究がたくさんありました。(年齢不明)
- 質問しても分かりやすく回答してくれる。(40代)
- わかりやすくおしえて頂きました。質問にも答えて頂きました。(40代)
- 子供にもわかりやすい実験や内容があった。(40代)
- すごいです。素人にもわかりやすく説明してくれる。(10代)
- 色々な分野で細かく説明できていてよかった。資料やパソコンなどを使っていてすごく分かりやすかった。(10代)
- 身近にあることに着目していて、わかりやすかった。(10代)
- 話しやすい雰囲気とわかりやすい説明。(10代)
- みんな話をきいてくださり、かつ専門的な話を分かりやすく話して下さったこと。(20代)
- 今回はわかりやすいパネル説明が多かったです。(20代)
- 専門の人じゃないとわからないかと思って来ましたが、素人にもわかりやすく説明していただいて、安心しました。(50代)
- 先生方がきさくで、わかりやすく説明して下さったこと。(50代)
- 難しいことをわかりやすくまとめてお話して下さるところ。(子どももこういうふうになれるようになってほしいと思いました)(50代)
- 展示が分かりやすいと思いました。(60代)
- 多くの説明が素人にもわかりやすく書いてあった。(年齢不明)
- 出展者の方に本当に良くわかるように説明していただき助かりました。(年齢不明)
- 一つ一つの出展が分かりやすかった。(年齢不明)
- 明るい、解り易いブースが多い。解り易い内容にして説明してもらった。(年齢不明)

研究者への気づき、熱意 (16件)

- どの出展も活き活きとしていて面白かった。(20代)
- 若い人のエネルギーを感じることができました。(60代)
- 研究内容、視点、好奇心の量や熱がすごかった。(年齢不明)
- 熱があって大変よかったデス。もっと早く来ればよかった。次回も来ます！スペースも good. (年齢不明)
- 熱意のあるプレゼンでどれもおもしろかった。(20代)
- 熱気があった。(年齢不明)
- 研究者は全部熱心です。ゆっくり話してくれました。(20代)
- 熱心に研究されている事柄を説明して下さる熱量がすごいと感じました。毎年楽しみにしています。(50代)
- みなさん、夢をもって研究されているようでした。(60代)

- みなさん、関係者の方や属している会社にこだわらず、色々と正直にお話しをされていておどろきました。まだまだ教育・大学は大丈夫なんではないかと思いました。(40代)
- いろんな分野で夫々みなさんが頑張っておられることを知ったこと。(60代)
- それぞれの研究者が日々、自分の探求したいことに向きあっているのがわかりました。大切なことだと思います。(年齢不明)

出展テーマの多様さ (34件)

- 色々な分野の人と話すことができる。(10代)
- 高校生から研究者まで色々な人の研究を見たり体験できてよかったです。(10代)
- たくさんの分野のブースがあった。ブースの人が沢山話してくれて、こちらもいろいろと聞きやすかった。(10代)
- 文系・理系様々な分野があり知的好奇心が満たされた。(20代)
- いろんな分野の人と話せて自分の興味を得た。(20代)
- 文・理両方の分野が見れた。(20代)
- 幅広い分野の研究者と直に話せたところ！(20代)
- 多分野が集結してる。たった一日にこれだけのしかも、詳しい人たちから学べるなんて、ぜいたくすぎる！(20代)
- 内容が多様にあり、自分の私見の狭さに気付かせてくれた。(30代)
- 普段あまり知らない広い分野の話聞けるのはとてもおもしろい。(50代)
- 人文系のブースもあった点。(50代)
- いろいろな研究分野を一部屋で知ることができたこと。(年齢不明)
- 色々な研究があることが分かりました。(年齢不明)

新しい知見、詳しい説明 (15件)

- 未知の世界でした。(40代)
- 新しい研究がわかった。(60代)
- 未知の視点・分野に触れることができ、今後の学問への新たな知見が得られる非常によい機会でした。(20代)
- 知らない分野や分野間研究を知れたこと。(20代)
- 詳しい説明を専門の先生方から教えて頂けてとても良かったです。(20代)
- このようなイベントで誰でも最新の技術や学術を理解する機会を与えることは一番いいところだと思います。(10代)
- 最新の科学に触れることができた。(年齢不明)
- 大学が行っている研究内容を知ることが出来た。(50代)
- 専門のお話が聞けて楽しかったです。(年齢不明)
- 新しい知識を得たり、また若い頃に学んだ学問を思い出させてもらった事。(10代)
- 普段知れないことを知れた。(年齢不明)

勉強になった、研究への気づき (8件)

- ポスター、プレゼンどれもおもしろかった。研究ってすごいと思った。(30代)
- 勉強が出来た事。まだまだやれる事がわかった事。(70代)
- 多角的に様々な分野を学ぶことが出来た点が素晴らしく感謝しております。(10代)
- 普段ふれることの出来ない研究を少し身近に感じられた。(50代)
- 日頃考えなかったことを考えた。(50代)

高校生出展 (5件)

- 高校生の研究が本格的で毎年おどろかされます。がんばれ若人！(10代)
- 高校生の参加があったのもよいと思います。(20代)
- 高校生に門戸を開いている点。(50代)

京大ならではの取り組み (7件)

- 他大学ではできない京大ならではのすばらしい企画。是非継続してほしい。子供をつれてきたい。(40代)
- 京大を身近に感じられた。とてもいいことだと思う。ずっと続けてほしい。(50代)
- 子供から老人まで全ての人に開かれている。京大は門戸を大きく広げて待っていてくれるのがいい。(60代)

- 社会に開かれた大学を体現した取り組み。(年齢不明)

企画・運営に関するもの (27 件)

- アンケート用紙の仕組み。(素材、システム、内容が適度) (30 代)
- すわるところがたくさんあってよかった。(70 代)
- 企画そのもの。(年齢不明)
- このサイズで研究をしている人と話ができるのは貴重な機会。子供(高校生)より親の自分が楽しかった。(40 代)
- 記念品。(20 代)
- コンシェルジュが若い参加者にとっても親切で良かったです!! (50 代)
- ちゃぶ台は楽しいです。(年齢不明)
- ちゃぶ台 talk 気楽にお話が聞けた点。(年齢不明)
- パンフレット等充実しており、ドリンクのサービスもありが良かった。(20 代)
- ドリンクチケットが何度も使えた点。(20 代)
- 飲みものブースや休けいのイスもあり長時間いてもたくさん回れた。(40 代)
- 飲料もあって話を聴きやすい雰囲気が良かった。(50 代)
- ドリンクもあり、リラックスした中でお話ができました。(50 代)
- free drink 片手の会話。(60 代)
- ポスター間隔が広い(圧迫感がない)。ポスターに統一感がある(研究者のひとことなど)。(30 代)
- スペースに余裕があって混み方もちょうどよかった。(40 代)

楽しかった・興味深かった・面白かった (25 件)

- 何のためにやっているのか明確できいておもしろかった。(20 代)
- いろいろなおもしろい課題を見た。(20 代)
- 普段知る機会のない分野に触れることができおもしろかった。(40 代)
- 全く興味がなかった研究のことをわかりやすく説明してもらい、興味がわいた。(10 代)
- 子供が興味がわくようにディスプレイされているブースはよかった。(10 代)
- 異分野に興味をもてたこと。(20 代)
- 一般人にも興味のある内容のテーマが多かった。(40 代)
- とにかく好きな話をきけて、研究者の皆さんもとても親身に話をしてくれるのでとてもたのしかった。(10 代)
- 毎年とても楽しい。(40 代)
- 年をとわず楽しめるポイントがあったので良かったです。(年齢不明)
- 楽しいお話、興味深いお話をいっぱい聞けました。ありがとうございました。(年齢不明)
- 今年もお疲れ様でした。在学中より、楽しく参加させて頂いております。(30 代)
- みんなたのしそだった。(40 代)
- 今年も楽しかったです。(もっと時間をかけてやってほしいくらい) (40 代)
- 入り込みやすく楽しかった。(50 代)
- 楽しさが伝わった。(20 代)

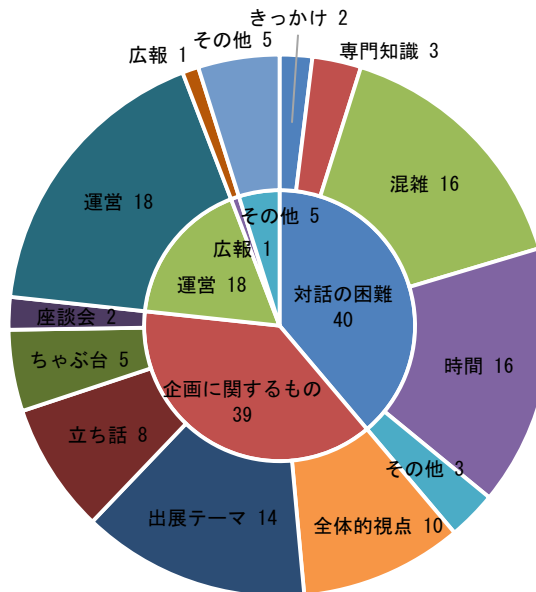
その他 (18 件)

- 日本人以外の方もいた。(30 代)
- まだ規模が小さいのでこれからの発展に期待。(60 代)
- 持ち帰る用の資料があった点。(20 代)
- 毎年(今回 3 回目です)入れ替わりがあり新鮮。(50 代)
- たいけんできたのがよかった。(10 代)
- お世話になった方に会えたこと。(20 代)
- ポスターのデザイン。(20 代)
- 科学に興味のある全ての一般の人にとって有益だと思う。(20 代)
- 来て良かったです。またこのような機会があれば参加したいと思います。(50 代)
- 若い人が大勢来場しています。(50 代)
- いっぱいきけた。(20 代)

- 大学院の話を聞いたこと。(20代)
- 学会のパネルディスカッションのようでよい。(50代)
- もっといろいろ話をききたく、また開催してほしい。(年齢不明)

〈悪かった点〉

・全体



(単位：人)

・主な意見

「対話」に関して、困難を感じたこと：きっかけ (2件)

- 話しかけるのをためらう人がある。(20代)
- 何を目的にしている何を伝えたいのか等が不明瞭で話しに入れなかった。(20代)

「対話」に関して、困難を感じたこと：専門知識 (3件)

- たまに専門的すぎる。(年齢不明)
- ちょっと話が難しい。(10代)
- 興味持てるが少しむづかしいか・・・。(50代)

「対話」に関して、困難を感じたこと：混雑 (16件)

- 人気の展示に研究者が少ないということがあり、よく見えなかったり、説明をうけられないところがあった点。(20代)
- 出展者が他の人と話しているとなかなかその出展についての話をきけなかった。(20代)
- 先生と話するのに、順番を待たなくてはならない。(20代)
- ブースによっては、いつ訪れても人が多く話が聞けなかったこと。(40代)
- 他の方が話し中で待ちがあり、どれくらい待つかわからない。(40代)
- 話を聞きたいと思った時に、すでに話されていてなかなかお聞きできなかったこと。(10代)
- わりとこんで入れないところがあった(しかたないけれども...)。(年齢不明)
- ざつ音が大きく、研究者の方の音が聞こえないことがありました。(20代)
- 少しごちゃごちゃしていると感じました。(年齢不明)
- 周りがさわがしくて話がききとりづらかった。(20代)
- 遠くからだ話が聞こえにくいブースもあった。(20代)
- 特になし。会場がせまい？(40代)

「対話」に関して、困難を感じたこと：時間 (16件)

- 魅力的なブースばかりでじっくり学ばせて戴きたく二日間開催して戴きたいです。(10代)
- 1年に1回はもったいない。(40代)

- もう少し話をしたかった。(年齢不明)
- 時間が足りなかった。もっと話をききたかったです。(30代)
- 時間が倍でも良かったかも!! (40代)
- 開催日程や時間を長い目にしていただければ更に良いと思いました。(50代)
- 子供の学校があったのであまり時間がなかったです。祝日など休みの日だと来やすいです。(50代)
- 時間をもう少しおそくまでやってほしい。(20代)
- 5時までしてほしかったです。(50代)

「対話」に関して、困難を感じたこと：その他 (3件)

- 説明が長い時がある。(40代)
- 自分の来た時間が遅かったのもあるが、もう少し全体的に説明の対応をする人を増やしてほしい。(10代)
- 1回のポスタープレゼンが長くなってしまうので、途中から入りづらかった。(20代)

企画に関するもの：全体的視点 (10件)

- 夏休みの前だったら、小・中の子たちの刺激や参考になりそう。(10代)
- 子供がもっと来やすいと良いと思います。体験コーナーとか。(10代)
- 良い悪いじゃないですがミニプレゼンステージがあってもよかったかもしれません。ひとつひとつ回って聞くのは時間が足りない。(年齢不明)
- もう少し専門的な、学問の深淵を感じられる場があってもよいと思う。(年齢不明)
- 日本語ばかりで外国人にとって分かりにくいかも。(20代)
- (賞だけではなく素朴な疑問など) ポスターへのフィードバックを来場者がもっとできる工夫があるとよいと思った。(30代)
- 対象は研究に関心ある人たち?一般人には、とっつきにくい感じが少し。テーマのサブ・タイトルをもう少しわかりやすくするか、キーワードを出すと入りやすいです。(40代)
- エリート向け。(年齢不明)
- その発表している研究者がどういう方なのかの情報が見えるようになっているとよいと思いました。(年齢不明)
- 研究者と(今後)どうコンタクトすればよいかポスターにあればよかった。(30代)

企画に関するもの：出展テーマ (14件)

- 昨年度と同じ発表がちらほらある点。前年度の指摘をふまえ、調査・考察を加えてほしい。(20代)
- 今度の分野はちょっと少ない…。(20代)
- ちょっと少ない。もっとおもしろい研究が出てほしい。(20代)
- 文系の研究者の話をもっとききたかった。(20代)
- 文学部の研究がほとんどない。(60代)
- 経済、経営系の出展がほしい。(20代)
- 情報科学についての研究課題が少ない。工学以外の課題がちょっと少ない。(20代)
- 情報関係のポスター展示が少なく、それを一つの目的に来たので少し残念でした。(50代)
- 「研究者と立ち話」が自然科学寄り。(年齢不明)
- 研究テーマが多すぎて理解が追いつかない。(60代)

企画に関するもの：立ち話 (8件)

- 話に熱中しすぎて立ちっぱなしで足が痛い。(10代)
- 研究者や説明してくれる人がいついるのかわからない。(20代)
- 「休憩中」で話の聞けないところがあった。交代で休むとかの工夫が必要では。(50代)
- 発表の質がピンキリ。(20代)
- パネル配置がなぞだった。(20代)

企画に関するもの：ちゃぶ台 (5件)

- 靴を脱ぐのがちょっと…だったので、違う感じのやつがいいです。(10代)
- くつをぬぐのがいやでした。でも距離が近いので、話しやすかったです。(10代)
- ちゃぶ台はくつを脱ぐ勇気がでない。(20代)
- 時間がなかった。ちゃぶ台を囲みたかったが、こみあっていた。(40代)

- ちゃぶ台囲んでみたいけど途中からは入りづらく、チャンスがつかめなかったです。残念。(年齢不明)

企画に関するもの：座談会 (2 件)

- 座談会はもう少し最初から研究者に関する話をしてほしかった。(20 代)
- 座談会のスタートとおわりが分からず、入り辛い。(20 代)

運営に関すること (18 件)

- 時計台入り口でわかりにくかった。(40 代)
- 順路が少しわかりにくい(ドリンクスペース、ドリンクチケットをどこでもらえるか)。(30 代)
- ドリンクを飲むときに置き場がなくスマホやパンフレットなどを見て検討できない。(50 代)
- 休憩できるスペースがもっと欲しかった。(50 代)
- イス・ソファがもう少し欲しい。(年齢不明)
- 人が多くアンケートの所のいすがたりない。(年齢不明)
- アンケート書くスペース(机)をもう少し広くしてほしい。(30 代)
- 名ふだのヒモをもう少し短くすると(位置的に)見やすいかも。(20 代)
- だれがブースの人かわからないので名札のひもの色かえてほしかったです。(30 代)
- パンフレットに、アンケートのQ3の出展番号を「出展番号」と明記して頂けるともっと分かり易いかなと思いました。(20 代)
- 会場内に時計がほしかった。(20 代)
- 朝待たされた。(60 代)
- プログラムを事前にダウンロード出来たら、どのお話を聞こうか“予習”ができます。(年齢不明)
- 会場が寒い・・・(話している人は暑いのですが・・・)。(30 代)
- 少し熱かった。(年齢不明)
- 紙コップ、もったいない。(30 代)
- 春秋講義とかさなったこと。(70 代)

広報に関するもの (1 件)

- 来るまで知らなかった。(50 代)

その他 (5 件)

- 少しつかれました。(年齢不明)
- HP の交通アクセス情報が探しにくかった。(40 代)
- メディアの関係者が少ない。(50 代)
- 本日以外の展示も欲しかったがそれは次回に期待します。(年齢不明)

3-2. 出展者アンケート

■ 3-2-1. アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、出展者のみなさまにもアンケートにご協力いただきました。京都大学アカデミックデイに参加した感想、印象に残ったこと、また今後の開催にあたってのご意見・ご提案や、研究者による広報活動の本学での支援についてのご意見・ご提案もご記入いただきました。

● 出展者アンケート

〈方法〉

- ・ ウェブフォームから回答
- ・ 連絡担当者を通して参加研究者全員にウェブフォームからの回答を依頼
- ・ アンケート受付期間：10 日間

〈設問〉

- ・ 問 1. 「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想を、以下のそれぞれの項目についてお聞かせ下さい。

（回答必須）

[選択肢：大いにそう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない]

- (a) 専門外の人への自分の研究に対する興味・理解度を把握することができた
- (b) 専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった
- (c) 自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった
- (d) 自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた
- (e) 他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた
- (f) 研究内容を専門外の人に説明する訓練となった
- (g) 参加は日々の研究活動の負担となった
- (h) 機会があったらまた参加したい
- (i) このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい
- (j) 他の研究者との交流の機会になった

- ・ 問 2. 来場者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った（or 必要だと感じた）工夫やコンテンツがありましたらお書き下さい。

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

- ・ 問 3. 来場者との対話の中で、どのようなことが特に印象に残りましたか。

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

- ・ 問 4. 学内限定タイム（16:00-17:00）について伺います。アカデミックデイ終了直後に同会場で、参加研究者同士が交流するための時間はあったほうが良いと思いますか？（回答必須）[選択肢：大いにそう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない]

また、その理由もお書き下さい。

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

- ・ 問 5. 「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってご意見（良かった点・改善点）や今後に向けたご提案などありましたらお書きください。

5-1 【良かった点】

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

5-2 【改善点/課題】

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

5-3 【今後に向けた提案】

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

- ・ 問 6. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後「このような来場者ともっと話したい」というご希望がありましたらお書きください。

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

- ・ 問 7. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後扱ってほしい座談会のテーマや新企画などのご希望がありましたらお書きください。

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

- ・ 問 8. 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URA による支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

- ・ 役職（回答必須）

〔選択肢：教授、特定（特任）教授、准教授、特定（特任）准教授、講師、特定（特任）講師、助教/助手、特定（特任）助教/助手、研究員、博士課程（博士課程後期）大学院生、修士課程（博士課程前期）大学院生、その他〕

- ・ 研究分野（回答必須）

〔選択肢：社会科学系、人文科学系、理工学系、医薬生命科学系〕

- ・ お名前（回答必須）

- ・ ご所属（回答必須）

- ・ ご連絡先（E-mail）（回答必須）

- ・ 当日の参加者に変更があればお知らせください。

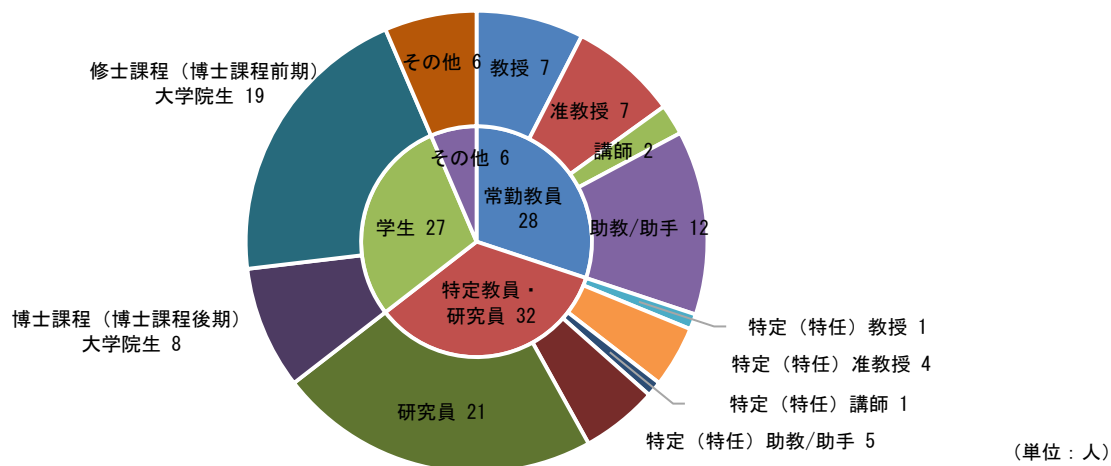
■ 3-2-2. 「出展者アンケート」の結果

出展者数 244 人

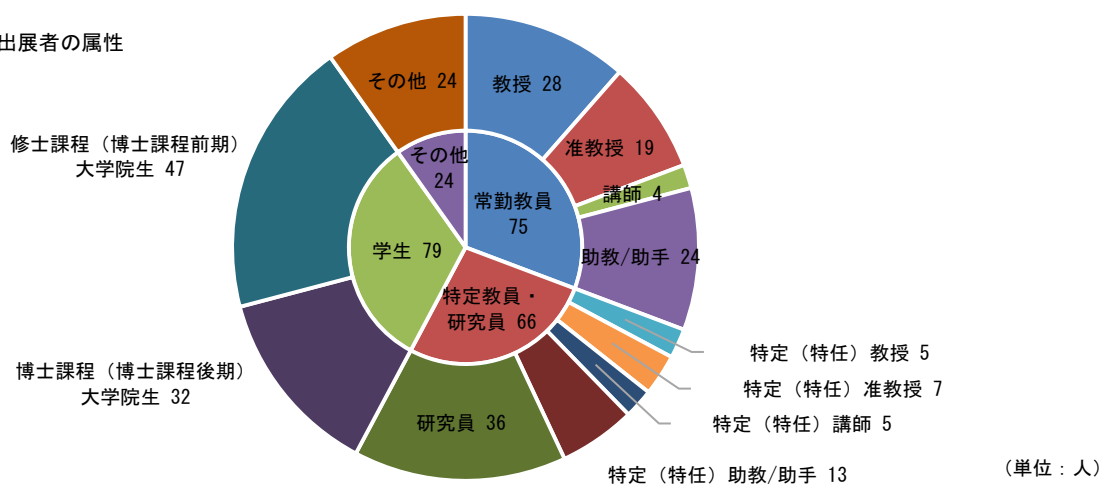
回答者数 93 名（回収率 38%）

● 回答者の属性

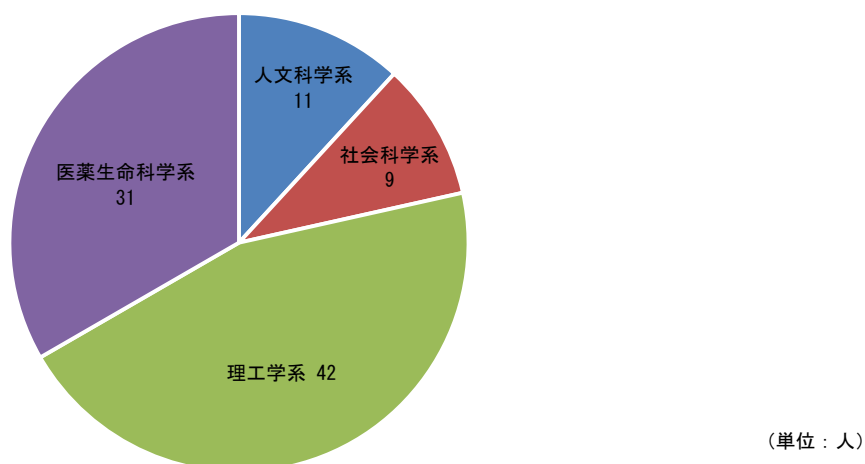
・ 職業による回答者属性



※参考：出展者の属性

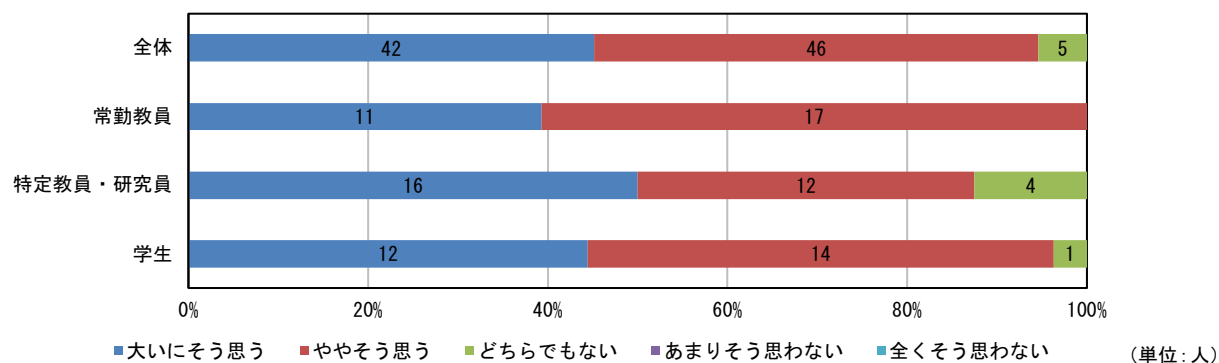


・ 専門分野による回答者属性

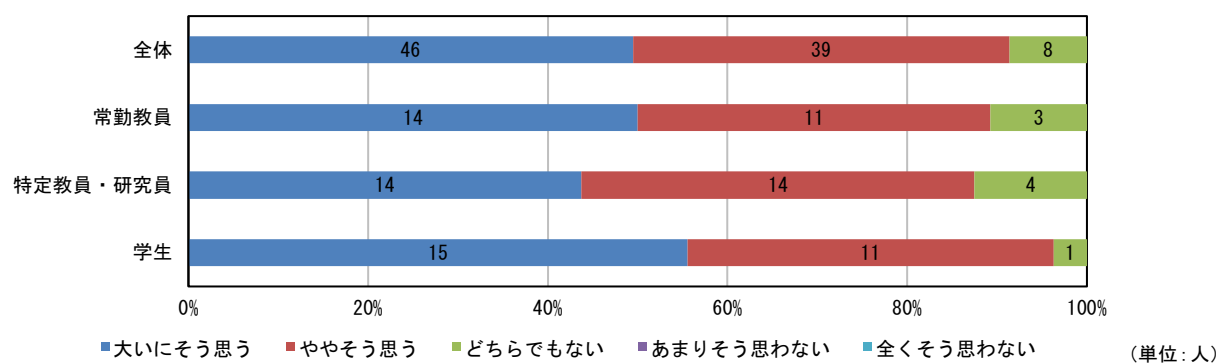


●「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想

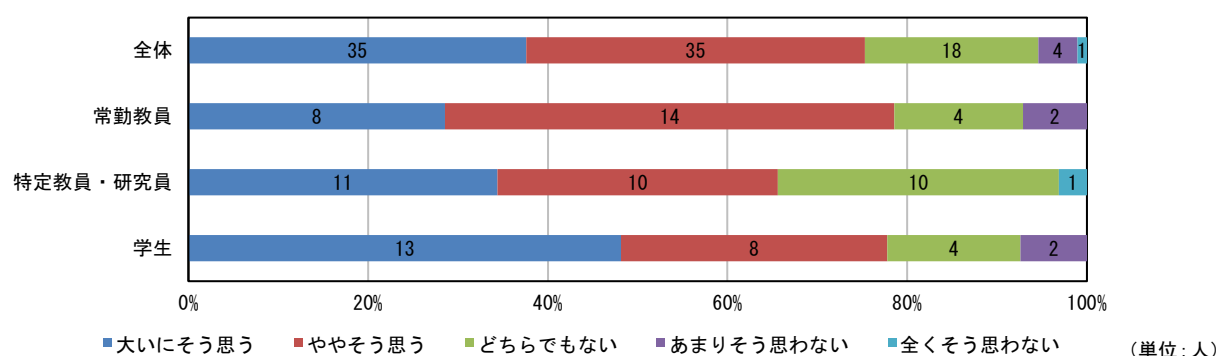
(a) 専門外の人への自分の研究に対する興味・理解度などを把握することができた



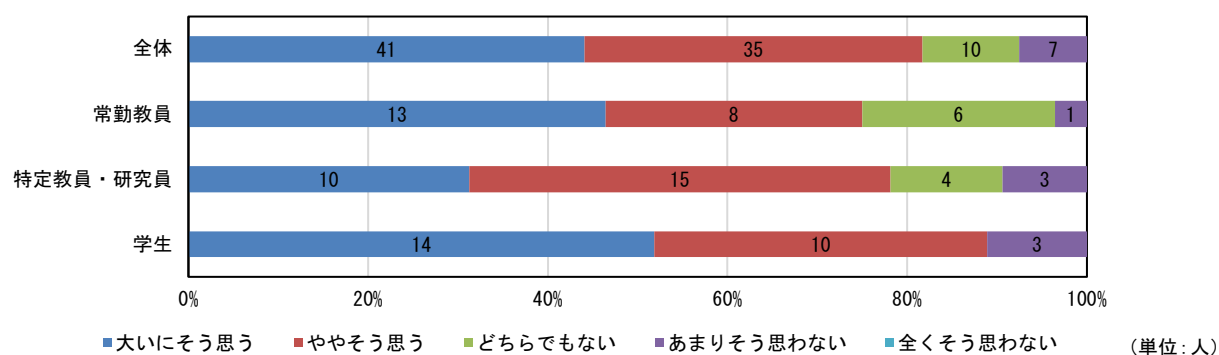
(b) 専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった



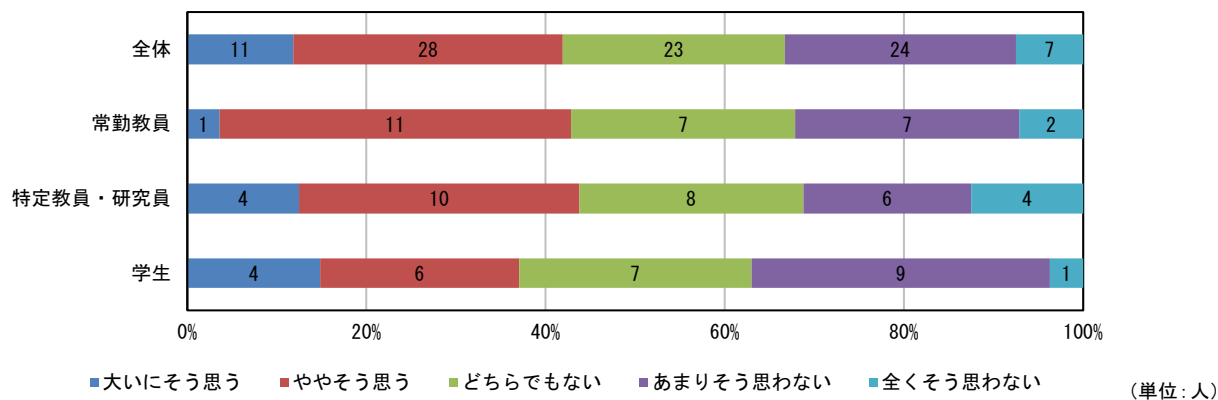
(c) 自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった



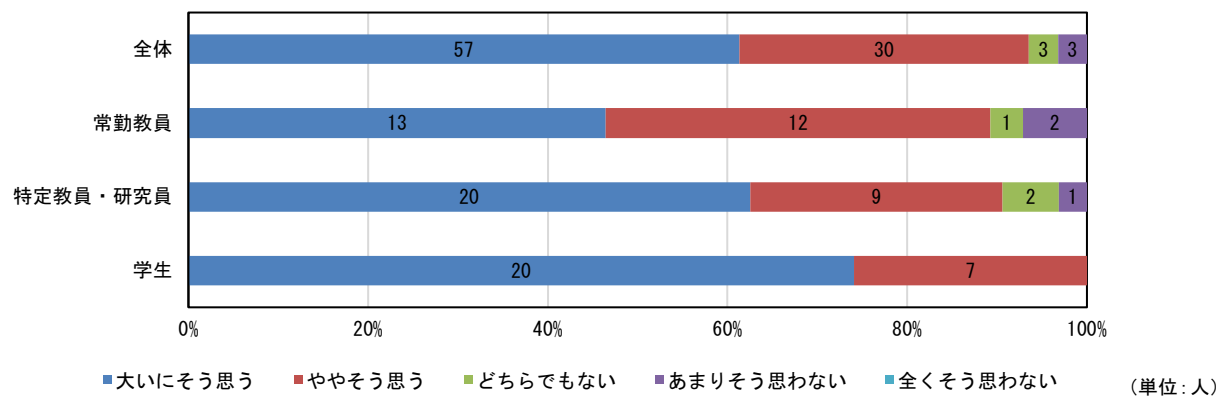
(d) 自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた



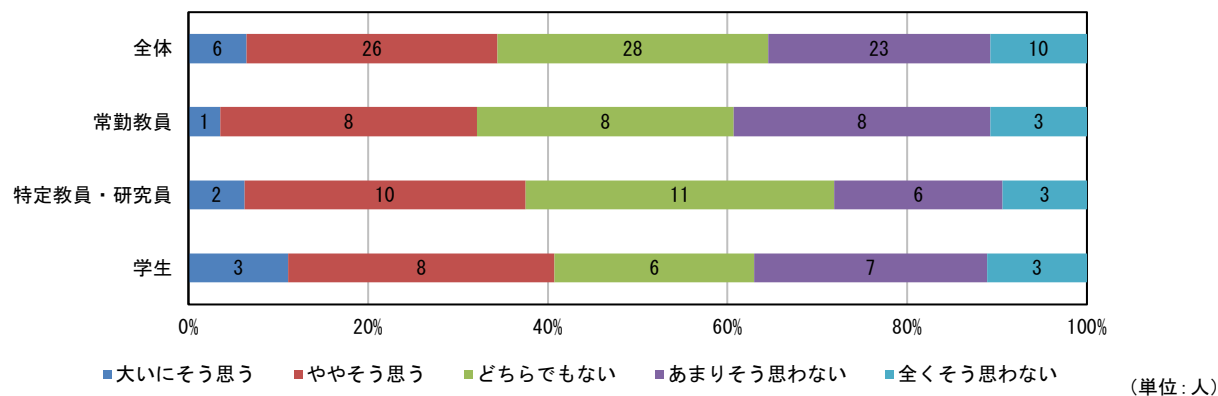
(e) 他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた



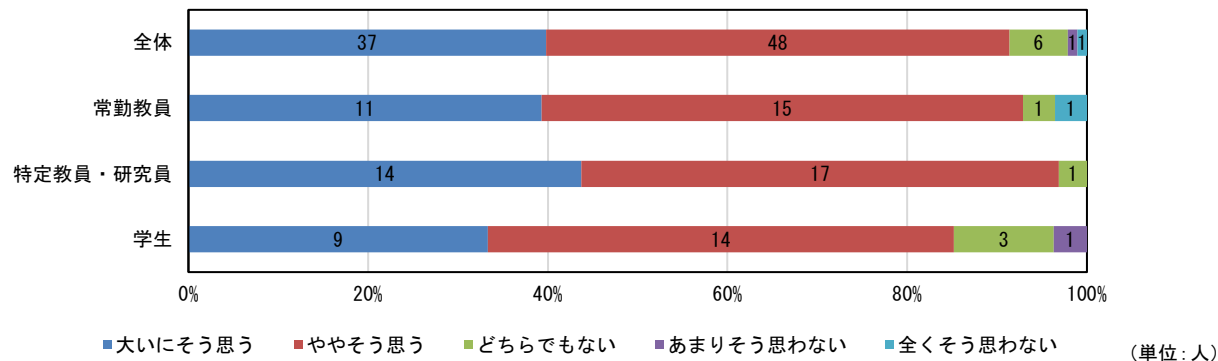
(f) 研究内容を専門外の人に説明する訓練となった



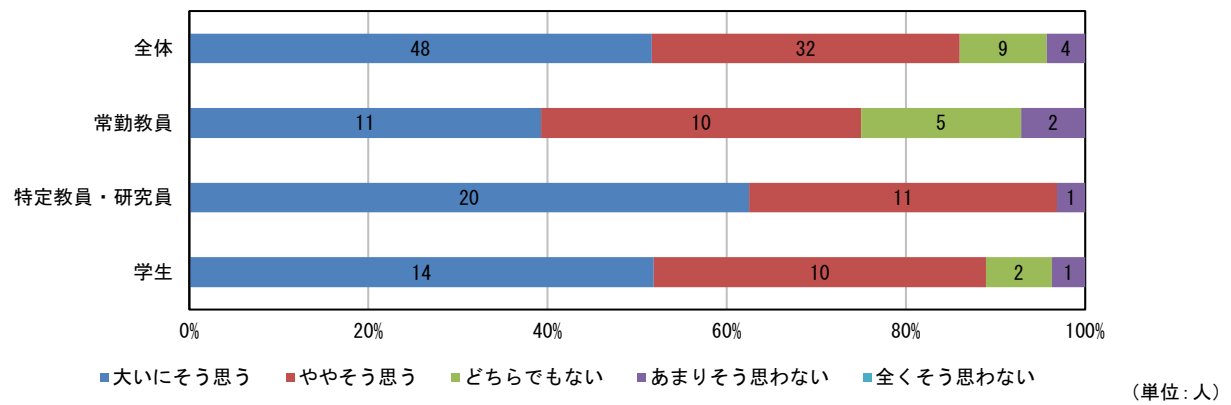
(g) 参加は日々の研究活動の負担となった



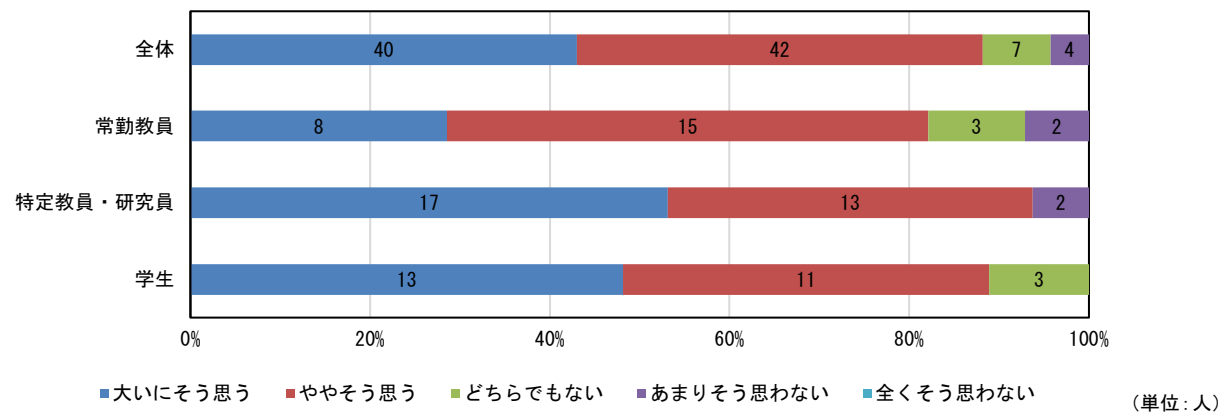
(h) 機会があったらまた参加したい



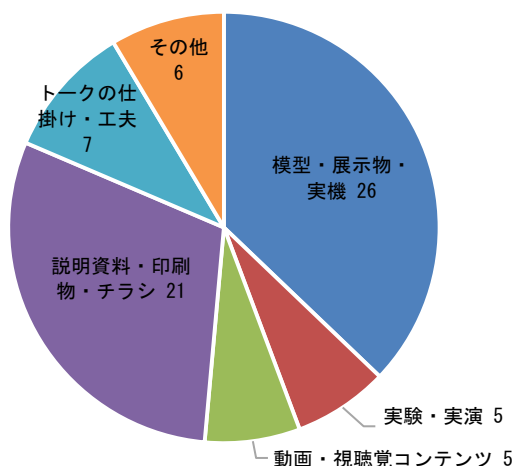
(i) このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい



(j) 他の研究者との交流の機会になった



- 来場者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った（or 必要だと感じた）工夫やコンテンツがありましたら書き下さい。



(単位：件)

〈模型・展示物・実機（26 件）〉

- 手のひらサイズ以上で、自分の分野に関わる教材のようなもの。(理工学系)
- 実際に作製したサンプルを見てもらうことで、特に低年齢層の関心を得ることが出来た。(理工学系)
- 実際に手に取ってもらえるようなモノ。(理工学系)
- ストレス測定 of AGEs センサーは大活躍でした。触れることのできる何かは大事だと思いました。(医薬生命科学系)
- 顕微鏡など、実際の研究道具。関心を持つ方が多かった。(医薬生命科学系)
- 細胞を観察するための顕微鏡。(医薬生命科学系)
- 子供が興味を持てるような遊び感覚の道具を用意したことは効果的であった。(理工学系)
- 実際に使用している実験機器。(理工学系)
- 研究が一般の人にどう影響を及ぼすかの実例。(理工学系)
- 実験試料等を準備しておいてよかったと思います。(理工学系)
- 実際に手にとって触れる試料。(理工学系)
- 実際の試料（においや見た目がわかる）。(理工学系)
- 視覚的なものや触れたりする感覚にうたえるものは短い時間で来場者に興味を持っていただきやすい。(医薬生命科学系)
- 触れられるコンテンツがあると興味を持つきっかけになると感じました。(医薬生命科学系)
- ポスター以外に小道具や手に取って触れるものがあると断然よく生き生きしている。人文社会であっても、ポスターだけでは今回のほかの人（特に実験系）に比べると地味となり、内容が良くても来場者にはとっつきにくいのではと思った。小道具や関連するものやわかりやすい本があると、話題のきっかけとなり、来場者に話しかけやすい。(人文科学系)
- テーブルを利用してモノを置けばよかった。(人文科学系)
- 来場者を引き止める展示品。(理工学系)
- 理論研究なので、研究対象をイメージ出来る動画や模型。(理工学系)
- 触って体験できるもの。(医薬生命科学系)
- 必要だと感じたもの：体験できるようなもの。(社会科学系)
- 来場者の目につきやすい物品（模型、装置、研究サンプルそのもの等）。(医薬生命科学系)
- ジェットエンジンの模型が話の導入に役立った。(理工学系)
- 結晶模型。(理工学系)
- 自由に触っても良いもの。模型や実物など。(理工学系)
- 実際に触るものがあってよかったと思いました。私の専攻のほとんどの人は得意ではないと思いますが、ほとんどの来場者が理解したと思いました。(理工学系)
- 体験型の VR や分子模型は人気があった。(理工学系)

〈実験・実演（5件）〉

- ポスターの内容はもちろんですが、机の上に置くモノが非常に重要と感じました。何かしらの実演を行うことで一般人の来場者にも内容に入ってもらえる気がしました。（医薬生命科学系）
- 公開実験。（理工学系）
- 実際に動くものがないと、子供には説明がしづらかった。（理工学系）
- 実物を持ち込み動作させて提示する。（理工学系）
- 実際に手を動かしてもらった簡易実験が有効であった。（理工学系）

〈動画・視聴覚コンテンツ（5件）〉

- 視聴覚コンテンツ（スライドショーなど）が必要だと感じた。（社会科学系）
- VR 動画。試しに簡単なものを準備して来場者に見てもらいましたが、実際の様子を見もらうことで内容がより伝わりやすくなると感じました。（医薬生命科学系）
- 顕微鏡で観察した動画を iPad に入れて来場者の方々に見て頂いた。（医薬生命科学系）
- ポスターより動画の方が伝わりやすい。（理工学系）
- 日本と ASEAN が共同研究の基盤を形成する、というプロジェクトを見せるにあたって、東南アジアの地域的な広がりや社会や文化の多様性をどうわかりやすく表現するか？というところで出来るだけビジュアル化したことは役に立った。（社会科学系）

〈説明資料・印刷物・チラシ（21件）〉

- お渡しできる制作物（リーフレット、パンフレット、冊子等）予めコンテンツの中に設問を入れておいたので対話が活性化した。（医薬生命科学系）
- 印刷物（とくに子供向けのもの）。（理工学系）
- iPad に説明のスライドを入れたものを準備していったが、説明しやすかったのがよかったと思った。（医薬生命科学系）
- レジメを用意すれば良かった。（医薬生命科学系）
- より詳しいデータをすぐに出せる準備。（理工学系）
- 一枚プリントや地図等が説明時に役に立ちました。（理工学系）
- 持ち帰ってもらえるちらし、パンフレット類。（医薬生命科学系）
- 配布用ポスター。（医薬生命科学系）
- チラシとノートの準備が役に立った。（人文科学系）
- A4 サイズの資料。（医薬生命科学系）
- ポスターを縮小した用紙。（医薬生命科学系）
- ポスターを縮小印刷したものを配布用に用意したのですが、あれは役に立ったと思います。（医薬生命科学系）
- ポスターを縮小印刷した配布用資料。（医薬生命科学系）
- 別刷りのポスター。（医薬生命科学系）
- ポスターの内容を一部抜粋した A4 のレジメを準備して、来場者に渡しました。来場者に説明するときに役立ちました。（社会科学系）
- 展示をしていたポスター内容の詳しい配布資料を希望される方が多かったが、準備していなかった（まだ公式な配布段階にないため）。より深く理解いただくために用意できなかったのが残念。（社会科学系）
- 必要だと感じたもの：ポスターのハンドアウト。（社会科学系）
- ポスター内容を更に詳細にしたパンフレットが役に立った。（社会科学系）
- 持ち帰ることのできる資料、ポスターのハンドアウトなどがあればよかった。（人文科学系）
- 配布資料。（人文科学系）
- ポスターのほか、小さな配布資料を用意したことは良かったと思います。（理工学系）

〈トークの仕掛け・工夫（7件）〉

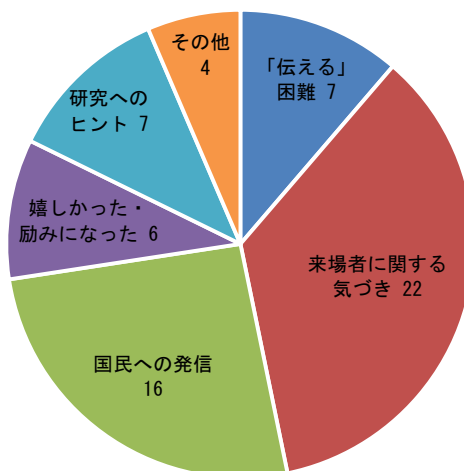
- iPad を用いて発表者以外も説明をできるようにしていたのがよかった。（医薬生命科学系）

- 来場者に気になるキーワードへ投票をしてもらうことで興味を知ることができ、対話を広げることができた。
(社会科学系)
- 来場者への問いかけ。(社会科学系)
- ポスターに載せたキーワードなど簡潔に説明できるよう準備をしておいた。(人文科学系)
- ポスター内に、少し「意外」と思われるツッコミどころを入れること。(人文科学系)
- 来場者の話をよく聞くようにして、役に立ったと思う。(理工学系)
- 身近なものであり、研究内容のイメージにつながるもの。(理工学系)

〈その他の工夫 (6 件)〉

- アンケート。(人文科学系)
- 白い紙、臨時の時の椅子、電源、養生テープ、もう少し性能の良いスピーカー (DVD の音が聞こえづらかった)。
(人文科学系)
- ホワイトボードが用意されていたのは良かった。(医薬生命科学系)
- 文献のサンプルを用意しておいたのがヴェトナムの古文字を説明する時よかったと思います。(人文科学系)
- 資料をインパクトのある色にした。(医薬生命科学系)
- 分かりやすいポスター。(理工学系)

● 来場者との対話でどのようなことが特に印象に残りましたか？



(単位：件)

〈「伝える」ことに関して、困難を感じたこと（7件）〉

- いろいろな年代、経験をお持ちの方がいらっしゃるの、お聞きになりたいことを探りながらお話を進める必要がある。(人文科学系)
- かなり柔らかくしたつもりだが、それでも理解してもらえなかった。(理工学系)
- 一般の方になかなか伝えるのが難しく、相手の理解が少し自分のしてほしいものと違ってしまったことがぐやまれた。(理工学系)
- 今年は小さなお子さんも多く、説明の難しさを改めて感じた。(理工学系)
- 自分の話法の拙さ。(理工学系)
- 全く背景を知らない人に説明するのが難しい。(理工学系)
- 理科系の研究になじみのない方に、伝える工夫がもっと必要であった。(理工学系)

〈来場者に関して、新鮮だったこと・気づいたこと（22件）〉

- 「遺伝カウンセラー」を知らない、聞いたことないという方が多く、一般の方にはまだまだ認知されていない現状なんだと実感した。(医薬生命科学系)
- SDGs (Sustainable Development Goals)の意味をほとんどの人に尋ねられた。意外と知られていないのだと思った。(社会科学系)
- 国連 SDGs というのが、考えているより一般来場者の中にも浸透しつつあるという点。(社会科学系)
- 意外と、正確さを重要視していないと感じた。(理工学系)
- 意外に皆思うことは同じであるということが印象に残っています。(理工学系)
- 異なる専門の方々が別の視点で興味を持っていることが印象に残りました。(人文科学系)
- 一般の方でも、興味を持ってメモを取りながら熱心に話を聴いてくれる人がいたことが印象に残った。(理工学系)
- 皆、様々な角度の知的好奇心を持っている。(理工学系)
- 関連した研究内容を TV で観た為に話を聞きに来られる方が多かった。(医薬生命科学系)
- 昨年度に続いて2年目でしたが、中学生高校生大学生など若い世代の来場が増えたでしょうか？また、多くの来場者の情報源は、学校の授業のほか、ネットニュースやテレビ、博物館展示であることをあらためて実感しました。(理工学系)
- 若い学生は将来進む産業分野の探索・情報収集に、年配のOBは科学技術の今昔を見聞きすることを楽しみに来ていることが印象に残った。(理工学系)
- 将来自分が何を大学で学びたいかを考えに参加している一般来場者もいたこと。(人文科学系)
- 小学生に動画を見せたら、「知ってるよ、これ。ナチュラルキラー細胞でしょ」と言ったとき。(医薬生命科学系)
- 小中学生の知識の豊富さ。(理工学系)
- 進路を決める手段として来場した学生が複数いたこと。(理工学系)

- 想定外の質問がいっぱいくる。(理工学系)
- 大学生の柔軟で鋭い指摘にハッとさせられることが何度かありました。(社会科学系)
- 中学生くらいの子が非常に色々な知識を持っていたのに驚かされた。(理工学系)
- 直接発表内容に関係の無いことでも、近い分野（と一般人には見える）について聞かれることもしばしばあるのだなという点が印象に残りました。(医薬生命科学系)
- 物理学が専門分野でない人の中にも、それなり詳しい人がいたこと。(理工学系)
- 来場者がみな非常に積極的であったこと。(人文科学系)
- 来場者は興味深くて、びっくりした。とても詳しい人が数人もいらっしまった。(理工学系)

〈国民への発信などに関して、気づいたこと（16件）〉

- 自身の関わる分野について、まだ広く知られていない側面が多くあることに気づいたこと。(社会科学系)
- こちらが紹介したいことと相手が聞きたいことは微妙に違う。(医薬生命科学系)
- メディア等を通じて得ておられる知識に誤り・偏りがあり、正確な知識を伝える重要性を感じた。(理工学系)
- もっとこういう場を増やすべきとの意見を多数いただいた。(医薬生命科学系)
- 一般の人からみた研究の意義に対する問い。(理工学系)
- 一般向けの書籍などでもいろいろな情報は出回っていると思うけれど、なかなか必要な情報にアクセスできていないということ。(社会科学系)
- 解決に時間がかかる問題や答えの出にくい問題に取り組むのこそが大学の役割だと再認識した。(社会科学系)
- 基礎科学なので、生活への応用をアピールしづらいということ。また、そのような質問。(理工学系)
- 研究者の間で常識となっていることが全く通じないことが多くあった。(医薬生命科学系)
- 研究内容と日常生活、社会問題との接点。(人文科学系)
- 実際の応用が一番印象に残っていた気がしました。私の研究は主に基礎ですが、未来的な応用があることは大事だと気づきました。(理工学系)
- 専門的な観点では、必ずしも明確に理解されていないということ。(理工学系)
- 当たり前のことですが、「自分に関係があると感じる内容」に強い興味を示す傾向は否めません。私の場合、背景知識として「がん」の話を出していたのですが、むしろそちらにばかり強い興味を示す来場者がしばしばみられました。(医薬生命科学系)
- 普段一般の方がニュースで目にするのは研究成果の最終段階であるためか、研究中的内容だと「それで結局結論は？答えは？」と聞かれることが多かった。(研究者としては現時点の結論を提示したつもりでも)(医薬生命科学系)
- 本人や身近な人が実際に病気になっている方の、研究に対する期待の声。医学・生命科学分野の研究を行っているものとして、社会に対する責任を強く感じさせられた。(医薬生命科学系)
- ちゃぶ台では、来場者の方は、聞きたいだけでなく、話したいという気持ちも強くもっておられた。「聞く」という姿勢も大切だと思った。(人文科学系)

〈嬉しかった・励みになった、と感じたこと（6件）〉

- 小学校高学年の子ともお話ができたこと（なかなかこのような機会はないので貴重でした）。(医薬生命科学系)
- 皆さんの目線でみた、研究の意義や価値を知ることが出来た。感謝しています。(理工学系)
- 学会では出会うことができない、様々な方々と対話ができたこと。(社会科学系)
- 研究に関心をいだいてもらえたこと。共感してもらえたと、来場者自身の課題であると、問題意識を共有できた。(人文科学系)
- 構造用金属材料の研究について新たに認知していただけたこと。(理工学系)
- 分かりやすかったと言ってくれたことが印象に残っています。(医薬生命科学系)

〈研究に関して、ヒント・気づきを得たこと（7件）〉

- 「孤独」の多様性など、様々な観点から意見が得られたことが印象的でした。(医薬生命科学系)
- 研究に対する率直なご意見をいただけたこと。(医薬生命科学系)
- 私の領域は、分野外や一般の人それぞれ「言語観」「言語に対する思いや経験」があり、それぞれがいろいろ語ってくれるので、研究者としても、個人としても、議論のしがいがあった。私がただ語るのではなく、

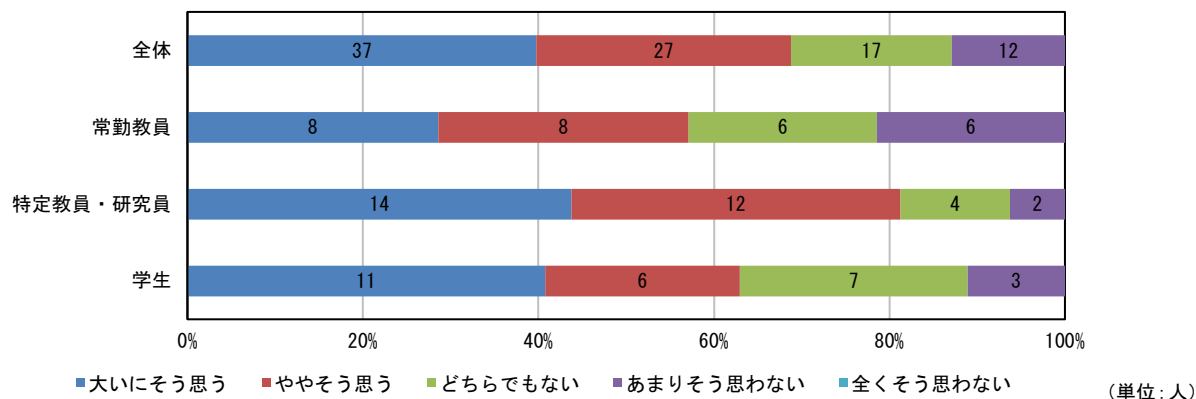
来場者の皆様のいろいろな思いを聞き、双方向コミュニケーションにしたことはよかったように思う。(人文科学系)

- 実験に関する話をした際に実験手法に関する工夫、アイデアを出していただいた。(理工学系)
- 専門外の方から意外なアドバイスをいただけること。(理工学系)
- 他の研究者がどのようなことをしているかわかったこと。(医薬生命科学系)
- 来場者の方に専門家があり、こちらの勉強にもなったこと。(理工学系)

〈その他の気づき、印象に残ったこと (4 件)〉

- 相手の関心や領域を探りながら、リズムや内容を変えていく口頭コミュニケーションのおもしろさ。(人文科学系)
- 三重県や南河内等の遠方からお越しの方がいらっしゃったり小中学生の子もお越しだったのが印象に残りました。(理工学系)
- 理系の研究ですが、文系の方も聞きに来てくださった事。(理工学系)

- 学内限定タイム（16:00-17:00）について、アカデミックデイ終了直後に同会場で、参加研究者同士が交流するための時間はあったほうが良いと思いますか？



「大いにそう思う」理由

- 他分野が一同に会する機会はないので、貴重な交流タイムになりました。(医薬生命科学系)
- 開始前にも同タイムが設定されていてもよいと思います (任意参加でよいので)。(医薬生命科学系)
- アカデミックデイ中は皆忙しく発表を見にいける機会が無いので後から専用の見に行ける時間があるのは嬉しかったです。(理工学系)
- こんなことから新たな研究が芽生えたと信じているから。(医薬生命科学系)
- やはり、異分野研究者同士のディスカッションこそ有意義だと思います。誰にでもわかりやすい発表は異分野研究者にとってもわかりやすい内容ですので、この時間を大切にすべきだと思います。半分はこの時間でも良いと思います。(医薬生命科学系)
- やはり、知識の基盤が異なるため。(医薬生命科学系)
- ゆっくり、研究内容について聞けるから。(人文科学系)
- 違う分野の研究者の考え方が斬新で面白い。(医薬生命科学系)
- 一般来場者の多い時間には他の出展ブースの方の時間を取るのには申し訳なく感じるため。(医薬生命科学系)
- 学内限定タイムにて、研究者同士で交流するからこそ、一般来場者に研究内容を伝える重要性や工夫の必要性を再認識できるから。(社会科学系)
- 学内限定タイム以外は、来場者対応が中心になってしまうので。(社会科学系)
- 緊張が解けて、みなさんがほっこりした表情で交流されていたから。(理工学系)
- 研究者も他人の研究に興味があるし、他分野研究者との交流のきっかけにもなるから。(人文科学系)
- 少人数参加だったため他のパネルを見る余裕がなかった。三々五々に片付け時間を始める時間となってしまったのが残念だった。(人文科学系)
- 色々な分野のお話を聞きたいため。(理工学系)
- 専門が異なる研究者の意見は非常に参考になった。(理工学系)
- 他の出展者がいなかったため、回る機会がありませんでした。この時間があるからこそ、ちょっとだけ他の研究が見えました。残念な点の一つは、いくつかのポスターの片付けが早すぎて、内容を見る機会がなかったことです。(理工学系)
- 通常の時間では、説明に手いっぱいなので他のブースを聞きにいけないため。(理工学系)
- 展示時間では時間が足りない。(理工学系)
- 展示時間は他の展示者と話す時間がない。もっとこの時間を長くして欲しい。(理工学系)
- 非常に面白い内容のものがあったが、自分のところの説明だけでほとんどの時間を使ってしまったため。研究者同志だと気兼ねなく深いところも尋ねられるので楽しい。(社会科学系)
- 普段は交流することのない研究者、研究内容にふれることができる。(人文科学系)
- 普段交流がない分野の話が聞ける。(理工学系)
- 普段交流のない研究者と話することができる良い機会だった。(医薬生命科学系)
- 普段交流のない分野の研究者と話せる貴重な機会だと思うので。(社会科学系)
- 普段全く興味や関わりを持たない研究について触れる機会であったし、出展者にとって開催時間の間だけでは他の発表を回るのに十分でないと思うので。(理工学系)

- 普段他分野の研究者同士が一堂に会することはないから。(理工学系)
- 隣の出展者の方とは、面識はありませんでしたが、出展時間の間に打ち解けてきます。最後にじっくりと話すことのできる時間があり、交流することができたのが良かったです。(理工学系)

〈「ややそう思う」理由〉

- その時間を確保することは必要だと考える。だがほぼ6時間ぶっ続けで話し続けた後の交流タイムだったので、見て回る体力がなかった。(人文科学系)
- 異分野の研究者からも意見をいただけたこと。(医薬生命科学系)
- 違う分野の方と関われるいい機会だと思った。(医薬生命科学系)
- 一人で発表している方は、発表時間中に他の発表を訪問する機会がとりにくい。(医薬生命科学系)
- 研究者同士もあまり会う機会がないのでせっかくなのでこういう機会にあるとよいかと思う。(理工学系)
- 出展者間で話すことは重要。しかし他にやるべき仕事があるので、限定タイムは短くても良い。(理工学系)
- 少人数で発表しているチームは、他のポスターを見に行く時間がなかなかとれないため。(医薬生命科学系)
- 少人数の出展だと、他の展示を回る時間をとりにくい。(理工学系)
- 他のポスターをゆっくり見て他の研究者と交流する時間はアカデミックデイの時間中は取れないので。(理工学系)
- 他の発表を見ている暇がないから。(理工学系)
- 単純にそれ以外の時間は自分のブースを離れられないから。(社会科学系)
- 朝からずっと立っていたので、少々しんどい。(理工学系)
- 通常の時間帯では十分他の展示を見ることが出来ないから。ただし、分担すれば通常の時間内に見ることも出来るため、必須ではないかと思います。(理工学系)
- 都合で参加できませんでしたのでわかりませんが、研究者同士の交流は重要と思います。(医薬生命科学系)

〈「どちらでもない」理由〉

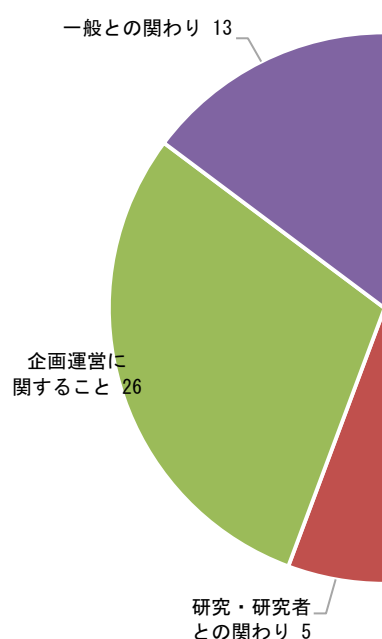
- あまり関わりがないテーマが多かった。(医薬生命科学系)
- この時間には疲れ果てており、早く片付けて帰ろうという気になる。(理工学系)
- ほかのブースに出かけると、その間自分のブースが空っぽになる。複数人対応できる場合は交流時間は意味があるのですが・・・。(理工学系)
- ポスター展示の時間が長いので、実際にはその間にも休憩がてらに交流している。休日でもあるため、学内限定タイムを1時間も設けなくて良いのではないか。(理工学系)
- 今回は、一般開催中に他ブースを回って、研究者と話をすることができたため。(医薬生命科学系)
- 時間が短く、質問に答えている間に一瞬で終わりました。(医薬生命科学系)
- 説明するとすれば、持ち場を離れることはできないし、なかなか難しい。(理工学系)
- 通常時間内でも他の研究者との交流が出来ると思うから。(理工学系)

〈「あまりそう思わない」理由〉

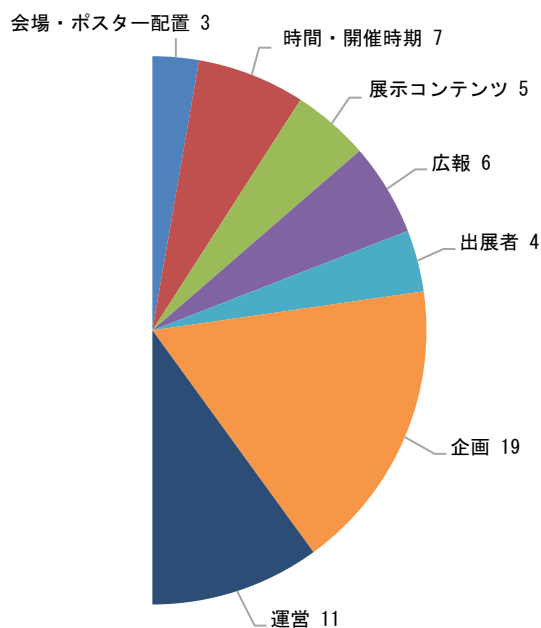
- ポスター担当の時間が決まっているのでそれ以外の時間に学内限定タイムが有っても参加しにくい。(医薬生命科学系)
- 一般の方々との交流で、十分に疲弊しました(分かり易く話すことは、授業よりも疲れました)。(理工学系)
- 間の時間でも交代で回っているので、特別に時間をとるより一般の人との交流時間を長くした方がよいかと思いました。(理工学系)
- 研究者同士の交流はすでに行われていた気がする。(理工学系)
- 自分のポスターの前に立っているのが、実際動きにくい。(誰か来たら説明するために) 結局動けない。おそらく軽い立食形式(参加費500円をとるなど)の方が良いと思う。あのままのポスターの配列だとそれは難しいので、内側に立食とともにみなが見えるような配列のほうが良い。(人文科学系)
- 自分の展示を離れて他を見に行くと、自分の展示を説明する人がいなくなる。(理工学系)
- 他の時間で十分回れたから。(理工学系)
- 通常の時間中やオープンまでにも交流可能。(理工学系)
- 来訪者がいる時間帯でも十分に交流できた。(理工学系)

● 今後の「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってのご意見

〈良かった点〉



〈改善点、今後に向けた提案〉



(単位：件)

〈①良かった点〉

一般の方との関わり・全体の雰囲気 (13 件)

- 一般の人と直接、比較的時間をかけた話ができる。(理工学系)
- 一般の人と交流できる機会でもよかったと思いました。(理工学系)
- 学外の人に紹介できる数少ない機会なので。(医薬生命科学系)
- 学生から家族連れ、年配の方まで幅広い年齢層の人が参加していたこと。(理工学系)
- 今回初めての参加でしたが、子どもから年配の方までお越しくださり、いろいろな反響があったので、とても参考になりました。今後の研究活動に活かしていきたいと思います。(理工学系)
- 子供から大人まで、一般の方から研究者までと、多くの人と話す事が出来た。(理工学系)
- 思ったより、人が結構いらしかった。(理工学系)
- 思っていたより、人が来てくれて話をする事ができたのがよかった。(理工学系)
- 多くの来場者が来てくれた。(人文科学系)
- 二年前に参加した時よりも、はるかに多くの来場者と話をする事ができた。(人文科学系)
- 幅広い年層がこられるので、わかりやすい展示がより重要と思った。(理工学系)
- 幅広い年代の人とお話できたこと。(社会科学系)
- 様々な方の意見を伺えて大変参考になった。(社会科学系)

企画運営に関すること (26 件)

- 活気があり、広さも十分で、話しやすい環境でした。(医薬生命科学系)
- 色々な分野の研究がこれほど多く集まれる環境。(医薬生命科学系)
- 大学と社会の接点を作るとは重要であると思う。(理工学系)
- 中学生から大人まで幅広い来場者と対話できたこと。(社会科学系)
- (運営準備などの) 負担を抑えて一般の方との情報交換の機会が得られた点。(医薬生命科学系)
- ホームページ等、きれいにできています。(理工学系)
- ポスターA0 2 枚分のスペースだけでなく、長机も用意されていたのは発表の幅が広がって良かったと思う。
また、出展者用の控え室も微調整等を行うにあたって活用出来た。(理工学系)
- 会場運営など時間や場の設定をしていただき、研究紹介に集中することができた。(人文科学系)
- 交流の場が設けられていたこと。(医薬生命科学系)
- 事前説明会があったことで、準備の進め方や注意すべき点を理解することができた。(社会科学系)

- 出展前の学習会で、学会との違いを丁寧に説明していただいたこと。(理工学系)
- 事務局の方々がこのイベントにかなり慣れている印象で、とても丁寧な説明かつ段取りの良い運営を頂けたため、準備・参加がとてもやりやすかったです。(医薬生命科学系)
- 時間通り、会場の人の導線もスムーズで、運営の方のご尽力のおかげと思いました。ありがとうございます。(理工学系)
- 十分な展示スペースだった。(理工学系)
- ブースの大きさや配置などはちょうど良いと感じます。(理工学系)
- 展示場所横に椅子が2脚準備されていたのがありがたかった。(理工学系)
- 土曜日に行うのは日曜日と比べて負担が比較的少なく非常に良い。(理工学系)
- 表彰タイムがあったのが良かった。あれだけ多くの来場者がいらっしやっただのが良かったです。研究者への説明会、広報、来場者集め、表彰、ドリンクなど、きめ細やかなご対応をくださり、本当にありがとうございます。(医薬生命科学系)
- 本の紹介はとても面白かった。(社会科学系)
- 来場者の名札、プロフィールで相手が何となくわかったこと。(人文科学系)
- 飲み物のご用意など、大変助かりました。(医薬生命科学系)
- イベントを実行してくれたこと。(理工学系)
- ドリンクコーナーは非常にありがたかった。(理工学系)
- ドリンクの支給は非常にありがたかった。(医薬生命科学系)
- 飲み物が準備されているのは良かったです。ずっとしゃべっているので喉が枯れます。(医薬生命科学系)
- 飲み物無料。(医薬生命科学系)

研究・研究者とのかかわり (5件)

- 異分野向けの研究成果発表会はなかなかないので面白い。(理工学系)
- 一つの会場で色んな分野の話が聞けるので面白かった。(医薬生命科学系)
- 色々な分野の方の話を聞くことができたり、世界トップの大学である京大の方からのアドバイスや助言をもらえたりして、とても今後の研究の励みになりました。(理工学系)
- 他分野の研究内容についてじっくり聞けたこと。サポートする院生がいたこと。(人文科学系)
- 普段関わりのない分野の研究者の話を聞けたことが良かった。(理工学系)

〈②改善点、今後に向けた提案〉

会場・ポスター配置について (3件)

- 会場のスペースを少し広くしてほしい。他のブースにはみ出してしまい、ご迷惑をおかけしてしまった。(人文科学系)
- わざと分野をばらばらにブースを並べておられるのだと思うが、ある程度グループ分けをした方が、来場者も聞きやすいのではないかな。複数ブースから得た知識をまとめて考えるきっかけにもなりやすい。(理工学系)
- ポスターの掲示場所は、何かの法則に沿って決めているのでしょうか。文系・理系が適度に入り乱れる方が、異分野交流の促進にはよい気がしました。一方で、来場者にとっては、類似分野がまとまって展示されていた方が、わかりやすいのかもしれませんが。アカデミックデイの主催者としての方針がありましたら、出展者と共有いただけると嬉しく思います。(医薬生命科学系)

時間・開催時期について (7件)

- 長時間ずっと立って話をするためかなり疲れます(去年かなり疲れたため、今年の参加を躊躇したくらい)。しかし、実際に参加すると今年もやっぱり楽しかった。疲れるとはいっても、時間の長さはあれくらい必要な気がします。負担を軽くするためには学生にも手伝ってもらって人数を増やすしかないかもしれません。(理工学系)
- アカデミックデイ、1日では足りないと感じました。(社会科学系)
- もう少し時間が短くてもよいのでは？(医薬生命科学系)
- 人手の増えた午後から、半日開催も1つの方法かもしれないと思いました。(医薬生命科学系)
- やはり高校生が参加しやすい日程(日曜日など)が理想だと思います。(医薬生命科学系)
- 開催時期を夏休み終わってすぐか、夏休みの終わり。(人文科学系)
- 9月の真ん中よりは、夏休み開始すぐや、9月末頃のほうがありがたい。海外調査や客員研究員などで海外にいたいため。(人文科学系)

展示コンテンツについて (5 件)

- アカデミックデイの来場者が楽しめるような安全な実験やクイズなどができればよかったかもしれません。(医薬生命科学系)
- より手に取ってわかるようにするなど、工夫すべきことはあった。(理工学系)
- 分かり易い説明、これに尽きると思います。(理工学系)
- 理学の研究はどうしても説明が難しいので、何らかの対策が必要と考えている。(理工学系)
- 研究は身近なものであると同時にそれを遂行することは必ずしも簡単ではないということもメッセージとして伝えていくこと。(理工学系)

広報について (6 件)

- 一般の方への開催の周知方法。アカデミックデイというものがあることも、それほど知られていないように思います。(医薬生命科学系)
- 大学院生が多いに越したことはない。(医薬生命科学系)
- 南河内ではあまり京大アカデミックデイについて広まっていませんでした。もっと多くの方にこの活動を知っていただければと思います。(理工学系)
- 広報を頑張って欲しい。(理工学系)
- 提出した資料をホームページにコンテンツとして掲載された際、出展者にもその旨共有していただけると嬉しいです。そういえば掲載されたのかな？と思ってホームページをのぞいてみると掲載されていた、という感じだったので。(医薬生命科学系)
- とにかくホームページが重過ぎる。これだけは何とか改善して欲しい。(理工学系)

出展者について (4 件)

- 少しテーマに偏りを感じました。(理工学系)
- 理系に比べて、文系の研究の出展が少ないところが気になりました。(社会科学系)
- 立ちっぱなしが思った通りしんどかった・・・。ポスターを見た知人が、「理系イベントって感じですね」と感想を言ったように、研究＝理系というイメージを強めてしまう印象でした。(人文科学系)
- 文系の研究者にも積極的な参加を。(人文科学系)

企画について (19 件)

- ポスターを配布するのはよくないが、タイトルやメッセージに関してはインターネットに公開されている実験室の風景や顔写真があるほうが、来場者にとって出展者を覚えやすい、同定しやすい。(人文科学系)
- ポスター等準備物に関して、最低限の予算補助はしてほしい。研究者の本棚の本は、その場で直接（展示の場で）販売できるとよかった。(人文科学系)
- 単独出展者が休憩時間を設定する仕組み。(社会科学系)
- いくつか「ちゃぶ台」にも参加したかったが、時間が限られていて難しいと感じた。(理工学系)
- 一定区間ごとに単独出展者向けの休憩時間を設定しておく（実際に休憩するかどうかは最終的に本人の判断によるが、推奨時間を設定することで休憩を取りやすいように誘導することは可能か）(社会科学系)
- 2分ほどのプレゼンタイムを全ての出展者にお願いするのはいかがでしょうか。来場者も多くの研究者の顔を見られて良いのでは。(医薬生命科学系)
- まだ外国人が少ないと思いますが、報告が英語でも伝えられたらいいと思います。報告があった時に隣の留学生が迷ったそうでした。(理工学系)
- 面白かったのですが、京大ウィークやオープンキャンパスとのねらいのちがいが、アカデミックデイの位置づけが今ひとつよくわかりませんでした。そのため、上司に出展を理解してもらうのに苦労しました。(社会科学系)
- オープンキャンパスとの差別化。そのためにも参加学生を増やす努力。単位に認定するなど。(医薬生命科学系)
- もう少し幼い子どもさん向けのブース、あるいは、アピールもあってもよかったかもしれません。子連れの親が来やすいように。(人文科学系)
- イベントの趣旨と違うかも知れないが、子供向けの対応を考えてもいい。(理工学系)
- せっくなので、ペットボトルではなく、京都にゆかりのある飲みものや食べものを出しても面白いかもしれません。哲学思想など、ポスターに馴染みにくい研究も多いので、朗読会とか、書き写しとか、そんなものがあったもよいかもしれません。(人文科学系)
- ちゃぶ台がもう少し多くあっても良いかも知れない。(理工学系)

- 偉い研究者と若手研究者のパブリックトークもレギュラーで企画すれば良いと思う。(理工学系)
- 来場者の人数の割には大賞の投票数が少なく感じたのですが、もし投票率が低いのであれば投票率が上がると良いと思います(もし票が割れていただけで投票率は結構高かったのであればまったく問題ありません)。(医薬生命科学系)
- 高校生は別枠で優秀ポスター発表賞を設定されると良い。(医薬生命科学系)
- 高校枠以外にも、京大の方以外にも他大学の方の発表枠等があっても色々な方の発表が聞けて楽しそうです。(理工学系)
- 出展者同士の交流は最初にやった方が喋る練習になるかも。(理工学系)
- 研究者のほうが多くて来場者が気軽に見られない気がした。(理工学系)

運営について (11 件)

- Cloak (クローク) があると良いかもしれません。(理工学系)
- 学内限定タイムでも一般来場者がけっこう残っており、メリハリがなくなっていました。(医薬生命科学系)
- 学内限定タイムの始まりがよくわからなかった。(片付けの時間なのか、学内限定タイムの時間なのか) (医薬生命科学系)
- 身内なのか一般来場者なのかもっと一目で区別できる名札にして欲しい。(理工学系)
- 水がもっとほしい。最後のドリンク交換もソフトドリンクを充実させてほしい。(医薬生命科学系)
- 入り口から左側に多くの来場者がいた。左に行きたがる人の習性なのか、それとも番号の若い順にまわっているのか。具体的な改善策は思い当たりませんが、工夫していただければうれしいです。(医薬生命科学系)
- 入り口が一カ所だったので入りにくかった。地下の生協側から入れず困った。(医薬生命科学系)
- 来場者が必ず受付を通るようにして欲しい。(人文科学系)
- 学内限定タイムの前に休憩時間があれば良かったかなと思います。(社会科学系)
- 備え付けられていたペットボトル飲料水の本数が少なかったため、登録した人数分を用意していただけるとありがたいです。(理工学系)
- 来場者の写真撮影に関する指針のようなものを作成していただけるとありがたいです。専門家でない来場者もいるので、ネットモラル等千差万別だと思います。後々どのような論評と共に SNS に up されるかわかりませんが、リスクヘッジを考えると撮影禁止としても良いのかと思います。こちら辺は議論が必要かと思います。(医薬生命科学系)

〈③このような来場者ともっと話したい〉

小中高、大学生、若者 (18 件)

- 小学生、中学生、高校生など若い世代の方。(医薬生命科学系)
- 近隣の小・中学生、高校生、大学生。(理工学系)
- 中学生程度の若い来場者(授業で習っている理数系科目を学ぶことが、科学技術の発展に重要なことを感じてほしい)。(理工学系)
- 中学生、高校生が多くなるとうれしいですね。(理工学系)
- 中高生。出展されていた高校生との会話はとても興味深く、励みになりました。(医薬生命科学系)
- 中高生。真剣に学ぼうという気持ちがうれしいし、話し手にとっても研究者としてのモチベーションを考え直す良い機会になると思う。(医薬生命科学系)
- 高校生や中学生がもっといてほしい。(人文科学系)
- 理系を目指している中高生。(理工学系)
- これから進路を決めようとしている中学生や高校生。(理工学系)
- 高校生を含めた若手ともっと話がしたいです。(社会科学系)
- 受験生。(理工学系)
- 中高校生や大学の学部生くらいの次代を担う学生。(医薬生命科学系)
- 高校生、(京大以外の) 大学生。(医薬生命科学系)
- 高校生、大学の学部生。(理工学系)
- 高校生・大学生。(理工学系)
- 高校生ともう少し話したかった。学位を取られたばかりの若手研究者とのお話も楽しかった。(社会科学系)
- もっと若い来場者と話したいと思います。(理工学系)

- 未来の力、ちびっ子、と対話したい！（理工学系）

社会人（8件）

- 一般市民。（医薬生命科学系）
- 小中高校の教員の先生方。（医薬生命科学系）
- 大学OB。（理工学系）
- 京都府、京都市など行政の方。研究成果を地域に活かすための接点づくりのきっかけとして。（医薬生命科学系）
- 他大学のスタッフ・企業・政治家など。（医薬生命科学系）
- 今年も多少、来場されていたと思いますが、（いわゆる研究分野におられない一般の方の他、）研究について国民に発信するメディアの方、研究成果を活かす行政／政治家の方。（医薬生命科学系）
- 各種メディア・報道機関（人文科学系）
- イベントの華となる著名人を呼んでもいいかも知れない。（理工学系）

現状維持、だれでも、その他（4件）

- 今のままで良いです。（理工学系）
- 年齢や立場も含めて、既になりに多様な方がご来場されていると感じます。（理工学系）
- どのような方でも、私達の研究に少しでも興味を持ってくだされば幸いです。質問等してくださるならもっと嬉しいです。（理工学系）
- 学外で実行すれば、もっと京大と関係ない人と話せるかも。（理工学系）

- 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URA による支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。

〈「国民との科学・技術対話」への取り組み（6 件）〉

- 「国民との科学・技術対話」の義務があるグループには、「京都大学アカデミックデイ」の存在は有り難いです。（理工学系）
- このイベントは市民の方とのつながりの点でたいへんありがたく、いつも利用させていただいています。また、まったく分野の異なる研究を見ることができ、とても刺激になります。ぜひ継続していただきたいと思います。（理工学系）
- この取り組みを大学がアレンジして行ってもらえることは大変にうれしい。（理工学系）
- もっと機会を増やしてほしい。（医薬生命科学系）
- 広く国民に関心を持ってもらうことは、研究の持続性にとって重要であるので有意義なイベントでありました。このような、社会の要請に応える活動と並行して気兼ねなく自由闊達な議論が展開される研究環境整備に今後とも努めていただきたく思います。（理工学系）
- 毎年たくさんの方の来場があり、継続することの大切さを感じています。企画・運営、お疲れさまでした。（人文科学系）

〈URA による支援（12 件）〉

- URA のみなさんのお仕事、たいへん尊く、ありがたいです。ありがとうございました。URA の方からも一つ研究ポスターを作ってみてはどうでしょうか。（人文科学系）
- URA の活動は、今後重要性が高まると思います。宜しくお願いします。（理工学系）
- いつも適切かつ具体的なアドバイスをいただき、大変ありがたく思っております。また、アカデミックデイ当日もご配慮いただき感謝しております。（医薬生命科学系）
- このような機会を作っていただき、ありがとうございます。（理工学系）
- サイエンスカフェ等の交流の場を設けたいと思った際にサポートいただけるようなシステムがあると対話が円滑に進んでありがたいなと感じております。（医薬生命科学系）
- ポスター前に足を運んでくださった URA の方々から、研究費獲得のことなど貴重なコメントをいただくことができました。今後も、とくに外部資金獲得の際に、自分の研究の”売り”がどこにあるのか、という新たな視点をいただく機会があると嬉しいと思います。（理工学系）
- 頑張っていると思う。今後も頑張ってください。（理工学系）
- 京大アカデミックデイ以外にもっとどのような活動をなされているかを教えてほしいです。（理工学系）
- 研究室のホームページを作る・編集する場合にも相談に乗ってもらったりできると良いかもしれません。（医薬生命科学系）
- 素晴らしい。（理工学系）
- 大変有難い機会をおつくりいただき、感謝しています。（医薬生命科学系）
- 特にありません。いつもご支援いただき感謝申し上げます。（医薬生命科学系）

3-3. 京都大学アカデミックデイ賞

京都大学アカデミックデイでは、出展研究者に贈る「京都大学アカデミックデイ賞」を設けています。賞を設けた理由は、さらによりよい対話を目指した研究者が評価される（価値をつけられる）仕組みを作ることです。今後、研究活動の一環として「国民との科学・技術対話」活動が普及・定着すること、また活動が研究者にとって負担にならないことを目指して始めました。

来場者アンケートの中に「本日の『ちゃぶ台囲んで膝詰め対話』と『研究者と立ち話』の中で、あなたがよかったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？」という質問を設けました。今回は全出展の中から一番コメントを多く集めた出展研究者に「京都大学アカデミックデイ大賞」を、また大賞を除いて「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」と「研究者と立ち話」で、それぞれ一番コメントを多く集めた出展研究者に「京都大学アカデミックデイ賞」を贈りました。

■ 3-3-1. 2018 年度「京都大学アカデミックデイ賞」受賞者

● 京都大学アカデミックデイ大賞

出展名：RNA～生命をコントロールする分子～
出展代表者：齊藤博英（iPS 細胞研究所）



● 京都大学アカデミックデイ賞：「研究者と立ち話」部門

出展名：重力波物理学・天文学：創世記
出展代表者：田中貴浩（大学院理学研究科）



● 京都大学アカデミックデイ賞：「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」部門

出展名：遺伝カウンセラーと学ぶ「がんゲノム」

出展代表者：和田敬仁（大学院医学研究科）



■ 3-3-2. アンケートの上位の展覧

来場者からの賞についてのアンケートでコメント数の多かったポスター上位 10 件（コメント数 9 位が 4 件あったため合計 12 件）、ちゃぶ台上位 3 件は、以下の展覧でした。

● 研究者と立ち話

「RNA～生命をコントロールする分子～」出展代表者 齊藤博英（iPS 細胞研究所）	
・ 今後は楽しみで賞	・ RNA ワールド賞
・ さらに興味をかきたてられたで賞	・ 白衣の先生を初めて見たで賞
・ 期待している人も多いで賞	・ 最後まで熱く語ってくれた賞
「重力波物理学・天文学：創世記」出展代表者 田中貴浩（大学院理学研究科）	
・ 宇宙の美しさを知れたで賞	・ 最先端の研究を伝えてもらえたで賞
「世界にあふれる「究極の選択」」出展代表者 大庭弘継（大学院文学研究科）	
・ 答えのない問題にもくじけないで賞	・ ポスターが分かりやすいで賞
「現実から目を逸らすな～海洋ごみ問題～」京都府立海洋高等学校	
・ タイムリーな研究で賞	・ 気付きをありがとうございましたで賞
「どうぶつにヒトの病気になってもらう」出展代表者 高橋良輔（大学院医学研究科）	
・ これからも医療のためにがんばっていただきたいで賞	・ とてもわかりやすく親切でした賞
「かさぶたとマクロファージで再生医療」出展代表者 西東洋一（ウイルス・再生医科学研究所）	
・ わかりやすく説明してくれたで賞	・ 発想がすごい賞
「素粒子を見よう！」出展代表者 小原脩平（大学院理学研究科）	
・ 興味がわいたで賞	・ またお話ししてほしい賞
「温泉で魚と緑を増やす研究」大阪府立長野北高等学校	
・ 未来の科学者賞	・ とても優しいで賞
「なぜ、アレルギーは増えているの？」出展代表者 高野裕久（大学院地球環境学）	
・ 花粉症をなくして欲しいで賞	・ さらなる成果に大きく期待しています賞
「光を使ってトコトン探ろう、細胞のコト」出展代表者 松田道行（大学院医学研究科／大学院生命科学研究科）	
・ 将来に向けて頑張ってください賞	・ 細胞診とか臨床化にきたいしてます賞
「アフリカから学ぼう」出展代表者 松田素二（大学院文学研究科）	
・ お話が面白かったで賞	・ アフリカに興味が変わったで賞
「価値観と生活習慣、つながる脳」出展代表者 村井俊哉（大学院医学研究科）	
・ 興味深かったで賞	・ もっともっと詳しく知りたいで賞

● ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

「遺伝カウンセラーと学ぶ「がんゲノム」」出展代表者 和田敬仁（大学院医学研究科）	
・ やさしく教えてくれたで賞	・ 知ってよかったで賞
「民主主義からなぜナチスが生まれたのか」出展代表者 藤原辰史（人文科学研究所）	

・ 傍聴者の質問にいていねいに説明してくれたで賞	・ 興味をそそる内容・お話だったで賞
「図書館はみんなの居場所？」出展代表者 八谷舞（人文科学研究所）	
・ 図書館はおもしろいで賞	・ タメになった賞

4. 出展者情報

以下、各出展の「〇〇〇賞」は、来場者のアンケート用紙に設けた質問「あなたがよかったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？」の回答の中から特徴的なものを表記しました。各出展のポスターやその他の写真は京都大学アカデミックデイ 2018 のWEB サイトでもご覧になれます (<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/2018/>)。

4-1. 研究者と立ち話

01

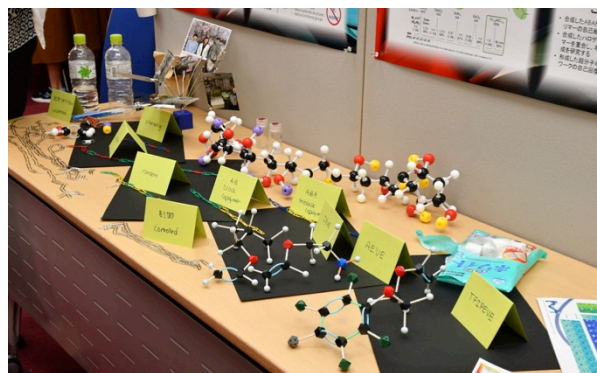
超分子ポリマーネットワークの形成へ

Kira Landenberger (大学院工学研究科)



女性/外国人研究者がんばって賞

分子が重合したポリマーによって構成される、新しい材料を作り出す研究に取り組んでいる。特に、弱い(非共有的)相互作用によって形成される「超分子ポリマーネットワーク」に注目し、ポリマーを弱く結合させる新しい方法を開発している。このような手法により自己修復性や温度応答性を持つ材料の創製が可能になる。



02

アミロイドβの凝集を抑制する天然物

入江一浩 (大学院農学研究科)



研究者の方がステキすぎるで賞

アルツハイマー病の発症において、アミロイドβタンパク質(Aβ)の凝集(オリゴマー化)が重要な役割を果たしている。本研究では、機能性食品成分や生薬中の天然有機化合物の中から、Aβの凝集を抑制するものを幅広く検索し、同定したそれぞれの化合物の作用機構を分子レベルで系統的に解析した。



03

グリーンインフラで台風被害を低減

森信人（防災研究所）



緑豊かな減災が楽しみで賞

気候変動に伴う台風の強大化が予想され、高潮高波による沿岸災害は深刻になると懸念されている。災害の軽減策として自然が持つ防災効果を生かしたグリーンインフラが注目されている。気候変動で台風による沿岸災害は今後どう変化し、グリーンインフラ（マングローブ）で太平洋諸島の災害を軽減できるのか明らかにする。



04

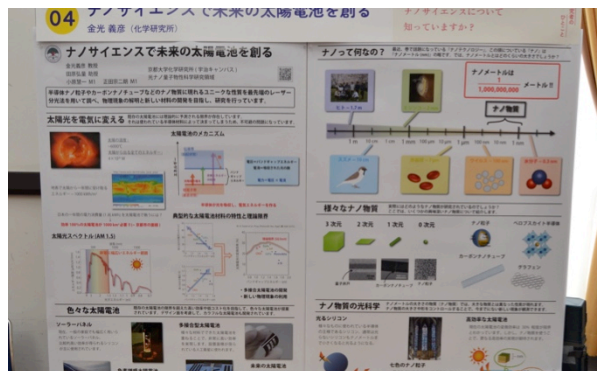
ナノサイエンスで未来の太陽電池を創る

金光義彦（化学研究所）



親身に話してくれたで賞

自然エネルギーの有効活用が叫ばれる中、太陽光は重要なエネルギー源の一つです。太陽光を使って電気が作られる仕組みや、より高い効率を目指すための新しい有機無機ハイブリッド半導体やナノ粒子半導体について分かりやすくお話しします。



05

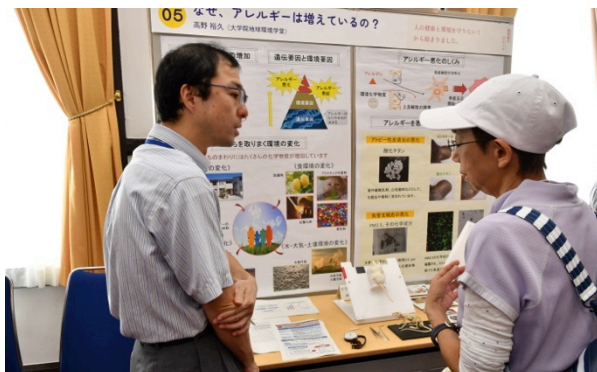
なぜ、アレルギーは増えているの？

高野裕久（大学院地球環境学）



とても社会に必要とされているで賞

近年、アトピー性皮膚炎、花粉症、気管支喘息などのアレルギー疾患が増えています。アレルギーは、遺伝要因によって、そのなりやすさが決まり、その上に様々な環境要因が加わって、発症したり悪化したりすると考えられています。私たちは、この発症や悪化を促す環境要因として環境汚染に注目しています。



06 世界にあふれる「究極の選択」
大庭弘継（大学院文学研究科）

これから社会全体で考えていくべき問題で賞

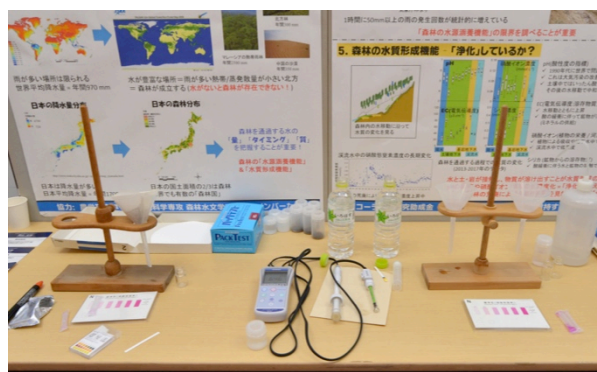
この世界には「究極の選択」が存在する。紛争の現場、感染症への対処、太陽観測の研究所において。どの選択肢にもデメリットがあり、多くの人々の運命を左右するため、決断には痛みを伴う。そのような「究極の選択」が必要とされるときがあり、ふだんから考えておかねばならない。それを「常識」とするため、本発表を行う。



07 水はどこから来てどこへ行くのか？
勝山正則（大学院農学研究科）

水を見る目が変わったで賞

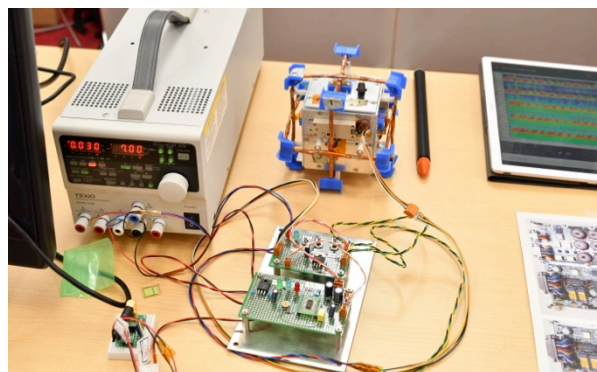
「水の惑星」地球。大雨による災害や、夏の渇水が問題となることもあります。日本では水で困ることはあまりありません。でも、なぜ水はなくなるの？そもそも水はどこにあるの？この先もずっと維持されていくの？そこでは森林とそれを支える土や岩の役割が重要です。最新のモニタリング研究の成果から考えます。



08 宇宙の声を聞いてみよう！
小嶋浩嗣（生存圏研究所）

宇宙に響くコーラスをずっと聞きたいで賞

宇宙空間は、希薄な電離した気体であるプラズマからなっています。このプラズマ中では、様々な電波が発生していて、その電波を人工衛星で測定すると、その空間がどうなっているのか知ることができます。この展示では宇宙空間で発生している電波現象とその測定について説明します。



09

鳥の足跡から恐竜の姿勢を推定する

田中郁子（大学院理学研究科）



マンガのモデル本人に会えて良かったで賞

鳩やカラスなどの鳥類は、恐竜の生き残りです。ティラノサウルスがどのように歩いていたかを直接観察することはできませんが、現在生きている鳥の歩き方と骨の形の関係を徹底的に追求することで、ティラノサウルスの化石や足跡から、彼らがどのように歩行していたのかを復元しようとする試みについて紹介します。



10

学びと教えるの未来についての研究

緒方広明（学術情報メディアセンター）



これからどうなるか気になる賞

今から 10 年後の未来の教育はどのようなになるでしょうか？我々は、学びと教えるの未来について研究しています。



11

現実から目を逸らすな～海洋ごみ問題～

京都府立海洋高等学校



これからも研究を続けてほしいで賞

プラスチックごみが水域浮遊中に紫外線や波浪等で微細化し、5mm以下になったものを「マイクロプラスチック（以下、MP）」というが、回収が不可能に近く、その実態はほとんど知られていない。本校の調査で得られた MP を展示するとともに、誰でもどこでも調査可能な簡易プランクトンネット製作について提案する。



12

RNA～生命をコントロールする分子～

齊藤博英（iPS細胞研究所）



説明が易しくて分かりやすい！賞

生命が生きていく上で重要な役割を果たしているのがRNAという分子です。私たちは、この“RNA”を使った合成生物学やナノテクノロジー研究を通じて、細胞を自在に操るための新技術の開発を行っています。今後、その技術をもとにiPS細胞を使った再生医療の早期実現を目指します。



13

木から自動車燃料を創る！

坂志朗（大学院エネルギー科学研究科）



今後の発展に期待賞

木は循環型資源、ガソリンは化石資源。そんなガソリンの替わりとなるバイオ液体燃料を木から創ることができれば、CO₂を増やさない未来型エネルギーが実現できます。



14

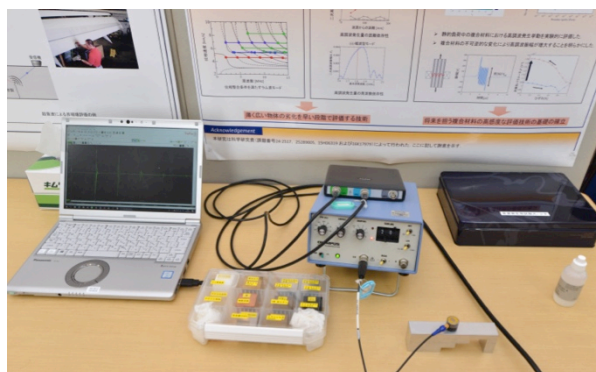
音で見るー超音波による非破壊検査ー

松田直樹（大学院工学研究科）



日本を支えるインフラを守って下さいで賞

安全な暮らしを陰から支える非破壊評価法についてご紹介します。超音波とは何かから最先端の複合材料の検査まで、幅広く扱います。音に関する疑問・質問にもお答えします。



15

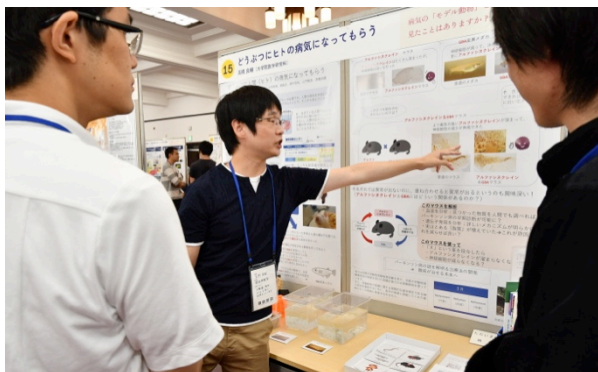
どうぶつにヒトの病気になってもう

高橋良輔（大学院医学研究科）



医者の道、来世で選びます賞

難病の原因を探ったり治療法を開発するためには「モデル」が必要です。人間の病気を完全に再現することは困難ですが、マウスを始めとした実験動物に人間と同じ病気になってもうことで、そこから見えてくるものがあります。私達が作成したモデル動物とそこから得られたものについて発表します。



16

元素戦略プロジェクト

田中庸裕（実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池元

素戦略研究拠点ユニット）

田中功（構造材料元素戦略研究拠点ユニット）



ワクワクさせてくれた賞

「元素戦略」耳慣れないことばだと思えますが、今、世界中から注目されているプロジェクトです。京都大学では2つの研究拠点を設置し、産官学が密接に連携して研究を行っています。その取組みについてお話しします。



17

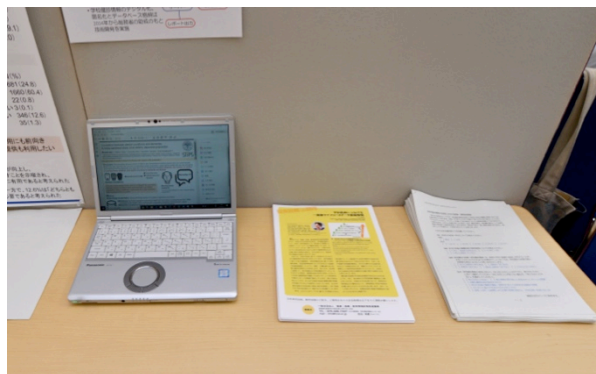
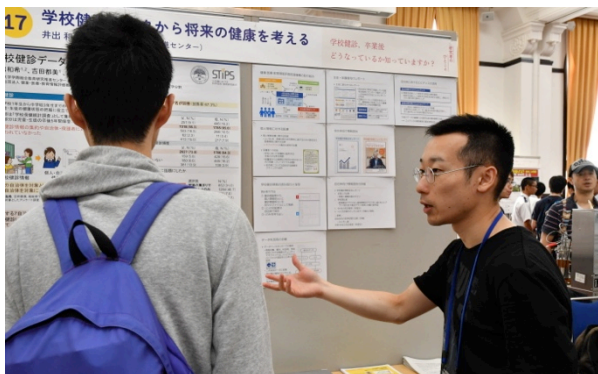
学校健診データから将来の健康を考える

井出和希（政策のための科学ユニット）



新しいデータの活用を考えた賞

身長や体重を調べる学校健診の情報は、卒後5年で破棄されています。子どもの頃の健康は将来の生活習慣病と関わることも知られており、活用により国民の健康増進が期待されます。そこで、全国の自治体と協力し、情報の収集・活用に取り組んでいます。最終的には、人生の健康史「ライフコースデータ」の構築を目指します。



18

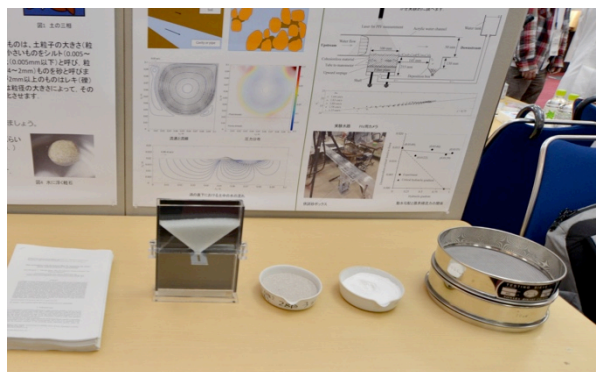
『土と水の科学』と生産基盤

村上章（大学院農学研究科）



土石流の解明に頑張りました賞

生産基盤を成す農業水利施設は、土質材料で作られているものが多く、自然由来の材料であるがゆえ、豪雨、地震、侵食による被害を受けます。「土」の様子・挙動は「水」と深く関わっているのです。私たちは、農業水利施設のマネジメントを目的として、土と水に関する力学を基礎および応用の観点から研究しています。



19

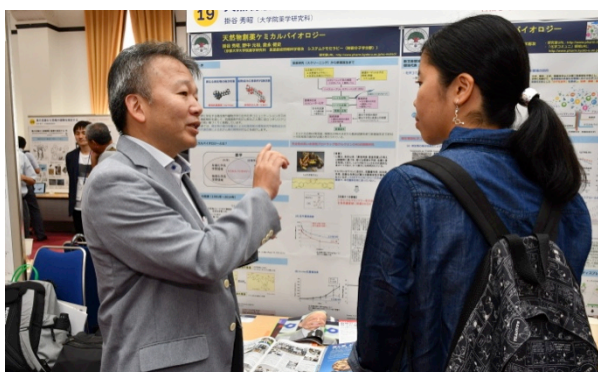
天然物創薬ケミカルバイオロジー

掛谷秀昭（大学院薬学研究科）



創薬ってすごい！！感動した賞

自然界に存在する微生物や植物が作り出す化学コミュニケーション分子の発見と機能解析を通じて、抗真菌剤や抗がん剤など人類に役立つオリジナリティーの高い薬づくりに挑戦しています。本発表では、微生物の複合培養法による抗真菌剤の開発研究や植物成分の革新的代謝改善による抗がん剤の開発研究などを紹介します。



20

微細加工で創る新たなナノバイオの世界

横川隆司（大学院工学研究科）



ハイパーおもしろかったで賞

機械工学的なマイクロ・ナノ加工技術により製作した微小流体デバイスの上で、生体分子や細胞の機能を再現することで実現する、新たなマイクロ・ナノバイオシステムを紹介します。モータタンパク質の駆動力を利用した分子デバイスや、血管やヒト iPS 細胞由来の臓器を育てる Organ-on-a-Chip を紹介します。



21

医療を創る統計学—臨床統計学

佐藤俊哉（大学院医学研究科）



親切だったで賞

医薬品や治療法の開発では、その最終段階で患者さんが参加する実験である「臨床試験」が行われます。臨床試験の実施には厳密な科学性、倫理性が求められ、統計学の考え方が不可欠となっています。この研究領域が臨床統計学であり、臨床統計学の実務・研究・教育を紹介します。みなさんも臨床統計家を目指してみませんか。



22

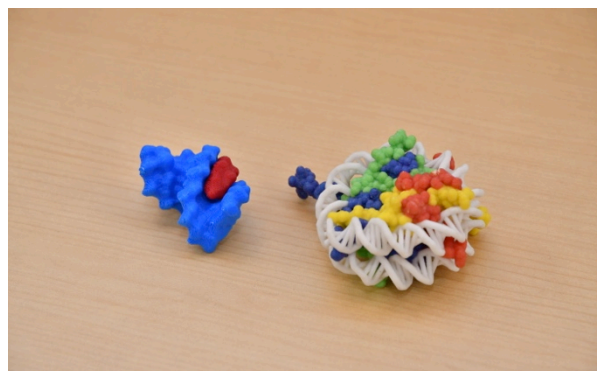
人工遺伝子スイッチライブラリー

杉山弘（大学院理学研究科）



最先端賞

私たちの研究は、DNA 配列を認識する N-メチルピロール-N-メチルイミダゾール (Py-Im) ポリアミドと機能分子を連結させた薬剤候補化合物のライブラリーを作成し、ヒトがん細胞に対する効果を評価しながら、新しいがんの治療薬の創成を目指しています。



23

東南アジアと考える持続可能な社会

河野泰之（東南アジア地域研究所）



サイコロ 世界 文化賞

持続可能な社会をつくるために、科学技術は大きな役割を期待されています。東南アジア諸国は爆発的な経済成長を遂げてきましたが、一方でエネルギー不足や生物多様性の損失、災害リスクの増大などの問題も山積しています。日本と東南アジアが一緒に地域に合った対処方法を共同研究できる仕組みの構築を目指しています。



24

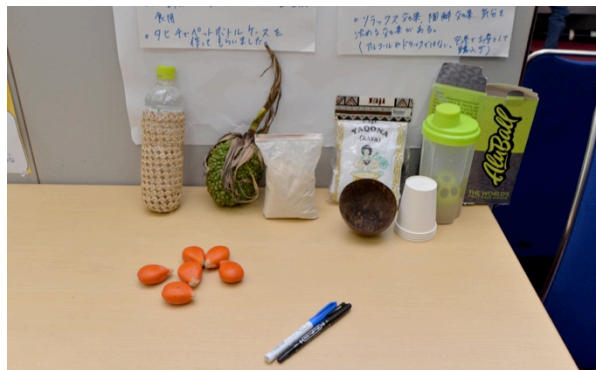
心のものさしー世界の言語の車窓から

西本希呼（大学院人間・環境学研究科／東南アジア地域研究研究所）



ドロ水のませてくれた賞

「たくさん」でどれくらいですか？「大きい」「小さい」とは何を基準にしていますか？「いくつか」の飴を持ってきて下さいと言われたら、何個持っていきますか？数えるという日常行為が、どのように言語に投影されているのか、オーストラリアの言語、南米の言語をはじめとする世界の様々な言語を観察して考察してみよう。



25

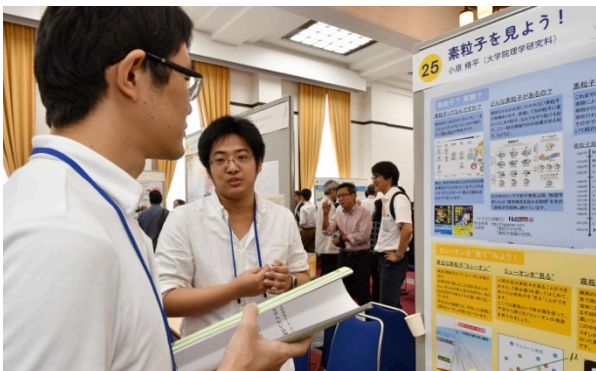
素粒子を見よう！

小原脩平（大学院理学研究科）



素粒子を見よう！ トーク力があって賞

素粒子を見たことがありますか？なかなかないですね、でも実は身の回りにはたくさんの素粒子が飛び交っています。そんな素粒子を皆さんにお見せします。素粒子半端ないって！



26

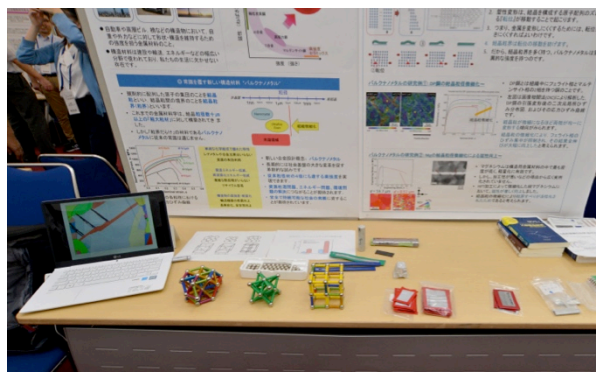
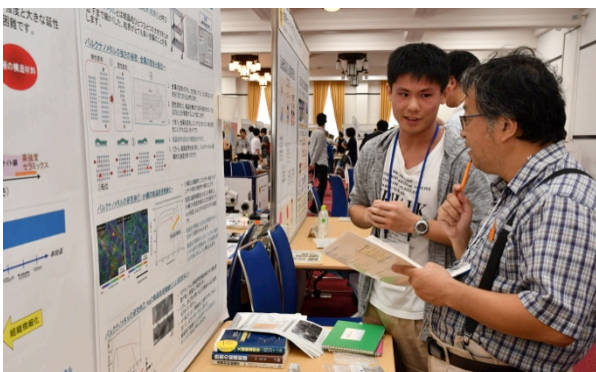
バルクナノメタル：常識を覆す金属材料

辻伸泰（大学院工学研究科）



バルクナノメタル 研究者の熱意が出ていたで賞

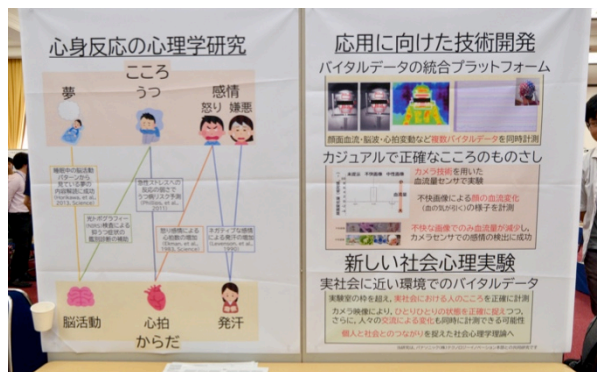
構造用金属材料は、スカイツリーをはじめとする巨大建築物や、自動車、スマートフォンなど様々な場面で用いられています。バルクナノメタルとは「粒界・バウンダリーだらけ」の構造を有し優れた強度と可塑性の両方を兼ね備えた、今までの常識を覆す材料です。そのバルクナノメタルの研究について紹介します。



27 生理センシングでリアルなところに迫る
内田由紀子（こころの未来研究センター）

リアルなところに迫る 関心が高まった賞

「目は口程に物を言う」と言いますが、顔にはたくさんの情報がつまっております、こころを映し出していると考えられています。しかし、私たちはどのような顔の変化をこころの情報として読み取っているのでしょうか？工学技術とコラボレーションすることで、顔の生理状態と脳活動、こころの内面との関わりを研究しています。



28 温泉で魚と緑を増やす研究
大阪府立長野北高等学校

君ホンマに高校生か？すごいで賞

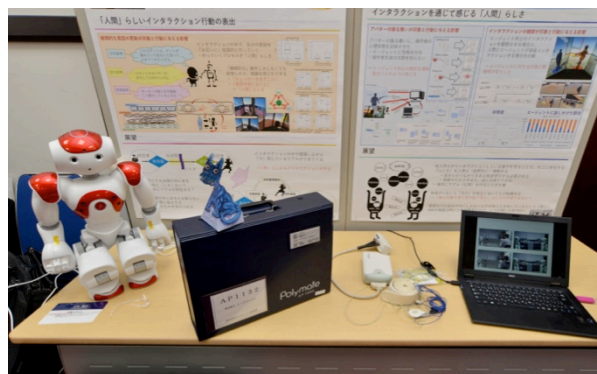
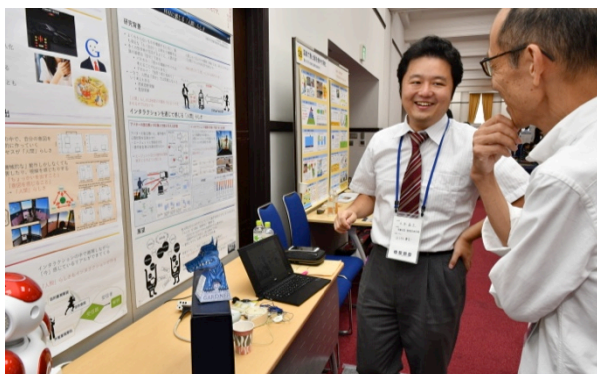
日本の中央構造線地帯の川の岸壁等から鉄イオンを大量に含む温泉の湧出が知られています。そこにフルボ酸という腐植生物質を添加し、フルボ酸鉄という酸化せず植物プランクトンが使える成分に変化させ、そのまま川から流れて海にたどり着く事で、植物プランクトンを増やし魚を増やしたり二酸化炭素を減らす方法の研究です。



29 鏡としてのエージェント
大本義正（大学院情報学研究科）

調べれば調べるほど奥が深いで賞

「人間的なモノ」を作るとき、まるで鏡のように、自らの「人間的な部分」を見つめていることに気がつきます。何が「人間的」なのか、人工物を作りながら考えています。



30

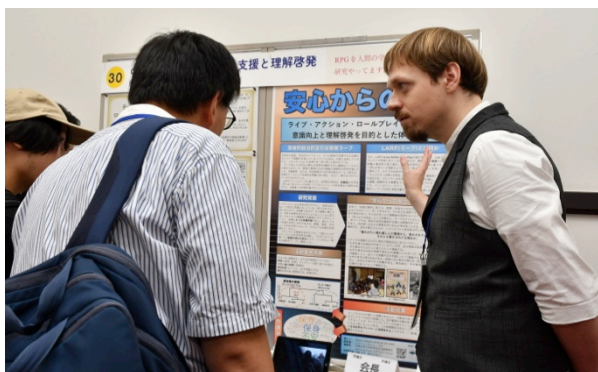
ロールプレイングによる支援と理解啓発

Björn-Ole Kamm (大学院文学研究科)



実際にとりくんでみたいで賞

TRPG や LARP というロールプレイングゲームのシステムを理解啓発や教育支援に援用する研究は、海外では以前より取り組まれている。本発表では、TRPG を特別支援教育・発達障害児支援に応用した実践事例の紹介と、LARP をひきこもり当事者心情を体験するための LARP プログラムの内容について解説する。



31

小さな磁石を用いたメモリーデバイス

塩田陽一 (化学研究所)



ぼくの話をよく聞いてくれたで賞

情報の記録のためには、メモリーデバイスが必要である。現在までは、ハードディスクなどが大容量のメモリーとして使われていた。しかしながら、技術の発展とともに、超高容量、超高速のメモリーデバイスが必要となっている。本ポスターでは、次世代メモリーデバイスの一つである、新規磁壁メモリーデバイスを紹介する。



32

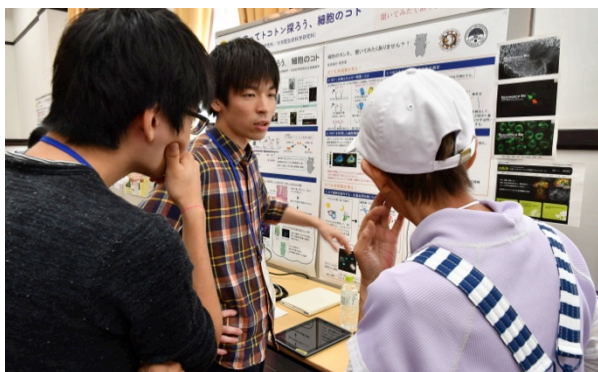
光を使ってトコトン探ろう、細胞のコト

松田道行 (大学院医学研究科/大学院生命科学研究科)



ポスターがきれいで賞

私たちは、生きた細胞内の分子のはたらきを測定できる蛍光バイオセンサーを多数作成してきました。さらに、生きたマウス体内での分子のはたらきをリアルタイムに観察するシステムを世界に先駆けて樹立しました。これまでに得られた成果の概要を多くの来場者と共有します。



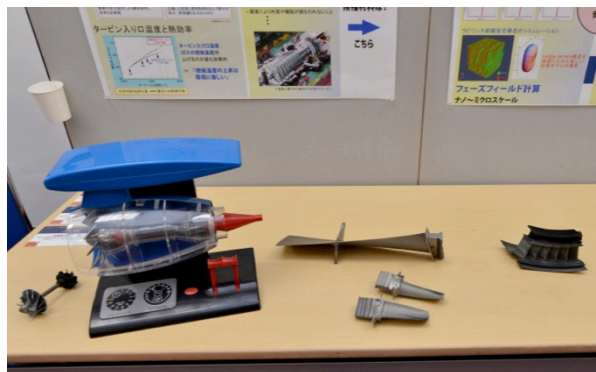
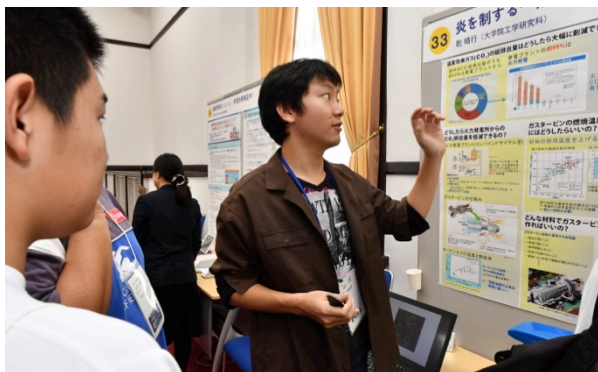
33

炎を制するー超耐熱構造材料 乾晴行（大学院工学研究科）



わかりやすかった賞

高熔点、高温強度に優れた MoSi_2 基軸材料と他のシリサイドからなる Brittle/Brittle 複相材料（融点約 2000°C ）中の界面の高機能化と組織の均質微細化により、高温高強度、高靱性を兼ね備えた 1800°C 級ガスタービンで使用可能な新規超耐熱材料の開発を目指しています。



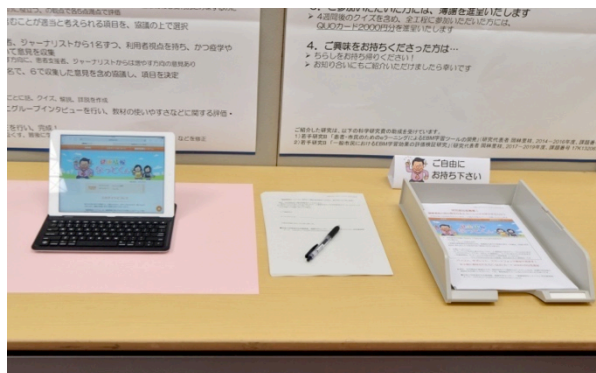
34

健康情報なっとくん：学習効果検証中！ 岡林里枝（環境安全保健機構）



ワクワクしたで賞

健康情報の読み解き方に関する e ラーニング教材「健康情報なっとくん」を開発しました。現在、この教材の学習効果を調べる研究を行っています。教材の内容や、どのようにして効果を調べるのか、その方法についてもご紹介いたします。興味を持ってくださった方には、ぜひ研究へのご参加も、よろしくお願いいたします！



35

表面や界面の不思議な世界 湊文俊（産官学連携本部）



化学の楽しさを語り合ってくれたで賞

物質の表面や異種との界面では、物質内部とは異なる現象が起きます。出来るだけ我々の生活に身近なところからこの特殊性を紹介し、その奥深さまで感じて頂ければと思います。



36

水銀の行方

高岡昌輝（大学院工学研究科）



水銀の不思議な世界に驚いたで賞

水銀は蛍光灯などの多くの製品あるいはプロセスに使われてきました。しかし、人の健康への影響が強いことから、昨年、人類はできるだけ使わないように国際的な取り決め「水俣条約」を作りました。しかし、副産物として水銀は出てきます。余剰になる水銀をどのように管理すべきでしょうか？



37

アフリカから学ぼう

松田素二（大学院文学研究科）



研究のウラ話を赤裸々に話してくれた賞

アフリカはつねに救済対象であり紛争や虐殺について同情する対象でありました。その一方で、豊かな大自然や失われた人間本来の姿が残存する理想郷とする視点も強力でした。現実のアフリカ社会からそこで豊かに創造されてきた問題解決のための知恵や人間理解の態度をとりだし学ぼうという10年プロジェクトを進めています。



38

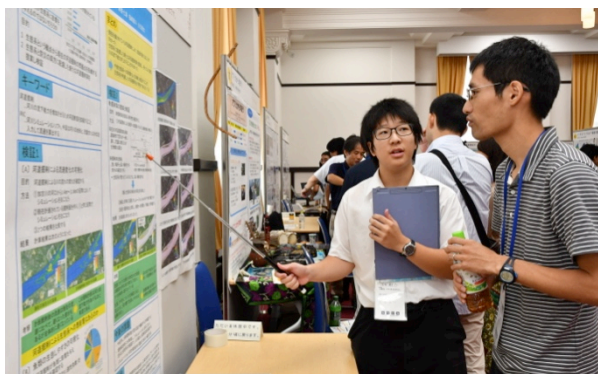
生態系を考慮した河道掘削法の提案

兵庫県立加古川東高等学校



将来が楽しい高校生たちで賞

加古川河口付近での生物数の減少が河道掘削工事の時期と一致した事実より、工事が生態系に影響を与えていると考え、現在の工事計画の問題点を河川シミュレーションソフト iRIC 等を用いて指摘する。また本来の河川整備の目的である防災能力を維持し、生態系に影響を与えない改善案を提供することを目的に研究をおこなう。



39

エスノグラフィを知ろう、そして使おう

宇田川彩（人文科学研究所）



私の興味にドンピシャ賞

エスノグラフィ（民族誌）は、人間について知るための手法でもあり、成果物でもあります。かつて人類学者は「未踏の地」で人々と信頼関係を築き、長期調査の成果としてエスノグラフィを記してきました。現在ではその対象は大幅に広がり、多様な分野で生かされています。エスノグラフィの可能性と一緒に考えてみませんか。



40

「いのち、人体、細胞」をどうする？

佐藤恵子（医学部附属病院）



「終わり」を見つめ直したで賞

あなたは、自分の人生の最期をどう過ごしたいか考えたことがありますか？あなたは、研究のために自分の細胞を提供することについて考えたことがありますか？「いのち、人体、細胞」を取り巻く現状と課題について、一緒に考えてみませんか。



41

法の考え方の共有と影響

松本和洋（大学院法学研究科）



これからも賞

法というものは目に見えないもの。でも法というルールにしたがって私たちは生活をしており、しかも、そのルールは国によって様々です。その法を考える・法を学ぶとはどのように行われてきたか。ヨーロッパ大陸とは独自の発展を遂げたとされるイングランドを対象に研究しています。



42

どうする？どうなる？福島の放射能

米田稔（大学院工学研究科）



大きな問題に取り組んでいるで賞

福島第一原発事故で多くの放射能汚染廃棄物や放射能汚染土壌が発生しました。現在、これらの多くを資材として再利用し、最終処分場で保管する量をできるだけ減らそうとしています。再利用しても大丈夫なの？高濃度のものはどのように処分するの？処分場は確保できるの？このような問題への解答を求めて研究しています。



43

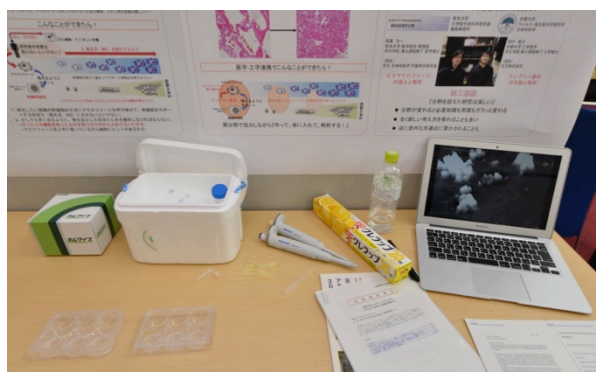
かさぶたとマクロファージで再生医療

西東洋一（ウイルス・再生医科学研究所）



楽しい話ができたで賞

誰の体にもいるマクロファージという細胞は、体にできたがん細胞を育ててしまう性質があります。その性質を逆手にとって、良い細胞を増やす必要がある再生医療で活躍してもらおうという開発・研究を行っています。再生が必要な場所にマクロファージを呼び活躍させるため、かさぶたの成分フィブリンに着目しました。



44

新しい材料設計：ハイエントロピー合金

乾晴行／辻伸泰（大学院工学研究科）



ワクワクしたで賞

多種類の元素を混ぜ合わせた金属はハイエントロピー合金と呼ばれ、未開の材料分野とされてきました。今、この合金の持つ様々な可能性が注目を集めており、全く新しい材料設計の指針となりつつあります。材料設計の最先端を紹介します。



45

価値観と生活習慣、つながる脳

村井俊哉（大学院医学研究科）



研究テーマが面白かったで賞

あなたの価値観は生活に影響し、生活の蓄積は脳を変化させ、そして脳は価値観を形成します。私たちはこのプロセスを様々な角度から検証することで、今と未来をより良く生きるための“脳の健康”を追求しています。どうすれば価値・生活・脳を客観的に見えるのか？共に考えていきましょう。



46

“史料”というフィールドへ

大野美紀子（東南アジア地域研究研究所）



ポスターの画像が魅力的でした賞

日本の文献学最前線から東南アジアの大乗仏教經典の謎を探ります。



47

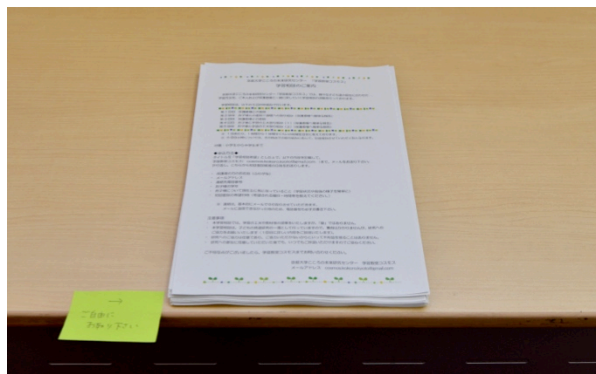
子どもの多様性を考える

田村綾菜（こころの未来研究センター）



これからの未来に必要不可欠賞

聞いて理解するのは苦手だけど目で見れば理解しやすい子、読んだり書いたり苦手だけど聞いたり話したりは得意な子。みんな一緒にやり方ではなく、一人ひとりの子どもにあった学習方法やコミュニケーション方法を見つけるために、子どもの様子を多面的に捉え、どんな工夫が必要なのかを考えています。



48

誰がために埃及資料を研究する 横山操（総合博物館）



昔の人との対話賞

100 年以上前にエジプトで発掘された資料について、コプト織物そしてスーダン土器を対象として研究しているそれぞれの研究者が最新の成果をお示しします。これらの資料は、今、なぜ、ここにあるのでしょうか？そして、今、ここで、わたしたちが研究する意味は？皆様と一緒に考える機会となれば嬉しいです。



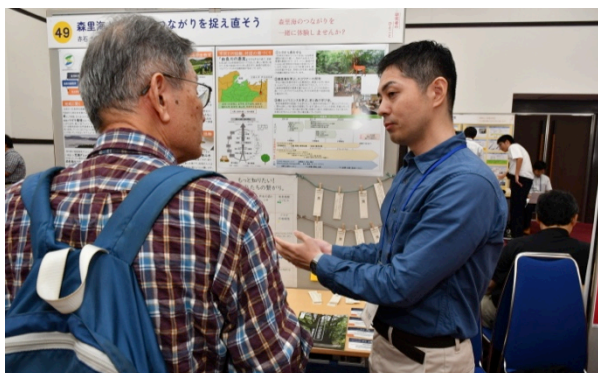
49

森里海と私たちのつながりを捉え直そう 赤石大輔（森里海連環学教育研究ユニット）



つながりを感じられたで賞

「森里海の連環」とはどういう事でしょうか。何となく、山から海へ川が流れていることは想像できます。しかし普段の生活の中で、森里海の連環や分断により起きる問題を意識する機会はありません。森里海のとつながりや様々な問題を実感し、自分ごととして行動していく、研究者と市民のネットワークについてご紹介します。



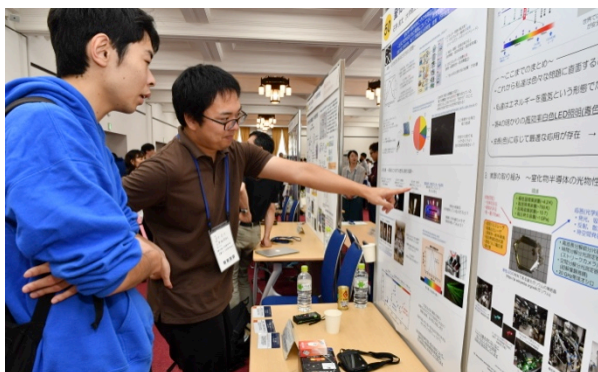
50

窒化物半導体材料とその光物性の魅力 石井良太（大学院工学研究科）



未来を任せたで賞

白熱電球・蛍光灯に次ぐ、第3の照明として白色LEDが世界に新たな光を照らしつつあります。白色LEDの実現は2014年ノーベル物理学賞の受賞対象となった青色LEDの発明が鍵となっています。ここでは、青色LEDの材料である窒化物半導体と、その魅力を解き明かす光物性評価技術の現状と未来について紹介します。



51

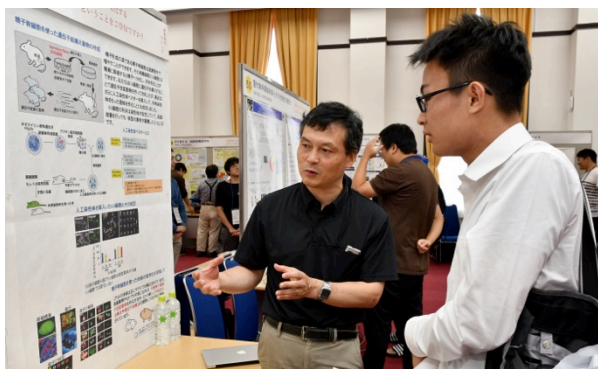
精子を作る幹細胞とその操作技術

篠原隆司（大学院医学研究科）



これから少し裏路で研究ががんばってほしいで賞

精子幹細胞は活性酸素に抵抗し、突然変異頻度が体細胞よりも低い。更に、短縮するテロメアを持っているにもかかわらず増殖を続けることから、精子幹細胞が独自の抗老化機構を持つ可能性が高い。そこで本研究では精子幹細胞のテロメア維持及び活性酸素耐性機構の解明と体細胞からの老化促進シグナルの同定を目指す。



52

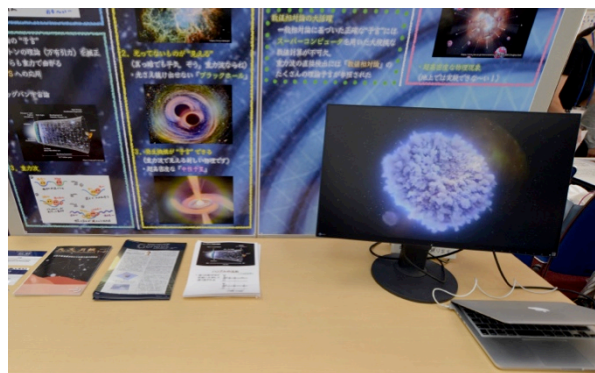
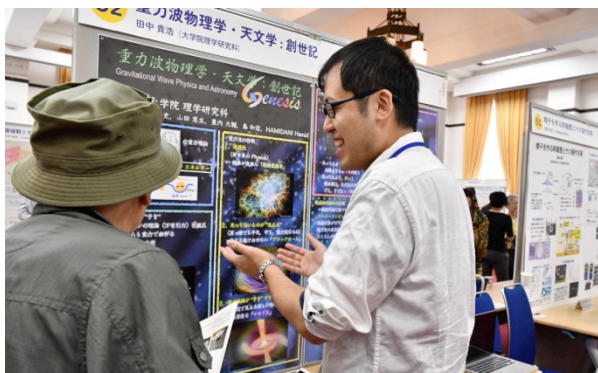
重力波物理学・天文学：創世記

田中貴浩（大学院理学研究科）



深淵なミステリーの世界に導いてくれたで賞

重力波の直接検出がはじまり、物理学、天文学の両面から大きな革新が起こっています。日本の大型の重力波観測装置も、次の国際共同観測には加わります。私たちは、重力波解析と理論の融合から成果を最大にするような研究に取り組んでいます。



4-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

53

民主主義からなぜナチスが生まれたのか
藤原辰史（人文科学研究所）



先生のご研究を世界の平和につなげて欲しいで賞

第一次世界大戦後の「ヴァイマル憲法」によって、社会的生存権、労働権、表現の自由などが保障され、史上稀にみる自由で平等な社会が憲法上は出現した。しかし、憲法制定後 14 年で、以上の権利を認めない監視社会、ナチ党独裁の時代を招いてしまう。それはなぜか。参加者とともに考えてみたい。



54

木の文化を科学的にみる
田鶴寿弥子（生存圏研究所）



木に触れ、香りを楽しめ、癒されたで賞

日本の文化に欠かせない木材。一緒に木に触れ、日本の木材の見分け方について勉強してみませんか。本出展では、樹種を見分ける方法の現状や課題を紹介するとともに、京大宇治キャンパスに位置する木の博物館的存在「材鑑調査室」についても紹介します。



55

図書館はみんなの居場所？
八谷舞（人文科学研究所）



会えてよかったで賞

100 年前の図書館、想像できますか？そこにはどんな人がいますか？男性？女性？子ども？お年寄り？19～20 世紀転換期アイルランドの図書館を例に、図書館が当時の人々にとってどのような場所だったのかをご紹介します。加えて、西洋史学を専攻している研究者がどんな生活をしているかについてもお話しします！



56

進化を続ける放射線治療

溝脇尚志（大学院医学研究科）



興味を持ったで賞

呼吸により動くがんを追いかけて照射する動体追尾照射、波状軌跡で体軸に対して任意の角度から 3 次元的に病巣に集中して放射線照射する Dynamic WaveArc 照射、最先端放射線治療技術の適用拡大により身体に優しいがん治療の普及を目指しています。



57

地球から消えそうな植物たちを守る工夫

瀬戸口浩彰（大学院地球環境学堂）



植物と人との愛が育つで賞

日本の絶滅危惧生物種の半分は、植物です。この事は知らない人が多く、皆さんやテレビの関心は朱鷺などの鳥や獣に関心が向きがちです。いま多くの植物で絶滅の恐れがあり、いま、その回避策を探ることが必要です。この発表では、大学と植物園がどのような工夫と奮闘を繰り返しているかについてお話しします。



58

縁の下の力持ち「触媒」と「計算化学」

榊茂好（福井謙一記念研究センター）



地味と言わないで。理論化学すごいで賞

触媒は私たちの身近でも、化学工業、企業、大学の研究室でも大切です。計算化学も実験では知ることのできないことを私たちに教えてくれます。実は、縁の下の力持ちである触媒と計算化学は密接な関係にあります。そんなことを説明します。



59

社会的に認められない結婚と親子関係

藤倉康子（人文科学研究所）



こういうパターンがあったのか賞

結婚と売春は、多くの社会において別々の領域に属するものとされています。この研究紹介では、ネパールで「売春カースト」とみなされてきたコミュニティでのフィールドワークの経験から、「妻」となれなかった女性たちと認知されなかった子どもたちの権利の問題を一緒に考えたいと思います。



60

遺伝カウンセラーと学ぶ「がんゲノム」

和田敬仁（大学院医学研究科）



ガンばってカウンセラーしてほしいで賞

「がんゲノム」という言葉を知っていますか？「がん」は生活習慣やたばこが関係していると習ったけれど、「遺伝」が関係しているとも聞いたことがある、そんな方へ！私たちは遺伝に関する悩みに寄り添う遺伝カウンセラーです。がん細胞の情報である「がんゲノム」「遺伝」について一緒に考えてみませんか？



4-3. 出展参加者一覧

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
1	○	大学院工学研究科 Kira Landenberger 講師
2	○	大学院農学研究科 入江 一浩 教授 村上 一馬 准教授
3	○	防災研究所 森 信人 准教授 志村 智也 特定助教
4	○	化学研究所 金光 義彦 教授 田原 弘量 助教 小原 慧一 修士課程1年 正田 宗二郎 修士課程1年
5	○	大学院地球環境学堂 高野 裕久 教授 本田 晶子 助教 田中 満崇 特定研究員
6	○	大学院文学研究科 大庭 弘継 研究員 高木 裕貴 博士課程 防災研究所 玉澤 春史 研究員 大学院理学研究科 河村 聡人 博士課程 山梨大学 小松 志朗 准教授 東京大学 中村 長史 特任研究員 名古屋大学 大園 誠 研究生
7	○	大学院農学研究科 勝山 正則 特定准教授 小杉 緑子 教授 鎌倉 真依 日本学術振興会特別研究員(RPD) 東 若菜 日本学術振興会特別研究員(PD)
8	○	生存圏研究所 小嶋 浩嗣 准教授 大学院工学研究科 新城 藍里 修士課程1年 菊川 素如 修士課程1年
9	○	大学院理学研究科 田中 郁子 日本学術振興会特別研究員(PD)
10	○	学術情報メディアセンター 緒方 広明 教授 ブレンダン フラナガン 特定講師 大学院情報学研究科 リ ケイユウ 博士課程1年
11		京都府立海洋高等学校

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
	○	長岡 智子 教諭 大森 帆貴 3年 下戸 宥人 3年 山口 稜真 2年 森武 蒼太 2年 谷口 絵梨 2年 高橋 弥来 2年
12	○	iPS細胞研究所 齊藤 博英 教授 大野 博久 特定研究員 中西 秀之 特定研究員 川崎 俊輔 特定研究員 大学院医学研究科 弘澤 萌 博士課程3年 赤峰 冴 修士課程2年 小野 紘貴 修士課程2年 山縣 茉莉 修士課程1年
13	○	大学院エネルギー科学研究科 坂 志朗 特任教授／名誉教授 河本 晴雄 教授 南 英治 助教 Harifara Rabemanolontsoa 特定助教 趙 媛媛 博士課程1年 美藤 大輝 修士課程2年 吉永 大輝 修士課程1年
14	○	大学院工学研究科 松田 直樹 助教 野々垣 拓 修士課程2年
15	○	大学院医学研究科 高橋 良輔 教授 生野 真嗣 特定助教 梶 誠兒 特定研究員 澤村 正典 大学院生 奥田 真也 大学院生 田口 智之 大学院生
16	○	実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池元素戦略研究拠点ユニット 田中 庸裕 教授 太田 浩二 特任教授 細川 三郎 特定准教授 朝倉 博行 特定助教 大谷 裕子 特定助教 構造材料元素戦略研究拠点ユニット 田中 功 教授 大石 毅一郎 特定准教授 落合 庄治郎 特任教授 大学院人間・環境学研究科 吉田 寿雄 教授 山本 旭 助教
17	○	政策のための科学ユニット 井出 和希 特定助教
18	○	大学院農学研究科 村上 章 教授

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
		藤澤 和謙 准教授 古川 智大 修士課程 2 年 森田 健太郎 修士課程 2 年 北尾 朋広 修士課程 1 年 種子永 栄輝 修士課程 1 年
19	○	大学院薬学研究科 掛谷 秀昭 教授 大学院薬学研究科／生理化学研究ユニット 倉永 健史 特任講師 野中 元裕 特任講師
20	○	大学院工学研究科 横川 隆司 准教授 Ramin Banan Sadeghian 特定助教 岡田 龍 特定研究員 Tammana Ishrat Farhana 博士研究員 金子 泰洸ポール 博士課程 4 年 Zhou Hang 研究生 大庭 将太郎 修士課程 2 年 中川 倫宏 修士課程 2 年 古川 真之 修士課程 1 年 亀田 良一 修士課程 1 年 一色 庸平 修士課程 1 年 仲 康佑 修士課程 1 年 井原 輝紀 修士課程 1 年 Scott Erickson 修士課程 1 年 工学部 関口 将弘 4 年
21	○	大学院医学研究科 佐藤 俊哉 教授 田中 司朗 特定教授 土居 正明 准教授 大前 勝弘 特定助教 今井 匠 特定研究員 Guan Jia 特定研究員
22	○	大学院理学研究科 杉山 弘 教授 板東 俊和 准教授 朝光 世煌 博士課程 3 年 橋谷 文貴 博士課程 3 年 前田 里菜 博士課程 1 年 小幡 俊介 修士課程 2 年 大野 智 修士課程 1 年
23	○	東南アジア地域研究研究所 河野 泰之 教授 福原 隆一 特定研究員
24	○	大学院人間・環境学研究科／東南アジア地域研究研究所 西本 希呼 特定研究員／連携講師
25	○	大学院理学研究科 小原 脩平 日本学術振興会特別研究員 (PD) 木河 達也 助教 安達 俊介 日本学術振興会特別研究員 (PD) 芦田 洋輔 博士課程 2 年

ブース 番号	代表者 ○	所属 氏名 職名又は学年等
		平本 綾美 博士課程 2 年 中村 和広 博士課程 1 年 森 正光 博士課程 1 年 栗林 宗一郎 修士課程 1 年 阿部 倫史 修士課程 1 年 池満 拓司 修士課程 1 年 小田川 高広 修士課程 1 年 田島 正規 修士課程 1 年 羽多野 真友喜 修士課程 1 年 三野 裕哉 修士課程 1 年 神戸大学 中村 輝石 日本学術振興会特別研究員 (PD)
26	○	大学院工学研究科 辻 伸泰 教授 Bai Yu 助教 池内 琢人 修士課程 1 年 沖 和洋 修士課程 1 年 嶋 康平 修士課程 1 年 デンジャンファン 修士課程 1 年
27	○	こころの未来研究センター 内田 由紀子 准教授 大学院人間・環境学研究科 富永 仁志 博士課程 中尾 元 博士課程 総合人間学部 前浦 菜央 学部生
28	○	大阪府立長野北高等学校 清水 大河 3 年 岩根 啓樹 教員／科学同好会顧問
29	○	大学院情報学研究科 大本 義正 助教
30	○	大学院文学研究科 Björn-Ole Kamm 講師 東京学芸大学 加藤 浩平 研究員
31	○	化学研究所 塩田 陽一 助教 池淵 徹也 修士課程 2 年 飯野 達也 修士課程 2 年
32	○	大学院医学研究科／大学院生命科学研究科 松田 道行 教授 大学院医学研究科 平島 剛志 講師 大学院生命科学研究科 寺井 健太 准教授 今城 正道 助教 佐藤 慎哉 特定助教 一瀬 大志 博士研究員 日野 直也 博士課程 2 年 吉田 琢哉 修士課程 1 年 小鉢 健樹 修士課程 1 年 平山 大記 修士課程 1 年

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
33	○	大学院工学研究科 乾 晴行 教授 岸田 恭輔 准教授 福山 貴義 修士課程 2 年 門田 信幸 修士課程 2 年 武田 康誠 修士課程 1 年 奥谷 将臣 修士課程 1 年
34	○	環境安全保健機構 岡林 里枝 助教 京都薬科大学／京都大学環境安全保健機構 北澤 京子 客員教授／共同研究員
35	○	産官学連携本部 湊 丈俊 特定准教授 木内 久雄 特定助教 大学院工学研究科 荒木 優希 特定助教 杉本 祥悟 大学院生 立命館大学 羽鹿 諒 学部生
36	○	大学院工学研究科 高岡 昌輝 教授 日下部 武敏 助教
37	○	大学院文学研究科 松田 素二 教授 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 山越 言 准教授 市野 進一郎 プロジェクト事務局スタッフ 松居 和子 プロジェクト事務局スタッフ
38	○	兵庫県立加古川東高等学校 猪股 雅美 教諭 窪田 航介 2 年 幸野 七海 2 年 福嶋 陸斗 2 年 分玉 康太 2 年
39	○	人文科学研究所 宇田川 彩 日本学術振興会特別研究員 (PD) 北陸先端科学技術大学院大学 比嘉 夏子 助教
40	○	医学部附属病院 佐藤 恵子 特任准教授 竹之内 沙弥香 特定講師 伊藤 達也 講師 文学研究科 児玉 聡 准教授 iPS 細胞研究所 鈴木 美香 特定研究員
41	○	大学院法学研究科 松本 和洋 日本学術振興会特別研究員 (PD)
42	○	大学院工学研究科 米田 稔 教授 島田 洋子 准教授 複合原子力科学研究所

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
		池上 麻衣子 助教
43	○	ウイルス・再生医科学研究所 西東 洋一 日本学術振興会特別研究員 (PD) 大学院工学研究科 森岡 智子 修士課程 2 年
44	○ ○	大学院工学研究科 乾 晴行 教授 辻 伸泰 教授 新津 甲大 助教 陳 正昊 博士課程 3 年 浅倉 誠仁 修士課程 2 年 江原 和輝 修士課程 1 年
45	○	大学院医学研究科 村井 俊哉 教授 小林 啓 大学院 3 年 医学部附属病院 藤原 広臨 助教
46	○	東南アジア地域研究研究所 大野 美紀子 助教 東京大学 森脇 優紀 助教 花園大学 鄭 美景 博士課程 3 年
47	○	こころの未来研究センター 田村 綾菜 研究員
48	○	総合博物館 横山 操 研究員 村上 由美子 准教授 生存圏研究所 (旧所属) 遠藤 利恵 元研究員 京都市埋蔵文化財研究所 関広 尚世 調査研究技師
49	○	森里海連環学教育研究ユニット 赤石 大輔 特定助教 清水 夏樹 特定准教授 清水 美香 特定准教授 法理 樹里 特定研究員 フィールド科学教育研究センター 徳地 直子 教授 石原 正恵 准教授
50	○	大学院工学研究科 石井 良太 助教
51	○	大学院医学研究科 篠原 隆司 教授 篠原 美都 助教 渡邊 哲史 助教 森本 裕子 助教
52	○	大学院理学研究科 田中 貴浩 教授 細川 隆史 准教授 山田 慧生 特定研究員

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
		豊内 大輔 特定研究員 島 和宏 特定研究員 基礎物理学研究所 Hamid Hamidani 研究員
53	○	人文科学研究所 藤原 辰史 准教授
54	○	生存圏研究所 田鶴 寿弥子 助教 反町 始 技術専門職員
55	○	人文科学研究所 八谷 舞 日本学術振興会特別研究員 (PD)
56	○	大学院医学研究科 溝脇 尚志 教授 医学部附属病院 宮部 結城 特定講師 高山 賢二 助教 飯塚 裕介 特定助教 大学院医学研究科 芦田 良 大学院 3 年 小野 幸果 大学院 3 年 岸 徳子 大学院 1 年
57	○	大学院地球環境学堂 瀬戸口 浩彰 教授
58	○	福井謙一記念研究センター 榊 茂好 シニアリサーチフェロー
59	○	人文科学研究所 藤倉 康子 日本学術振興会特別研究員 (PD)
60	○	大学院医学研究科 和田 敬仁 准教授 十川 麗美 大学院生 本田 明夏 大学院生 小池 佳菜子 大学院生 洪本 加奈 大学院生 幅野 愛理 大学院生 横田 恵梨 大学院生

5. その他

5-1. 事前説明会

■ 5-1-1. 出展者向け説明会

2018年8月27日と29日、学術研究支援棟地下会議室で、京都大学アカデミックデイに参加予定の研究者を対象とした事前説明会を開催しました（参加は任意）。参加研究者の“負担感”を軽減し、事前準備をサポートすることがこの事前説明会の主な目的でした。

学術研究支援室の白井哲哉 URA より、京都大学アカデミックデイ開催の目的や背景、前回の様子を紹介しました。どのような場で、どのような人たちと対話をするようになるのかを事前に伝えることで、準備がしやすくなることを狙っています。

説明会では学会発表との違いをもとに、専門外の人に自分の研究をわかりやすく伝える方法・対話のコツ・ポスター作りのポイントについてレクチャーしました。



■ 5-1-2. 学生サポーター向け説明会

京都大学アカデミックデイでは、各企画が円滑に運営されるようサポートにあたる“学生サポーター”と、受付やドリンクコーナーを担当する“学生アルバイト”がいます。

学生サポーターには、毎年事前に説明会を開催し、アカデミックデイの趣旨などを丁寧に説明しています。今回は出展者説明会と同日（8月27日、29日）に開催。特に今回は初めてコンシェルジュブースを設けることから、コンシェルジュ役の学生たちには、事前に出展内容を読み込んでもらった上、会場の下見もしてもらうなど、しっかり当日に備えました。



5-2. イベント終了後の学内限定タイム（出展者交流）

■ 概要

京都大学アカデミックデイ閉幕後、参加研究者同士の交流の場として出展者や出展者の研究室の学生などを対象とした学内限定タイムを設けました。参加研究者同士でポスターを見ながら意見を交わすなど、研究者間の異分野交流の時間となりました。来場者からの投票による「京都大学アカデミックデイ賞」の発表も行われました。



5-3. 広報物

京都大学アカデミックデイのポスターとチラシを作成し、京都市を中心に関西圏の教育関係機関や公共機関等に配布しました。また、京都市バス・地下鉄で広告を掲載しました。

5-3-1. ポスター (A2 サイズ)

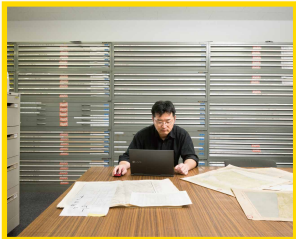
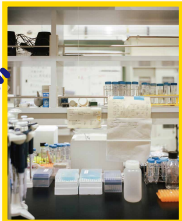
2018

京都大学

アカデミックデイ

Kyoto University

Academic Day 2018



国民との科学・技術対話
Kyoto University

それぞれのテーマに
日々取り組む
約200人の研究者が
参加します。
About 200 researchers
will join the event
to introduce
different topics
they are working on.

研究について、研究者と語り合いませんか？
Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?

2018年9月22日(土) 10:00-16:00
10:00-16:00, 22 September, Saturday, 2018
京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館 | Kyoto University Clock Tower Centennial Hall
参加費：無料 (申込み不要) | No charge/No registration required

PROGRAM

50分

研究者と立ち話
Casual Chat with Researchers
10:00-16:00

約200名の多様な京大研究者による研究紹介です。
ポスターの前にいる研究者に話しかけてください。
Please come talk with our researchers standing in front
of their posters. They will directly explain what they are
studying about.

8分

ちゃぶ台囲んで膝詰め対話
Round-table Conversations with
Researchers
10:30-12:00 | 13:00-14:30

ひとつのテーブルを囲んで研究にまつわるあんな話、
こんな話、お茶の気分で、ほっこりお話ししましょう。
You can sit around a tea table with our researchers and
enjoy free conversations to know what is going on
behind their research.

お茶を片手に座談会
Tea-time Dialogues with Researchers
14:00-15:30

「研究する」という働きかたと社会
Doing "Research" as Work and its Value in Society

研究者の本棚
Bookshelves of Researchers
10:00-17:00

京大研究者のオススメの本を紹介・展示しています。
本をきっかけに、研究者と対話してみませんか？
What inspired our researchers?
Explore their recommended books displayed with
their personal reviews.

主催：京都大学（学術研究支援、研究推進部研究推進課、
「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ）
後援：京都大学学生協賛組合、京都府教育委員会、
大阪府教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会

Organizers: Research Administration Office, Research Promotion Department, and
Working Group for "Scientific and Technological Dialogues with the Public" at Kyoto University
Supported by: Kyoto University CO-OP, Kyoto Prefectural Board of Education,
Osaka Prefectural Board of Education, Nara Prefectural Board of Education, and
Shiga Prefectural Board of Education

お問い合わせ先 Contact Information:
京都大学研究推進部「国民との科学・技術対話」推進課
Research Promotion Division, Kyoto University
Tel: 075-753-5659
E-mail: kankyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>




Dialog with the Public

京都大学アカデミックデイ 2018 報告書

99

■ 5-3-2. チラシ (A4 サイズ)

● オモテ面

京都大学
アカデミックデイ
2018

Kyoto University
Academic Day 2018

それぞれのテーマに日々取り組む
約200人の研究者が参加します。
About 200 researchers will join the event
to introduce different topics
they are working on.



国民との科学・技術対話
Kyoto University







研究について、研究者と語り合いませんか？
Do you want to talk with our researchers and know what they are studying?





2018年9月22日(土) 10:00-16:00 ※但し、一部プログラムについては17:00まで実施
10:00 - 16:00, 22 September, Saturday, 2018

京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館 | Kyoto University Clock Tower Centennial Hall

参加費：無料(申込み不要) | No charge/No registration required

主催：京都大学（学術研究支援室、研究推進部研究推進課、
「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ）
後援：京大大学生活協同組合、京都府教育委員会、
大阪府教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会

Organizers: Research Administration Office, Research Promotion Department, and
Working Group for "Scientific and Technological Dialogues with the Public" at Kyoto University
Supported by: Kyoto University CO-OP, Kyoto Prefectural Board of Education,
Osaka Prefectural Board of Education, Nara Prefectural Board of Education, and
Shiga Prefectural Board of Education

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>



<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

(出展研究者・テーマ詳細公開中)



京都大学アカデミックデイ 2018

Kyoto University Academic Day 2018

PROGRAM



研究者と立ち話 Casual Chat with Researchers

10:00-16:00

50件

約200名の多様な京大研究者による研究紹介です。ポスターの前にいる研究者に話しかけてみてください。

Please come talk with our researchers standing in front of their posters. They will directly explain what they are studying about.



ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

Round-table Conversations with Researchers

10:30-12:00 | 13:00-14:30

8件

ひとつのテーブルを囲んで研究にまつわるあんな話、こんな話。お茶の間気分で、ほっこりお話ししましょう。

You can sit around a tea table with our researchers and enjoy free conversations to know what is going on behind their research.



お茶を片手に座談会 Tea-time Dialogues with Researchers

14:00-15:30

「研究する」という働きかたと社会

Doing "Research" as Work and its Value in Society

研究者は大学にいないければ研究ができないのか？ 知の探求にとって大学は本当に必要なのか？ 「研究する」という働きかたは、現代の社会変化の中で、どう変わってしまったのか、そしてどう変わっていくのか。大学人、企業人、省庁関係者が議論する。

Do academics need to work at universities to carry out their research? Are universities really essential for the pursuit of knowledge? How have academics shifted or will shift their style of research in response to changes in society? This roundtable invites three discussants from a university, private school, and ministry of education.

登壇者

工藤 剛史 (音羽電機工業株式会社)

…地上から宇宙の渚まで雷を知る部長

藤原 綾乃 (文部科学省 科学技術・学術政策研究所)

…大学改革と多様化する研究者の属性や昇進などを分析する専門家

山本 真司 (学校法人河合塾教育研究部)

…高校生のための学問情報サイト「みらいふプラス」運営者

マリオ・アイバン・ロベズ (京都大学東南アジア地域研究研究所)

…人々の語りから現代社会の在りようを紡ぎ出す研究者



研究者の本棚 Bookshelves of Researchers

10:00-17:00

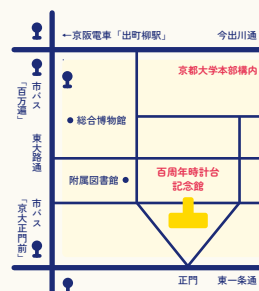
京大研究者のオススメの本を紹介・展示しています。本をきっかけに、研究者と対話してみませんか？

What inspired our researchers? Explore their recommended books displayed with their personal reviews.



研究について、研究者と語り合いませんか？
Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?

京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館
アクセス：市バス「京大正門前」から
東一条道を東に5分

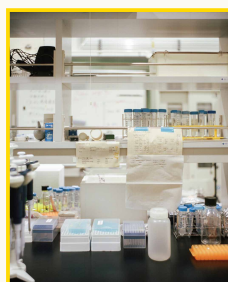


お問い合わせ先 Contact Information:
京都大学研究推進部
「国民との科学・技術対話」担当
Research Promotion Division, Kyoto University
Tel: 075-753-5659
E-mail: kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



5-3-3. 中吊り広告 (B3 サイズ)

京都大学 アカデミックデイ 2018 Kyoto University Academic Day 2018



2018年9月22日(土) 10:00-16:00

※詳しくは17:00まで実施

10:00 - 16:00, 22 September, Saturday, 2018

京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館

Kyoto University Clock Tower Centennial Hall

参加費：無料 (申込み不要) | No charge/No registration required

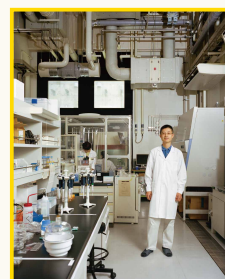


国民との科学・技術対話
Kyoto University

それぞれのテーマに日々取り組む
約200人の研究者が参加します。
About 200 researchers will join the event
to introduce different topics
they are working on.

研究について、研究者と語り合いませんか？

Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?



主催：京都大学（学術研究本部、研究推進部、研究推進課、研究推進グループ）
協賛：京都大学学術振興会、京都府教育委員会、大阪府教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会
後援：京都大学学術振興会、京都府教育委員会、大阪府教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会

PROGRAM



50件

研究者と立ち話
Casual Chat with Researchers
10:00-16:00

約200名の多様な京大研究者による研究紹介です。
ポスターの前にいる研究者に話しかけてください。
Please come talk with our researchers standing in front
of their posters. They will directly explain what they are
studying about.



8件

ちゃぶ台囲んで膝詰め対話
Round-table Conversations with
Researchers
10:30-12:00/13:00-14:30

ひとつのテーブルを囲んで研究にまつわるあんな話、
こんな話、お茶の時間分ではっきりお話ししましょう。
You can sit around a tea table with our researchers and
enjoy free conversations to know what is going on
behind their research.



お茶を片手に座談会
Tea-time Dialogues with Researchers
14:00-15:30

「研究する」という働きかたと社会
Doing "Research" as Work and its Value in Society



研究者の本棚
Bookshelves of Researchers
10:00-17:00

京大研究者のオススメの本を紹介・展示しています。
本をきっかけに、研究者と対話してみませんか？
What inspired our researchers?
Explore their recommended books displayed with
their personal reviews.



<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

(出展研究者・テーマ詳細公開中)

■ 5-3-4. ウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS)

本年度もウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) を利用して「京都大学アカデミックデイ 2018」告知と集客を行いました。

● Web サイト

学術研究支援室 Web サイト

研究者と高校生・高専生グループ出展募集のほか、開催案内を「イベント案内」で告知しました。

- 出展研究者募集案内 : <https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/event/119>
- 出展高校生・高専生グループ募集案内 : <https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/event/120>
- 開催案内 : <https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/event/128>

京都大学「研究大学強化促進事業 (文部科学省)」ウェブサイト (K. U. RESEARCH)

京都大学アカデミックデイ専用ページを設置し、トップにハッシュタグ「#京大アカデイ 2018」がついたコメント等が流れるように設定しました。

京都大学アカデミックデイウェブサイト

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

また、出展研究についても、個別ページを作成しました。

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/2018/>

● SNS (Twitter、Facebook)

SNS は、Twitter の京都大学アカデミックデイ公式アカウントと、Facebook の K. U. RESEARCH アカウントです。開催日前日までは開催情報や出展情報などを告知し、開催日当日は主に Twitter を使って会場の様子を伝えました。

京都大学アカデミックデイ公式 (@KyodaiAcaDay) Twitter

<https://twitter.com/KyodaiAcaDay/>

Twitter では、ハッシュタグ「#京大アカデイ 2018」を活用し、様々な情報を発信しました。「研究者と立ち話」や「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」、「お茶を片手に座談会」の詳細を、各研究の詳細ページと一緒に紹介しました。

京都大学「研究大学強化促進事業 (文部科学省)」(K. U. RESEARCH) Facebook

<https://www.facebook.com/k.u.research>

イベントページを設置したほか、ポスターやチラシの PDF 掲載、京都大学アカデミックデイ専用ページの情報等を掲載しました。また、Facebook でもハッシュタグ「#京大アカデイ 2018」を活用しました。

京都大学 学術研究支援室 (KURA Office) Facebook

<https://www.facebook.com/kuraoffice/>

学術研究支援室のアカウントでも、説明会開催の様子や開催レポートを掲載しました。

6. 支援体制・準備スケジュール

6-1. 支援体制

京都大学アカデミックデイは、京都大学による「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。支援体制は以下の通りです。

「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ委員

工藤洋	生態学研究センター	教授
楠見孝	大学院教育学研究科	教授
松田道行	大学院生命科学研究科	教授
喜多一	国際高等教育院	教授
藤原辰史	人文科学研究所	准教授
塩瀬隆之	総合博物館	准教授
元木環	情報環境機構／学術情報メディアセンター	助教
野田稔貴	総務部渉外課	課長
廣中理絵	総務部広報課	課長
豆佐哲治	研究推進部研究推進課	課長
佐治英郎	学術研究支援室	室長

学術研究支援室（KURA）

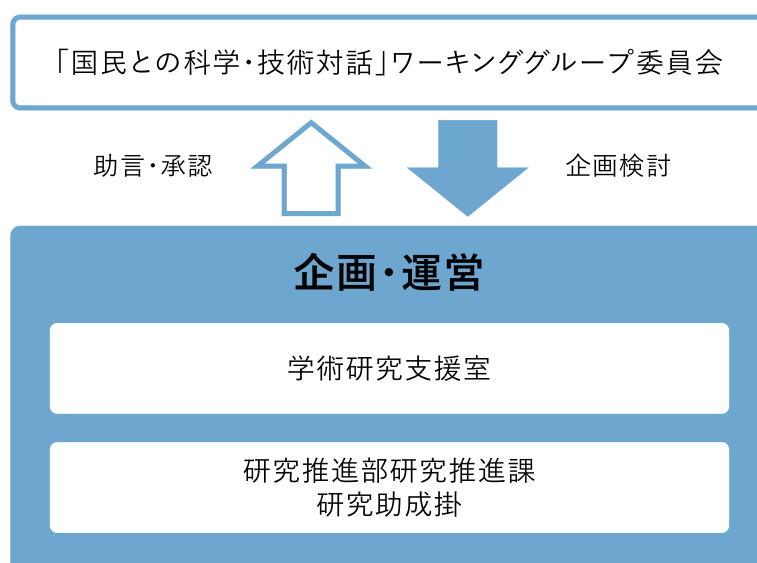
大西将徳	学術研究支援室	URA
笠原のりこ	学術研究支援室	URA
神谷俊郎	学術研究支援室	URA
斎藤万里絵	学術研究支援室	URA
白井哲哉	学術研究支援室	URA
仲野安紗	学術研究支援室	URA
森田節	学術研究支援室	
森脇一匡	学術研究支援室	URA

研究推進部研究推進課

山下絵理子	研究助成掛
近藤玲子	研究助成掛
巴山涼子	研究助成掛
武田美穂子	研究助成掛
岩崎智子	研究助成掛

6-2. スタッフリスト

企画	学術研究支援室（KURA） 研究推進部研究推進課
デザイン（広報・サイン）	今泉真緒（株式会社ダズ） 仲村健太郎
学生サポーター	有限会社関西教育考学： 伊左治俊策（大学院農学研究科 修士課程2年） 榎本啄杜（大学院人間・環境学研究科 修士課程2年） 野村泰介（大学院農学研究科 修士課程2年） 風間春奈（大学院農学研究科 博士課程3年） 桑原利旺（教育学部4年） 山本健寛（農学部4年） 山田周平（大学院工学研究科 修士課程2年）
学生アルバイト	新田莉菜（医学部3年） 奥村雅浩（経済学部3年） 栢野ななせ（文学部4年） 後藤慶太（大学院理学研究科 修士課程1年） 村田政弥（大学院工学研究科 修士課程2年） 余田修助（大学院理学研究科 修士課程1年）
写真撮影	大森貴生
監修	「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ



6-3. 準備スケジュール

2017 年	5 月		会場予約（百周年時計台記念館）
2018 年	5 月	中旬	キックオフミーティング（開催趣旨・経緯・業務分担確認） ミーティング（ワーキング開催検討・スケジュール確認） 会場設営・託児業者連絡（日程確保） オープンキャンパス連携打合せ
		下旬	ミーティング（予算・業務分担確認）（ワーキングの日程確認、出展募集・申込スキーム確認）
	6 月	月上旬	ミーティング（座談会内容検討） 出展者募集チラシ作成開始 参加研究者募集
		中旬	参加高校生・高専生グループ募集 後援依頼（教育委員会）
		下旬	ミーティング（チラシ・ポスタースケジュール確認、座談会内容検討） チラシ・ポスターデザイナー打合せ、作成開始
	7 月	月上旬	ミーティング（チラシ内容検討、座談会進捗確認、出展者応募状況確認） 生協連携打合せ チラシ・ポスター用、研究者・研究室写真撮影
		中旬	参加研究者募集締切 附属図書館連携打合せ
		下旬	ミーティング（参加研究者決定、参加高校生・高専生グループ募集の進捗確認・ノベルティ検討） チラシ・ポスター納品・発送 参加研究者へ出展申込書送付 参加高校生・高専生グループ募集締切・審査・出展申込書送付
	8 月	月上旬	ミーティング（出展申込状況・事前説明会確認、配置・最終案内検討） 座談会登壇依頼 参加研究者・参加高校生・高専生グループ出展申込書とりまとめ、ブース番号検討 ブックリスト作成開始 京都大学アカデミックデイ WEB 入力開始 会場サイン・当日プログラムデザイナー打合せ・作成開始
		中旬	学生バイト募集開始
		下旬	ワーキング開催（京都大学アカデミックデイ 2018 の進捗確認・方針決定）
	9 月	月上旬	ミーティング（進捗最終確認） 出展者事前説明会開催 ブックリスト完成 京都大学アカデミックデイ WEB 入力完了
		18 日	パンフレット・会場サイン・ノベルティ納品 中吊り広告掲示開始～21 日（地下鉄・市バス）
		21 日	前日設営準備
		22 日	京都大学アカデミックデイ 2018

6-4. デザイン・制作物スケジュール

		出展募集チラシ	ノベルティ	開催チラシ ・ ポスター	会場配置案 ・ 会場サイン ・ 当日プログラム	来場者アンケート
2018 年	5 月 下旬	作成 ↓				
	6 月 初旬	納品				
	下旬			作成 ↓		
	7 月 上旬					
	中旬					
	下旬		検討開始 ↓	入稿・印刷 (外部発注) 納品		
	8 月 上旬				作成 ↓	
	中旬					
	下旬					
	9 月 上旬					
	中旬		外部発注 ↓		入稿・印刷 (外部発注) 納品	作成・納品
	下旬		納品			

京都大学アカデミックデイ2018



『研究者の本棚』 ブックリスト



項目説明

ブックリストとは・・・京都大学研究者のオススメの本を紹介します。

※一部を除き、紹介した本は「研究者の本棚」で展示しています。

ブース番号 出展者のブース番号

出展者等 ・出展区分
「研究者と立ち話(ポスター／展示)」
「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」
「お茶を片手に座談会」
・出展代表者の所属・職名・氏名
・出展研究者の出展タイトル

ジャンル ※今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本
※今ハマっている本(誰かとこの本について話したい)
※若者にお勧めしたい本
※自分の研究に関連して紹介したい本の4つから選択していただきました。

書名／著者名／出版社名 オススメする本の書名／著者名／出版社名

推薦理由、コメント、エピソード等 オススメする理由、コメントなど

『書名』の横の★★ 『研究者の本棚』コーナーに展示あり



ブ ス 番 号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
2	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院農学研究科・教授 入江 一浩 「アミロイドβの凝集を抑制する天然物」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『認知症－発症前治療のために解明すべ き分子動態は何か?』★★ 森 啓 編集 羊土社	オールジャパンの底力を認知症研究で示すことを目的として編 集された。
5	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院地球環境学堂・教授 高野 裕久 「なぜ、アレルギーは増えているの?」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『複合汚染』★★ 有吉佐和子 新潮社	1979年に出版された本ですが、現代の環境問題の考え方にも繋 がります。複合汚染について知るための読みやすい冊です。
		若者にお勧め したい本	『沈黙の春』★★ レイチェルカーソン 新潮社	化学物質の環境問題について考えさせられる世界的な名著で す。
6	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院文学研究科・研究員 大庭 弘継 「世界にあふれる『究極の選択』」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『国際政治のモラル・アポリアー—戦争/平 和と揺らぐ倫理』★★ 高橋良輔・大庭弘継 編 ナカニシヤ出版	「地獄への道は善意で敷き詰められている」という格言がありま す。国際政治においても、望んだものとは真逆の結果になる難 問が生じています。これら解決できない難問(アポリア)を、人道 的介入、対テロ戦争、核廃絶、防衛戦争、平和構築、民主化、国 家主権、人権などのトピックごとに取り上げて、本書は考察して います。みなさんも、本書を通じて国際政治学者の苦悩を共有し てください。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『人道的介入：秩序と正義、武力と外交』★ ★ 小松志朗 早稲田大学出版部	ある国の内戦で一般市民が大量虐殺や人権侵害の犠牲になっ ているときに、その人々を救うために他の国が軍事力を使って 介入することを人道的介入といいますが、本書はそれが実際に成 果をあげられるものなのか、あるいはどうすれば成果をあげられ るのかということについて、4つの事例(ソマリア、ボスニア、コン ボ、リビア)を手がかりに考えています。現在進行中のシリアの 内戦・介入を理解するのに役立つ本です。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『戦後思想の再審判—丸山眞男から柄谷 行人まで』★★ ★ 大井赤彦・大園誠・神子島健・和田悠 編 法律文化社	戦後日本を代表する12名の思想家たちは、それぞれが生きた時 代の「日本の課題」をどのように考え、それを解決するためにい かに格闘したのか。彼ら／彼女らが取り組んだ課題にはいまだ 未解決のまま残されている「未完の課題」も多い。与えられた条 件(その時々政治的、経済的、社会的、文化的な条件など)の なかで、いかに問題解決に取り組めばよいのか。歴史的なケー ススタディとして、彼ら／彼女らの思想的営為に注目せよ。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『赤いオーロラの街で』★★ 伊藤瑞彦 早川書房	まだ見ぬ全世界宇宙天気災害をシミュレーションした日本語の 小説。どのようなことが起こりうるかを小説の形であらわしてい る。これを防ぐための「決断」がいかに重いかかわる一冊。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『資料で読み解く「保護する責任」—関連 文書の抄訳と解説』 中内政貴・高澤洋志・中村長史・大庭弘 継 編 大阪大学出版会	紛争等で苦しむ遠い国の人々を助けるべきか。ときに武力で。こ のような「究極の選択」に関わる概念に、「保護する責任」という ものがあります。2001年の提唱以来、論争が繰り返されてきた概 念ですが、それが誕生した背景や近年の新たな展開を踏まえて いなかったり、類似概念と混同していたりするなどの誤解がみら れることも事実です。本書が紹介する120の資料を踏まえ、正確 な理解に基づいて「究極の選択」を議論してみませんか。
7	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院農学研究科・特定准教授 勝山 正則 「水はどこから来てどこへ行くのか?」	若者にお勧め したい本	『森林飽和—国土の変貌を考える』★★ ★ 太田猛彦 NHK出版	山に森があり木々がたくさんあることは、当たり前でしょうか?森 林の状態変化によって受けるメリット・デメリットは変化していま す。この歴史を本書によって学んだうえで、森林や林業の今後を 考えるきっかけに欲しい。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『地球環境時代の水と森』 太田猛彦・服部重昭 日本林業調査会	水と森に関する新たな科学的知見を取り入れて、水循環と森林 との相互関係を正しく理解し、また、実際に水と森をまもり、はぐ くんでいくにはどのような取り組みをすればよいのか、という問い にわかりやすく応えようとした本。
		今ハマってい る本(誰かとこ の本について 話したい)	『激甚化する水害 地球温暖化の脅威に挑 む』★★ ★ 気候変動による水害研究会 日経BP社	近年繰り返される豪雨による災害。最近の事例を豊富な写真で 紹介するとともに、そのメカニズム社会や経済に与える影響を解 説している。
		今ハマってい る本(誰かとこ の本について 話したい)	『カリフォルニア 水銀行の挑戦』★★ ★ 遠藤崇浩 昭和堂	渇水対策として水を増やすことが出来ない状況では、効率的な 水の配分が求められる。ダムや貯水池建設のハード対策でカ バーしきれないところを、法整備、制度作りなど、市場メカニズム を取り入れたソフトの対策で対応している先進的な事例を紹介。

ブース番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
9	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院理学研究科・日本学術振興会特別研究員PD 田中 郁子 「鳥の足跡から恐竜の姿勢を推定する」	自分の研究に関連して紹介したい本	『へんなものみっけ！ (月刊！スピリッツ 2018年9月号)』★★ 早良朋 小学館	全国の博物館での出会いをテーマにしている珍しい科学漫画の読み物です。9月号は私をモデルにしており、足跡学という地味な研究分野にスポットを当て、鳥類から恐竜への進化を明らかにするという、とても興味深い内容となっています。また、博物館のバックヤードについて詳しく紹介しているので、普段漫画を読まない方も、是非一読下さい。
11	研究者と立ち話(ポスター/展示) 京都府立海洋高等学校・教諭 長岡 智子 「現実から目を逸らすな～海洋ごみ問題～」	自分の研究に関連して紹介したい本	『プラスチックスープの海 北太平洋巨大ごみベルトは警告する』★★ チャールズ・モア、カッサンドラ・フィリップス NHK出版	普段、陸域で生活する私たちに、想像できるでしょうか。河川から海へ流れ出た「プラスチックごみ」がどのような一生をたどるのか。海岸には漂着ごみが溢れていますが、海の真ん中にはごみは無いのでしょうか。この本は、海洋ごみ問題について述べられています。写真も多く掲載されていますので、ぜひ、御一読いただき、「プラスチック製品との付き合い方」について、一緒に考え、行動しましょう。
14	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院工学研究科・助教 松田 直樹 「音で見る 超音波による非破壊検査」	今ハマっている本(誰かとの本について話したい)	『寿司 虚空編』★★ 小林銅蟲 三オックス	意味もなかつた大きくて有限な数にロマンを感じる本、学術的な価値は不明ですが、頭の奥がしびれるような魅力があります。
		今ハマっている本(誰かとの本について話したい)	『暗号解読 上』★★ サイモン・シン 新潮社	暗号を解くことあるいは作ることには不思議な魅力があります。古代の暗号から現代の暗号まで時系列で紹介されており、非常に読み物として楽しいです。読み終わる頃には単一換字式暗号が暗号に見えなくなるはず。
		今ハマっている本(誰かとの本について話したい)	『暗号解読 下』★★ サイモン・シン 新潮社	第5章の線文字Bの解読は、研究者どうしのドラマもありイチャオンです。
15	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院医学研究科・教授 高橋 良輔 「どうぶつにヒトの病気になるもらう」	今ハマっている本(誰かとの本について話したい)	『新・生産性立国論』★★ デービッド・アトキンソン 東洋経済新報社	元ゴールドマンサックスの共同出資者でありながら、茶道など日本文化に精通し、現在は小西美術工芸社社長という異色の経歴。既刊「新・観光立国論」では日本の伝統文化における様々な問題を分析し、その成果は現在の日本の訪日観光戦略にも大きく反映されている。今回は観光戦略だけでなくとまらず、さらに日本の経済構造の問題点に独自の視点から切り込んでいる。独特のアトキンソン節に目からウロコが落ちること間違いなしである。
		若者にお勧めしたい本	『史上最強の人生戦略マニュアル』★★ フィリップ・マグロー きこ書房	自己啓発本なんて読むのは時間の無駄…、と思っていた私も思わずページをめくってしまう。「人生の責任は自分にある」、「問題はあなたが認めるまで悪化していく」など厳しい言葉が並ぶが問題を解決するという点に焦点を絞っており非常に説得力がある。「自分のしていることは正しいのに認められない」と感じている人は、ぜひ一度はこの人生というゲームの攻略ガイドブックを読んでほしい。
		今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『稀で特異な精神症候群ないし状態像』 中安 信夫 星和書店	研修医の時に会った、不思議な症状を訴える患者さん。総合診療科のベテラン医師に相談しようやく候補に拳がった「不思議の国のアリス症候群」を調べように出会った本でした。人間の精神や脳というのはこれほど多彩な病状を示しうものだけに衝撃を受けた覚えがあります。私は脳という物理的な側面からアプローチしていくことを選び脳神経内科医となりましたが、精神科を志す医師にとっても重要な一冊と思われます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『脳のなかの幽霊』★★ V・S・ラマチャンドラン 角川書店	中枢神経の障害によって生じる奇妙で興味深い症状の実例を挙げつつ、脳の不思議について紹介・解説されている一冊です。著者自身が神経科学者でもあります。どちらかと言えば心理学的な切り口かつ平易な表現で書かれており、医学的な専門知識が無くとも楽しく読むことができると思います。
16	研究者と立ち話(ポスター/展示) 学際融合教育研究推進センター・教授/教授 田中 庸裕/田中 功 「元素戦略プロジェクト」	自分の研究に関連して紹介したい本	『元素戦略』★★ 中山智弘 ダイアモンド社	元素戦略プロジェクトのプログラムオフィサーが著した本で、「元素戦略」のねらいがよくわかる。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『「未来を拓く元素戦略」持続可能な社会を実現する化学』★★ 「日本化学会編」化学同人 化学同人	元素戦略という概念が形成された当時の本です。
17	研究者と立ち話(ポスター/展示) 学際融合教育研究推進センター・特定助教 井出 和希 「学校健診データから将来の健康を考える」	自分の研究に関連して紹介したい本	『世界一シンプルで科学的に証明された究極の食事』★★ 津川 友介 東洋経済新報社	テレビや雑誌で日々見聞きする健康情報、特に「〇〇が健康に良い」という謳い文句について再考できる一冊であるため、推薦します(本書の内容も批判的に吟味(Critical appraisal)してみてください)。
		若者にお勧めしたい本	『リサーチの技法』★★ ウェイン・C・ブース ソシム	レポートを書く時や研究を進める時に独りよがりになってしまわないように押さえておきたい基本がまとめられているため、推薦します。

ブース番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
		自分の研究に関連して紹介したい本	『医学のあゆみ Real World Data(実臨床データ)を用いた臨床疫学研究 2018年 265巻11号』★★ 川上浩司ら 医歯薬出版	学校健診をはじめとした健康に関連した情報の活用について、今の動きを俯瞰できる一冊であるため、推薦します。
19	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院薬学研究科・教授 掛谷 秀昭 「天然物創薬ケミカルバイオロジー」	自分の研究に関連して紹介したい本	『くすりをつくる研究者の仕事』★★ 京都大学大学院薬学研究科 化学同人	業づくりに関して、化学系、生物学系、物理系、医療系など、多角的視野からわかりやすく解説している入門書。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『入門ケミカルバイオロジー』 入門ケミカルバイオロジー編集委員会 オーム社	ケミカルバイオロジーに関する中高生以上を対象にして入門書
		若者にお勧めしたい本	『栄光なき天才たち、続栄光なき天才たち、その後のシリーズ』★★ 集英社、ホーム社、講談社	歴史の偉人に関する知られざるエピソードが記載され興味深い。漫画形式なので、小学校高学年から興味をもてるのでは。
20	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院工学研究科・准教授 横川 隆司 「微細加工で創る新たなナノバイオの世界」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『Fundamentals of Microfabrication and Nanotechnology』 Marc J. Madou CRC Press	修士課程の時に留学したUCLAで教科書として使われていました。この本から、マイクロ・ナノの世界を体系的にとらえるようになりました。京大の大学院でも、このような英語の教科書でワールドクラスの講義ができるようになることを期待しています。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『小説東京帝国大学』 松本清張 筑摩書房	移動中など時間を見つけて清張作品を読むのが趣味です。単なる推理小説ばかりでなく、フィクションからノンフィクションまで昭和の間の部分や人間性についての描写が、日常の喧噪を忘れさせてくれます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『生体分子モーターの仕組み』 石渡信一 共立出版	異分野の研究者がモータタンパク質(生体分子モーター)について学ぶのに最適です。日本の研究者が主導してきた、一分子生物物理学の分野からとらえたモータタンパク質についてわかりやすく書かれています。
21	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院医学研究科・教授 佐藤 俊哉 「医療を創る統計学ー臨床統計学」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『銀河帝国興亡史1』 アイザック・アシモフ 東京創元社	アシモフの「ファウンデーションシリーズ」の1冊です。個人の反応は予測できないが、集団としての反応は一定の確率で予測できるとする「心理歴史学(Psychohistory)」ー銀河大百科事典には「難解な統計科学」と記載されていますーが物語の中心となっています。中学1年のときにこのシリーズを読み、統計学にあらがれてとうとう「宇宙怪人しましず 医療統計を学ぶ(岩波科学ライブラリー)」というシリーズを書くまでになってしまいました。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『代替医療解剖』★★ サイモン・シン(青木薫 訳) 新潮社	サブタイトルに“Trick or Treatment?”とあるように、「根拠のない医療」について科学的アプローチに基づく考察や容赦のない批判をまとめあげた名著です。ホメオパシー、カイロプラティック、ハーブ療法などの世界各地で取り上げられる代替医療について徹底的な議論を与えています。歪んだ情報化社会の中での医療選択について再考させられ、「根拠に基づいた医療」がいかに大切を考えさせてくれる本です。
22	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院理学研究科・教授 杉山 弘 「人工遺伝子スイッチライブラリー」	自分の研究に関連して紹介したい本	『基礎ケミカルバイオロジー』★★ 杉山 弘、板東俊和 化学同人	「化学を基盤とした生物学」をコンセプトに、ケミカルバイオロジーの基礎をまとめた入門書である。有機化学と細胞生物学をつなぐための化学的知識を解説している。
		若者にお勧めしたい本	『有機化学要論 生命科学を理解するための基礎概念』★★ 入江一浩、津江広人 編著 学術図書出版社	高校生から大学生向けの本である。有機化学に馴染みのない学生に対して、有機化学を初心者向けに幅広く書かれた教科書的な入門書として推薦したい。
		若者にお勧めしたい本/自分の研究に関連して紹介したい本	『「エピゲノムと生命」ブルーバックス』★★ 太田邦史	新しく発展しているエピジェネティクスとゲノムについてわかりやすく書かれた入門書で、複数回読む価値がある本です。ノートを作り今でもよく読み直しています
23	研究者と立ち話(ポスター/展示) 東南アジア地域研究研究所・教授 河野 泰之 「東南アジアと考える持続可能な社会」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『文明の生態史観』★★ 梅棹忠夫 中央公論新社	学生の頃、読みました。当時はまだ学生が気軽に海外旅行できる時代ではありませんでした。海外に行きたいという気持ちを、海外を舞台にした小説を読んで紛らせていました。そんなとき出会ったのがこの本。洞察力を身に着ければ海外を旅行することが職になるのだ、と気づかせてくれました。おかげで、東南アジアを中心に世界各地に行かせていただくことができました。

ブース番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『大分岐—中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成』★★ ケネス・ボメランツ 名古屋大学出版会	産業革命以降の近代経済の発展は西洋社会の持つ優位性によるものが支配的だった経済史の分野で、産業革命以前のヨーロッパと中国の経済レベルには差がなかったという主張で、いわゆる“大分岐論争”を巻き起こしている。今の私たちの社会が持続的ではない方向に向かっているなら、その歴史的起源はどこにあるのか？著者には「グローバル経済の誕生」という共著でも、自由貿易は正しいという常識に疑問を投げかけている。
		若者にお勧めしたい本	『銃・病原菌・鉄』★★ ジャレド・ダイヤモンド 草思社	私たちが常識と思っていることは決して常識ではない。それは、日本社会の、あるいはもっとローカルなコミュニティの、現代という瞬間に共有されている考え方でしかない。場所が変われば、また時代が変われば、常識は変わる。常識と考えていることをどこまで突き詰めて問い直すことができるかこそ、研究の深さとそのインパクトの広がり規定する。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『講座 生存基盤論(全6巻)』★★ 杉原薫他編 京都大学学術出版会	20世紀後半の人類社会の動態は人類の長い歴史において特異なものだった。21世紀、あるいはその先へと続く人類社会の持続的な発展を構想するためには、20世紀後半の人類社会が成し遂げたものすべてを出発点とするのではなく、それらを選択的に継承しようとする視座に立つべきである。人間社会と自然の関係や公共圏と親密圏の関係を再構築することこそ、人類社会のより長期的持続的な発展の基盤となるだろう。
24	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院人間・環境学研究科／東南アジア地域研究研究所・特定研究員／連携講師 西本 希呼 「心のものさし—世界の言語の車窓から」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『「理科」で歴史を読みなおす』 伊達宗行 筑摩書房	日本史・世界史は私にとって苦手で馴染みにくい分野でした。理科や科学、数え方に焦点をあてて書かれたこの書籍は、現代にも通ずる人々の数の認識や計測の仕方を考察することができ、今の学術調査研究に応用しています。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『桜がなくなる日』★★ 岩槻邦男 平凡社	桜は人生の節目のシンボルのようなものであり、誰しも満開の桜、散りゆく桜を見て心を揺さぶっているかと思います。そんな桜がなくなる日が来るかもしれない。生物の絶滅と多様性、生物の多様性が私たちの文化・芸術・感受性にどう関係しているか考えさせられる本です。
		若者にお勧めしたい本	『ネイチャー・カレンダー 動植物で知る12か月』 平凡社新書編集部 平凡社	情報へのアクセスが容易くなり、テレビや新聞よりスマホやタブレットに目をつけてしまう時代。とはいえ、四季の折々を外へでて感じていると思います。この本は、日本の歳時記や、日々目にする生物や自然を改めて親しみかけを与えてくれます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『<茨>の国の言語』★★ 西本希呼 慶応義塾大学出版会	誠に僥倖ながら、「研究に関連した本」として私の著書を紹介致します。<茨>の国とは、私が研究対象としている言語を話す人々の地域名です。10年余りマダガスカルで研究してきた著者によるマダガスカル語に関して書いた日本で初めての出版物です。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『大人の時間はなぜ短いのか』★★ 一川誠 集英社	とても身近な課題ですが、最近授業で取り上げ議論しました。皆さんは、年を重ねるにつれて、どうして時間が短く感じるようになっていきますか？最近「時間」に関する本を気分転換に読んでいます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『円環大全：知の輪郭を体系化するインフォグラフィックス』★★ 三中信宏 監訳 マニュアル・リマ著 ビー・エヌ・エヌ新社	科学、芸術、思想、解剖学、哲学、ありとあらゆる円環が描かれており、人間の考え方や時代背景、解釈を詳述しています。どの頁をあけて見ても楽しくて、知の世界への誘いです。
25	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院理学研究科・日本学術振興会特別研究員PD 小原 脩平 「素粒子を見よう！」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『燃えつきた反宇宙(図解雑学)』 広瀬 立成 ナツメ社	高校生の時に人生で初めて出会った素粒子の本。素粒子の不思議な世界に引き込まれ、より深く素粒子のことを知りたいとおもうようになった。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『古寺巡礼』★★ 和辻 哲郎 筑摩書房	大正時代に書かれた京都・奈良の古寺に関する印象記。和辻氏の知識量にはただただ圧倒される。昨年は週末を使ってこの本に登場するお寺にいくつか訪れた。平日は実験で人工的に作られた数ナノ秒という時間の信号を扱っているのに対して、週末訪れたお寺には同じく人間によって作られた千年以上前の人工物が鎮座しているということがとても印象的だった。
		若者にお勧めしたい本	『どくとるマンボウ青春記』★★ 北 杜夫 新潮社	北杜夫氏の旧制高校時代から大学にかけてを綴ったエッセイ。大学2年の春休みに読んで、この本からは人生観にかなり強く影響を受けた。この本は、青年期の悩みに対する一つの答えを与えてくれたように思う。悩み多き若き皆さまにはぜひ。

ブ ス 番 号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
		自分の研究に関連して紹介したい本	『解析力学・量子論』★★ 須藤靖 東京大学出版会	物理学の基礎である解析力学と量子力学の参考書。参考書という形を成しているが、著者の科学に対する思いや姿勢などが随所に記されており面白い。物理学を学んだことのない人でも、前書きと後書きは為になることが書かれていると思う。
27	研究者と立ち話(ポスター/展示) こころの未来研究センター・准教授 内田 由紀子 「生理センシングでリアルなこころに迫る」	自分の研究に関連して紹介したい本	『文化心理学』 増田貴彦・山岸俊男 培風館	文化と心の関係を理解できる教科書的な読み物です
		今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『昔話と日本人の心』★★ 河合隼雄 岩波書店	こころの深淵を古い物語から探り出す記述に引き込まれます
		若者にお勧めしたい本	『走ることにして語るときに僕の語ること』★★ 村上 春樹 文藝春秋	走ることにして、いわゆる村上春樹調のシニカルな文体で書かれたエッセイです。何も走ることに限らないが、運動することで得られる主観が適切に説明されているように感じます。運動しない人にとって、運動の良さはわかりにくいですが、これを読むとなんとなく良かったような気にさせてくれます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『「つながり」の進化生物学』★★ 岡ノ谷 一夫 朝日出版社	生物学とタイトルに入っていますが、他者とのつながりを求めることについて書かれた本です。こころという概念が、人間だけでなく他の生物への広がりを持った問題であることをわかってもらえます。実際の対話をもとにした章構成も、読み手を引き込めるため、主体的に内容を理解できます。
28	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大阪府立長野北高等学校 清水 大河 「温泉で魚と緑を増やす研究」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『鉄は魔法つかい』★★ 畠山重篤 小学館	元々これらの本を偶然図書館で見つけたのが今の研究のきっかけです。この本を見つけていなかったら今の研究もありませんでした。内容は牡蛎養殖家である畠山氏の半生と共に、あまり知られていない海についての「鉄」の重要性と、その「鉄」で魚や緑を増やし、海を豊かにしようとしてきた人達のエピソードが語られます。字も大きく挿し絵もありとてもわかりやすく纏められている本です。きっと山や川、そして海への視点が180度変わる本だと思います。
29	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院情報学研究科・助教 大本 義正 「鏡としてのエージェント」	自分の研究に関連して紹介したい本	『正直シグナル』★★ アレックス(サンディ)・ペントランド(著) 安西 祐一郎(監修、翻訳) 柴田 裕之(翻訳) みすず書房	非言語コミュニケーションを様々なデータに基づいて、わかりやすく分析している。
30	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院文学研究科・講師 Björn-Ole KAMM 「ロールプレイングによる支援と理解啓発」	自分の研究に関連して紹介したい本	『自閉スペクトラムの発達科学(発達科学ハンドブック10)』★★ 日本発達心理学会 編 / 藤野 博・東條 吉邦 責任編集 新曜社	これまで治療や行動修正の対象になる病理現象として捉えられてきた自閉スペクトラム症(ASD)を、発達の多様性の具体的な現れという視点で捉え直し、心理学、医学、支援者、当事者など多様な立場から、基礎研究と臨床研究、また萌芽的な研究や試みも含め最先端の知見を展覧し、新たな方向性を探求した書籍。発表者の一人(加藤)が、「余暇活動支援」の章で、TRPGの研究と実践について執筆しています。【加藤】
		自分の研究に関連して紹介したい本	『自己と他者の統治 コレージュ・ド・フランス講義1982-1983』★★ ミシェル・フーコー(著)・阿部 崇(翻訳) 筑摩書房	本書(日本語訳)だけでなく、本書の英語訳そしてフーコーの他の講義記録や論文は、自分の研究方向に強い影響を与えました。「常識・当たり前に疑問を持つ」というスタンスを大切にしたいと思うようになった1冊です。フーコーは哲学者・歴史学者ですが、「パワー(権力)」は人が持つものではなく、人々の間の関係性だ」という彼の考え方は社会科学においても非常に重要な洞察だと思います。【KAMM】
		若者にお勧めしたい本	『絵でわかる なぜなぜ会話ルールブック:これでわかるコミュニケーションのなぜ』★ 藤野 博・綿貫愛子 著 合同出版	「話すときに目を見るのはなぜ?」「なぜ遠回しな言い方をするのか?」といった、会話やコミュニケーションについての素朴な疑問を心理学・言語学を基に解説した本。想定されている読者対象は小学生ですが、高校生や大学生、大人でも十分面白く読める、人間のコミュニケーションのユニークさに気づけます。ASD(自閉スペクトラム症)の当事者の視点を取り入れている点も本書の大きな特徴です。【加藤】
		若者にお勧めしたい本	『ストーリーメーカー 創作のための物語論』★★ 大塚 英志 星海社	若者が受動的なオーディエンス(読者)にとどまらず、自己表現や自分の物語を作成できるようになるための非常に優れた物語制作マニュアルです。なお、大塚英志はTRPGについても研究しており、物語論、キャラクター小説論等の本の筆者でもあります。【KAMM】
32	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院医学研究科・大学院生命科学研究所・教授 松田 道行 「光を使ってトコトン探ろう、細胞のコト」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『影との戦い―ゲド戦記(1)』★★ アーシュラ・K. ルーグウィーン 岩波書店	映画化もされた有名な本です。特に、「魔法使いが一生を賭けて物の真の名前を探すことの重要性」を賢人が語る件が好きです。研究者が真理を探究する姿勢と重なり合うものがあるからです。河合隼雄先生が推薦しているということを知って高校生に読ませ、卒業してから原著を読んで二度感動しました。(松田)

ブ ス 番 号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『江戸の好奇心—美術と科学の出会い』 内山淳一 講談社	私たちが日常的に使う「光学顕微鏡」が、いかに江戸の人々の 好奇心を刺激したかを知ることができます。微小な世界を覗くこ とができるようになり、江戸の細密な美術表現に磨きがかかった とか。平賀源内も顕微鏡観察にトリコになったようです。(平島)
		若者にお勧め したい本	『生命のなぞをたずねて—小さな道化師の 役割』 寺本 英 筑摩書房	京大に畳の研究室をつくった名物教授がおくる生物物理の一般 書。生き物の中の分子がどうやって「きちんと」振舞っているのか を知りたい人におすすめです。(平島)
33	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院工学研究科・教授 乾 晴行 「炎を制する—超耐熱構造材料」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『金属間化合物入門』★★ 山口正治、乾 晴行、伊藤和博 内田老鶴園	耐熱材料の中のエース、金属間化合物について平易に述べら れている。
		今の仕事(研 究、進路)を 選ぶきっかけ になった本	『耐熱合金のおはなし』★★ 田中良平 日本規格協会	高温耐熱材料がいかにCO2削減、省エネルギーに寄与している か、どのようにして材料設計が行われているのかなどについて 初心者にもわかりやすく書かれた本で、非常に感銘を受けた。
		今ハマってい る本(誰かとこ の本について 話したい)	『元素戦略』★★ 中山智弘 ダイヤモンド社	「材料を制する者が世界を制する。」元素を原子スケールでマニ ピュレートするうえで、これまでになく素晴らしい材料をいかに作 り上げるかを考えさせられる。
34	研究者と立ち話(ポスター/展示) 環境安全保健機構・助教 岡林 里枝 「健康情報なっとくん:学習効果検証中!」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『過剰診断:健康診断があなたを病気にす る』★★ H・ギルバート・ウェルチ他著、北澤京子訳 筑摩書房	健康な人を対象に行われる各種のスクリーニング検査(拾い上 げ検査)は、病気の早期発見につながるというメリットがある半 面、過剰診断というデメリットもある。過剰診断に陥りやすい背景 とそのからくりを追った、米国で大きな話題を呼んだ書籍の翻訳 です。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『病気の「数字」のウソを見抜く:医者に関 くべき10の質問』 スティーブン・ウォロシン他著、北澤京子訳 日経BP社	患者が医師に対して治療法の効果について確認する際、重要な ポイントについてわかりやすく解説。EBM(Evidence-based Medicine)の基本的な考え方がわかりやすく解説されていること に感動し、ぜひ日本の読者に紹介したいと考え、翻訳しました。
35	研究者と立ち話(ポスター/展示) 産官学連携本部・特定准教授 湊 文俊 「表面や界面の不思議な世界」	今ハマってい る本(誰かとこ の本について 話したい)	『Camille』 Michael A. Henderson Killer Bs	表面界面科学の分野で著名な業績を残した研究者が、表面界 面科学とはかけ離れた内容で執筆した小説である。小説の内容 には抽象的に表面界面科学の考え方が含まれている。
		今ハマってい る本(誰かとこ の本について 話したい)	『「いき」の構造』★★ 九鬼 周造 岩波書店	日本特有の思想である「いき(粹)」について記述された名著であ る。日本のデザインのコンセプトがこの本の中に表現されてい る。美術家である父の勧めで読み始めたが、大変興味深い本で ある。
		今の仕事(研 究、進路)を 選ぶきっかけ になった本	『COSMOS』★★ Carl Edward Sagan 朝日新聞出版	小学生の頃、太陽系の惑星に興味を持つきっかけとなった書籍 である。作者は宇宙生物学の大家で、専門書からSF作品まで幅 広い著作がある。本書は1980年の古い書籍であるが、地球外生 命体に関する古代からのイメージの変遷や、当時知り得る太陽 系の惑星の環境が細かに描写されており、読み物としても現在 でも十分楽しめる名著である。
		今の仕事(研 究、進路)を 選ぶきっかけ になった本	『表面物理学』★★ 村田 好正 朝倉書店	表面界面科学の基礎がまとめられた本であり、学生の時、この 分野の面白さを教えてもらった本である。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『岩波講座 現代化学への入門(14)表面 科学・触媒科学への展開』 川合 真紀、堂免 一成 岩波書店	専門家として表面界面科学を学ぶにあたり、基礎として知ってお きたい事項を易しく説明した良本である。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『面・表面・界面—一般表層論』★★ François Dagognet 法政大学出版局	概念としての表面や界面に関する興味深い本である。
36	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院工学研究科・教授 高岡 昌輝 「水銀の行方」	今の仕事(研 究、進路)を 選ぶきっかけ になった本	『死の川とたたかう』★★ 八田清信 偕成社	小学校の時に、イタイイタイ病の話を読んで、環境問題や人に関 係する職業に就きたいと感じました。ちょうど、新版がでている ようですので、改めて読んでみたいと思います。
		若者にお勧め したい本	『環境マインドで未来を拓け』★★ 環境工学への誘い刊行委員会 京都大学学術出版会	日本の環境工学が創設されたのが、約60年前です。多くの先駆 者が日本の環境を良くしようとがんばってきました。未来に向け て挑戦していく時に、今まではどうだったのかを理解する上で良 い本ではないかと思います。

ブ ス 番 号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
		自分の研究に関連して紹介したい本	『地球温暖化と廃棄物』 武田信生、福永勲、高岡昌輝 中央法規出版	地球温暖化は紛れもなく、今後の環境問題の主流と言えるでしょう。廃棄物・循環資源の分野とも密接に関係しています。約10年ほど前に出版された本ですが、基本的な考え方は変わっていません。どこが対策強化されたかを感じることもできるでしょう。
37	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院文学研究科・教授 松田 素二 「アフリカから学ぼう」	自分の研究に関連して紹介したい本	『紛争をおさめる文化』アフリカ潜在力1-5 巻★★ 松田素二・平野(野元)美佐編ほか 京都大学学術出版会	誰もが不完全であることを認める。これこそがアフリカ文化に内在した世界観である。自らの「完全」性を信じ、それ以外のものへの不寛容や攻撃を「運れたものを救済する」正義として正当化してきた西洋的近代の誤謬を糾す可能性がそこにはある。緻密な民族誌から、アフリカの日常実践の持つ、紛争を回避し和解を進める力を析出する。
		若者にお勧めしたい本	『アフリカ社会を学ぶ人のために』★★ 松田素二編 世界思想社	多様な民族・言語・生態環境をもつアフリカが体系的にわかる入門書。アフリカの経験してきた過去・困難・絶望のなかから、アフリカの潜在力を描きだし、人類社会の希望と可能性を展望する。21世紀のアフリカを理解するための必携書。
		若者にお勧めしたい本	『新書アフリカ史』★★ 宮本正興・松田素二 講談社	人類誕生から混沌の現代へ、壮大なスケールで描く民族と文明の興亡。新たなアフリカ像を提示し、世界史の読み直しを迫る必読の歴史書!
39	研究者と立ち話(ポスター/展示) 人文科学研究所・日本学術振興会特別研究員PD 宇田川 彩 「エスノグラフィを知らう、そして使おう」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『離散するユダヤ人—イスラエルへの旅から』★★ 小岸昭 岩波書店	学部生の時に、この本を持ってモロッコを訪れました。モロッコでのユダヤ人との出会いがきっかけとなり、卒論からユダヤ人×文化人類学研究を始めました。
		今ハマっている本(誰かとの本について話したい)	『デモクラシー・プロジェクト: オキュパイ運動・直接民主主義・集合的想像力』★★ デヴィッド・グレーバー 航思社	先日、アルゼンチンから帰国するロングフライトの機内で根を詰めて読みました。「われわれは99%だ!」に反省を込めて。
		若者にお勧めしたい本	『魔の山』★★ トーマス・マン 新潮社	何でもよいのですが、分厚くて暗い本を一日中、何日もかけて読むということが「若者」ではないとあまり出来なくなるので。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『フィールドワークへの挑戦—“実践”人類学入門』★★ 菅原和孝 編 世界思想社	学部時代のフィールドワークについて一部執筆しており、自分の未熟さに恥ずかしくもなりますが、世界をわかろうとする姿勢や手法に向かう原点はここに記されていると思っています(比嘉)。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『アルゼンチンのユダヤ人—食から見た暮らしと文化』★★ 宇田川彩 風響社	「食」という誰しもにとって身近なテーマに焦点を当て、「アルゼンチンのユダヤ人」についての概説書の役割を兼ねた小さなエスノグラフィです。
40	研究者と立ち話(ポスター/展示) 医学部附属病院・特任病院准教授 佐藤 恵子 「『いのち、人体、細胞』をどうする?」	若者にお勧めしたい本	『マンガで学ぶ生命倫理: わたしたちに課せられた「いのち」の宿題』★★ 児玉聡 文、なつたか 漫画 化学同人	再生医療や脳死臓器移植やら、「夢の医療」などと報道されるけど、そんなにバカなの? そもそも、脳死ってなんだっけ? 生き死にの問題は、身近なことであり自分で考えなくてはならないのですが、難しい辛くさいし、ハードルが高いですね。この本は、女子高生の日常を軸にして、脳死や生殖医療、クローン技術など、生命倫理の問題を学びつつ、考えられるように工夫されています。是非手にとってみてください。
		今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『現代倫理学入門』★★ 加藤尚武 講談社	学部生のときに読んで倫理学を学ぶことになりました。現代の社会的問題を考える上で哲学が重要であることを教えてくれる本です。
		今ハマっている本(誰かとの本について話したい)	『137億年の物語: 宇宙が始まってから今日までの全歴史』★★ クリストファー・ロイド 文藝春秋	地球が誕生して、生物が生まれ、人間が出現して、文明も争いも起り...という物語が「続き物」として語られています。ページを開くだけで時空を超え、好きな時と場所に旅ができる、とても素敵な本です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『医師の一分』★★ 里見清一 新潮社	人工呼吸器や胃ろうなど生命維持装置が開発されたことはよいことではありますが、多臓器不全の高齢者につけられて、ただ死が先延ばしにされている状況も生むようになりました。この状況は、誰かが望んでいるのでしょうか。著者は、治らないけれど生きていかなくてはならないがんの患者とともに歩きながら、医師は何をどうすべきかを問いかけます。こういう先生ばかりだったら「がん難民」などなくなるのに。

ブース番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
41	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院法学研究科・日本学術振興会特別研究員PD 松本 和洋 「法の考え方の共有と影響」	自分の研究に関連して紹介したい本	『リーガル・マキシム 現代に生きる法の名言・格言』 吉原達也・西山敏夫・松嶋隆弘(編著) 三修社	法格言(法に関わることわざ)を、その成り立ちや日本の法体系との結びつきと併せて紹介しており、法学をこれから学ぶ人・法学に興味を持っている人のどちらも手に取ることができる本
		若者にお勧めしたい本	『法における常識(岩波文庫)』★★ P・G・ヴィンograd(著) 末延三次・伊藤正己(翻訳) 岩波書店	原著・翻訳ともに出版から時間が経過しているため、現在から見ると古く思える箇所もあるが、法や法学というものについて、何となくでもイメージを掴みたいと考えている人にオススメできる本
		今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『ラテン語法格言辞典』★★ 柴田光蔵・林信夫・佐々木健(編) 慈学社出版	ラテン語の法格言を対象に、ローマ法、大陸法、英米法を問わず幅広く出典も示しており、それぞれに同じ法格言が用いられていることもうかがえる。大陸法と英米法の違いにはローマ法の影響の程度も関連する(英米法は影響の程度が低いと言われる)が、「同じ法格言でも、受け継いだ先で独自に意味や内容が変化していったのではないかな?」その国や地域独自の法学の発達と関連するのは?と考えたのが現在の研究のきっかけです。
42	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院工学研究科・教授 米田 稔 「どうする?どうなる?福島放射能」	自分の研究に関連して紹介したい本	『レイチェル・カーソンはこう考えた』★★ 多田 満 筑摩書房	レイチェル・カーソンは、著書『沈黙の春』を出版することによって、農業による環境汚染のリスクを、地球の環境(大気、土、森、海、川など)と生命とのつながりを広げて長期的な視野を持って、警告しました。この本は、レイチェル・カーソンが人々に訴えようとしたことを、さまざまな角度からわかりやすく説明しています。この本を読めば、地球環境と共生して生きていくことの大切さを理解できるのではないかと思います。
		若者にお勧めしたい本	『デジタル社会はなぜ生きにくい』★★ 徳田 雄洋 岩波書店	私たちは、毎日、インターネットなどのネットワークを通じて世界中の膨大な情報をすぐに手に入れることができ、情報機器を駆使した便利な生活を送ることができる「デジタル社会」に生きています。しかし、一方で、「ネット犯罪」、「フェイクニュース」、「システム障害」などの不都合も起こっています。この本は、「デジタル社会」を「上手に」生きるための警告やヒントを示してくれていますので、ぜひ読んでほしいと思います。
43	研究者と立ち話(ポスター/展示) ウイルス・再生医科学研究科・日本学術振興会特別研究員PD 西東 洋一 「かさぶたとマクロファージで再生医療」	自分の研究に関連して紹介したい本	『生命を支えるマクロファージ』★★ 高橋 潔 文光堂	残念ながら絶版で、運がいい時に中古購入しかできません。代替として「医学のあゆみ マクロファージのすべて ASIN B01M5D1VXI」を推薦します。マクロファージという細胞について、その起源について大系的にまとめられた1冊であり、系統発生的アプローチがすばらしい。
		今ハマっている本(誰かとこの本について話したい)	『ワーク・シフト』★★ リンダ・グラットン プレジデント社	今までの仕事感が変わります。昨日と同じことを今日やっていれば、明日も同じ日々が送れるわけではない。2025年にどのような働き方をすべきなのか、受け身にならずに変化に対応する術を具体的に提案してくれます。やや長つたらしい本ですが、読んでよかったと思える一冊です。
		若者にお勧めしたい本	『サピエンス全史(上・下)』★★ ユヴァル・ノア・ハラリ 河出書房新社	今更紹介する必要もないくらい有名な本、有史以前～現代まで、生物としてのヒトと、そのヒトが築いた社会や人間の歴史を上下巻でイッキ見できます。理系も文系も関係なく、ヒト(人間)に少しでも関わる研究者は読んで損はないと思います。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『人間と動物の病気を一緒にみる:医療を変える汎動物学の発想』★★ バーバラ・N・ホロウィッツ インターシフト	人の病気、動物の病気を分け隔てなく研究し、その研究成果を医学・農学・獣医学等に反映させる。様々な職種によるコリエーションは考えただけでワクワクしますが、なかなか実現していません。発表者の研究分野である病理学領域でこの本のようなことができればなと思っています。
45	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院医学研究科・教授 村井 俊哉 「価値観と生活習慣、つながる脳」	自分の研究に関連して紹介したい本	『デジタル・デメンチア 子どもの思考力を奪うデジタル認知障害』★★ マンフレッド・シュビツァー 著/小林敏明 訳/村井俊哉 監修 講談社	デジタル・メディアは私たち自身をどのように変えていくのでしょうか?この本では多くの脳科学・社会心理学のエビデンスを引用し、デジタル・メディアに囲まれた生活が子どもの認知に悪影響を与えると警鐘を鳴らしています。私たちは進化しているのか、それとも退化しているのか?客観的データを絡めた持論の展開も鮮やかで、様々に考えさせられる一冊です。
		若者にお勧めしたい本	『〈インターネット〉の次に来るもの 未来を決める12の法則』★★ ケヴィン・ケリー 著/服部 桂 訳 NHK出版	AI、VR、AR、ブロックチェーン、ライフログ…。この先30年で世界はどのように変わっていくのか。デバイスの発達だけではなく、科学が進化するプロセスに着目し、ダイナミックな潮流としての説得力のある未来予測を展開しています。新しい発明が新しい渴望を生み出し、それを埋める新しい発明がまた求められるサイクル。私たちが後戻りのできない未来に向かっていく現実を知ります。

ブ ス 番 号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
46	研究者と立ち話(ポスター/展示) 東南アジア地域研究研究所・助教 大野 美紀子 「史料」というフィールドへ」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『＜子供＞の誕生—アーンシアン・レジーム期の子供と家族生活』★★ フィリップ・アリエス みすず書房	見慣れた対象—子供が過去には存在していなかった。＜小さな大人＞から＜子供＞として対象が認識されていく変遷過程を絵画や墓碑銘など文献ではない史料をつかって浮かび上がらせていく手法が新鮮でした。まるでミステリー小説みたいで、こんな歴史学もあるんだなあ、自分もちよつとやってみたいと思いました。
47	研究者と立ち話(ポスター/展示) こころの未来研究センター・研究員 田村 綾菜 「子どもの多様性を考える」	今ハマっている本(誰かとの本について話したい)	『アメリカの教室に入ってみた: 貧困地区の公立学校から超インクルーシブ教育まで』★★ 赤木和重 ひとなる書房	発達心理学・特別支援教育の専門家である著者がアメリカのさまざまな教室に入り込んだ体験をもとに、「アメリカを通して日本の教育を考える」本です。自分も一緒に教室に入り込んだ気分のでキドキワクワクしながら、アメリカの教育の光と影を知ることができます。日本で多様な子どもたちがともに学ぶために必要なことは何か、ぜひたくさんの人に読んで一緒に考えてもらいたいです。
		若者にお勧めしたい本	『勉強するのは何のため?—僕らの「答え」のつくり方』★★ 苦野一徳 日本評論社	「なんで勉強なんかしなきゃいけないの?」という問いに対して、絶対に正しい「正解」ではなく、「なるほど、たしかにこう考えればすっきりする」という「納得解」を与えてくれる本です。問いへの答えだけでなく、こうした「正解」のない問題に対する「哲学的な考え方」も学ぶことができます。いろんな問題を考える際に、きつと役に立つと思います。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『学校でのICT利用による読み書き支援: 合理的配慮のための具体的な実践』★★ 近藤武夫 編著 金子書房	多様な子どもの学びを支えるためには、多様な学び方を保障する必要があります。その選択肢の1つとしてICTの利用・活用があります。この本では、学校現場で実際に取り組まれているICTを利用・活用した読み書き支援の事例が多く紹介されています。指導や支援をする立場にはなくとも、読み書き障害に対する「合理的配慮(reasonable accommodation)」という考え方を考えるのにおすすめです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『自閉症スペクトラムとは何か—ひとの「関わり」の謎に挑む』★★ 千住淳 筑摩書房	多様性の中の1つに自閉症があります。この本は、自閉症に関して知っておきたい基礎的な知識がわかりやすくまとまった本です。自閉症の診断基準に沿って、それぞれの背景にあるかもしれない心の働きについての客観的な研究結果をわかりやすく紹介してくれています。専門用語をなるべく使わず、使うときにも丁寧でかつすっきりとした説明で、話の展開もスムーズなので読みやすく、初めて自閉症について学ぶ方にもおすすめです。
49	研究者と立ち話(ポスター/展示) 学際融合教育研究推進センター・特定助教 赤石 大輔 「森里海と私たちのつながりを捉え直そう」	自分の研究に関連して紹介したい本	『地域環境学』★★ 佐藤哲・菊池直樹 東京大学出版会	地域環境学の教科書です。地域の自然環境や生物多様性を保全したい、地域社会の持続可能な開発に取組みたいという研究者が、それではどのように地域と関わり、共に地域の自然を守るか、知識の協働生産(トランスディプリナリー)を行うか、ということを各地の実践事例から考察しています。
		若者にお勧めしたい本	『御松茸騒動』 朝井まかて 徳間書店	江戸時代、松茸山の管理を任される若い侍の物語。自分は賢いと思っていた若者が、自然と対峙して四苦八苦する様子は、研究を志す人にとって共感を感じるのではないかと思います。キノコの生態学研究の成果がうまく物語の要素となり展開していくところも読みどころです。
		今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『森里海連環学への道』★★ 田中 克 旬報社	現在私が所属するフィールド科学教育研究センターや、森里海連環学について、筆者の大変な苦労の末に立ち上げられた経緯が語られています。新しい概念や価値観を広げていくための社会連携の重要性を強調されており、それは現在のフィールド研にも息づいています。
		今ハマっている本(誰かとの本について話したい)	『どうすれば環境保全はうまくいくのか』★ 宮内泰介 新泉社	私達、森里海連環学教育研究ユニットでは、森里海の繋がりを再生する取組を、社会の多様な方々と連携して行っていきたいと考えています。それには本書で提示している「順応的ガバナンス」という考え方が有用であると考えています。また私達の暮らしから奪われつつある「余地」や「柔軟性」を保つことは、他者と共存していくための知恵であることも、本書は教えてくれています。
50	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院工学研究科・助教 石井 良太 「窒化物半導体材料とその光物性の魅力」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『Symmetry and Strain-induced Effects in Semiconductors』 G. L. Bir and G. E. Pikus Wiley	大学4年生のとき、世の中にはこんなに難しい本があるのかと思った本。同時に、この内容が理解できた世界(と言っても私の研究が関係する狭い世界)と違ってみえるのかなと感じた本。未だ読破できません。絶版と思うので大学図書館等に行かないと手に入らないと思います。
		若者にお勧めしたい本	『火の鳥』★★ 手塚 治虫 KADOKAWA	子供の頃に読んで印象に残っていた本。最近また読んでみましたが、大人になってから読んでも面白いですね。特に子供(未成年)に読んで欲しいです。道徳心が育まれるのではないのでしょうか。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『高校数学でわかる半導体の原理』★★ 竹内 淳 講談社	20世紀の電子工学の発展の歴史とその科学的内部分かりやすく書かれています。この本を含め、ブルーバックスはオススメです。私は、数学や物理が分からなくなったら、当該分野の易しい本を本屋に探にいけます(今でも)。

ブ ス 番 号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
51	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院医学研究科・教授 篠原 隆司 「精子を作る幹細胞とその操作技術」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『微生物の狩人』 ポール・ド・クライフ 岩波書店	微生物ハンターの人たちを面白く紹介してある本です。人類はビタミンや遺伝子もハントしてきましたが、その最初に位置づけられる古典的名著です。
52	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院理学研究科・教授 田中 貴浩 「重力波物理学・天文学・創世記」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『学研の図鑑 宇宙』 学研	宇宙すげー、ロケット格好良いなあ、小学校の理科の授業での太陽観測と合わせて、非常に刺激になった。天文ガイド(誠文堂新光社)を買うようになり、下手な天体写真を撮るようになった。
		若者にお勧めしたい本	『科学者という仕事』★★ 酒井邦嘉 中央公論新社	研究者や業界について様々なことが書いてあり、研究者を目指す人にお勧めしたい本。今でも定期的に読み返す。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『重力波をとらえる』 中村卓史、三尾典克、大橋正健 編著／ 京都大学学術出版会 京都大学学術出版会	この本の出版後から時間が経つが、今尚、重力波をとらえるためのバイブルとしていつもそばに置いておきたい。(京都大学学術出版会によると在庫無しだそうです。)
		自分の研究に関連して紹介したい本	『深化する一般相対論』★★ 田中貴浩 丸善出版	重力波の直接検出を始め一般相対論誕生から様々な研究の発展や今後の展望がまとめられている。
53	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 人文科学研究所・准教授 藤原 辰史 「民主主義からなぜナチスが生まれたのか」	自分の研究に関連して紹介したい本	『カブラの冬』★★ 藤原辰史 人文書院	第一次世界大戦後の荒廃のなかでなぜナチスが登場したのか、飢えというテーマに取り組んだ研究書です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『戦争と農業』★★ 藤原辰史 集英社インターナショナル	トラクターから戦車へ、化学肥料から火薬へ、毒ガスから農薬へ。人を生かす技術がなぜ人を殺す技術と同じなのか。一般向けの講座を書き起こした本。
		今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『抵抗者たち』 池田浩士 共和国	なぜ、ヒトラー政権下では抵抗が難しかったのか、それでもなぜ人びとは抵抗しようとしたのかを根本から考えた本。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『性食考』★★ 赤坂憲雄 岩波書店	できればわたしはずっと考えたくなかったテーマに、じつくりと、じわじわと迫る本。
		若者にお勧めしたい本	『胃袋の近代』★★ 湯澤規子 名古屋大学出版会	日本の労働者たち、女工たち、貧民たちは一体何を食べていたのか。地べたから日本近代史を捉え直す本。
		若者にお勧めしたい本	『経済史』★★ 小野塚知二 有斐閣	市場、資本、労働のみならず、権力、家、生殖、文化など基本的なところから経済史を解きほぐした本。
55	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 人文科学研究所・日本学術振興会特別研究員PD 八谷 舞 「図書館はみんなの居場所？」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『赤毛のアン』★★ ルーシー・モード・モンゴメリ 新潮社	「<前略>あたしが『お化け屋敷のものすごい神秘』という本を読んでいるのを見つけたのよ。<中略>とってもぞくぞくと寒気がするほどおもしろいのよ、マリヲ。<中略>でもミス・ステイシーは、これはごくばかげた、ためにならない本だから、やめなさいっておっしゃったの。<後略>」本を読んで怒られるってどういこと!? 本を読んだら、普通は褒められない!? この一節を読んだときの衝撃が、博士論文の原動力になりました。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『パッタを倒しにアフリカへ』★★ 前野ウルド浩太郎 光文社	程度の差こそあれ、若手研究者の生活はだいたいこんな感じですよ。
		若者にお勧めしたい本	『春の雪―豊饒の海・第一巻―』★★ 三島由紀夫 新潮社	とにかく美しい日本語に触れたい!と思ったときに読みます。特に聡子から清顕への恋文の美しさは圧巻。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『夢みる教養:文系女性のための知的生き方史』★★ 小平麻衣子 河出書房新社	理系よりも文系の方が「女性向き」?なぜ女性性は「自分磨き」が好きなのでしょうか?言われてみればなぜなんだろう、と思えるような疑問の数々を丁寧に解きほぐしてくれる本です。

ブース番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
56	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院医学研究科・教授 溝脇 尚志 「進化を続ける放射線治療」	若者にお勧めしたい本	『「がん」はなぜできるのか そのメカニズムからゲノム医療まで（ブルーバックス）』★ 国立がん研究センター研究所 編 講談社	本書は50年以上の歴史を持つ国立がん研究センター研究所のこれまでの、及び最新の知見を凝縮した一冊である。がんの発生のメカニズムからその進展、それに對する治療だけでなく、がんの予防にまで踏み込み、科学的なことを正確かつ平易な言葉で記述している。非常にホットな話題が多く取り上げられており、がんは国民病ではあるが不治の病ではなくなっていることを実感できるだろう。
58	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 福井謙一記念研究センター・シニアリサーチフェロー 榎 茂好 「緑の下の力持ち『触媒』と『計算化学』」	若者にお勧めしたい本	『現代化学史』★★ 廣田護 京都大学学術出版会	化学の歴史を、優れた物理化学研究者であった廣田護先生（京大理学部名誉教授）が執筆したものです。
		若者にお勧めしたい本	『学問の創造』 福井謙一 佼成出版社	日本で始めてノーベル化学賞を受賞された福井謙一先生（当時、京大工学部石油化学科教授）の少年期・青年期の思い出、研究者としての思い出や想い、基礎を重視する考え方（応用をするなら基礎からをやれ）、倫理的に優れた研究者とは、などが書かれており、理工系の学生さんに読んでほしい
59	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 人文科学研究所・日本学術振興会特別研究員PD 藤倉 康子 「社会的に認められない結婚と親子関係」	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『他社の苦しみへの責任—ソーシャル・サファリングを知る』★★ アーサー・クラインマン、ジョーン・クラインマン、ヴィーナ・ダス、ポール・ファーマー、マーガレット・ロック、E・ヴァレンティン・ダニエル、タラル・アサド、坂川雅子 訳 みすず書房	人々が経験する、さまざまな苦しみや痛みが、社会構造の一部をなすことを示し、医療人類学をはじめとして、健康、福祉、法律、宗教など様々な分野において、その後の議論の土台となった本。政治的暴力や社会の構造的暴力、日常的な抑圧などの問題が、文化人類学、社会史、文芸批評、宗教学、社会医学の観点から考察されていて、理論と政策の関係を複合的に理解することができます。
		今ハマっている本（誰かこの本について話したい）	『現代家族ベディア』★★ 比較家族史学会 編 弘文堂	この本は、現代家族のデータブックとして編集されていますが、近年の新たな家族の形や、家族を超える親密圏など、最新の研究動向も含まれていて、「家族って何？」という根本的な問題についても考えさせられます。若手の研究者による章も多く含まれ、多文化主義、ジェンダー論、グローバリゼーション、生殖医療や、多様な親密関係の考察など、刺激的な議論にふれることもできる一冊となっています。
		若者にお勧めしたい本	『境界を攪乱する一性・生・暴力』★★ 竹村和子 岩波書店	フェミニズム理論と正面から向き合い、性の権力構造や、暴力と性の政治について、深く考えぬかれた本。ジュディス・バトラの翻訳者であり解説者でもある著者は、「根源的な他者」という問題に関し、理論的には、主体／他者で切り分けられない存在の在り方を模索し、政治的には、差異と平等の終わりのない交渉について論じています。著者の没後に編集された本ですが、思索途中の思ひが伝わってくるような迫力を感じます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『彼女達との会話—ネパール・ヨルモ社会におけるライフ／ストーリーの人類学』★ 佐藤齊華 三元社	本書は、ネパール・ヨルモ社会で生きる女性達の生と、彼女達自身によるその生についての語りから、社会に生きる個人の姿を、一人一人の生に寄り添って描くことにこだわった力作です。個人の行為と社会的諸力の関係を考察しながら、人間の生を、その人本人による語りを通して浮かび上がらせる手法がとられ、特に、女性達の結婚をめぐる語りの分析からは、生きた軌跡としてのジェンダーを読み取ることができます。
60	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院医学研究科・准教授 和田 敏仁 「遺伝カウンセラーと学ぶ『がんゲノム』」	今ハマっている本（誰かこの本について話したい）	『「がん」はなぜできるのかそのメカニズムからゲノム医療まで』★★ 国立がん研究センター研究所 講談社	がんの仕組みについてわかりやすく書かれています。近年頻繁に見聞きする、がんのゲノム医療って何？と思う方でも理解しやすい1冊です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『遺伝カウンセリングのためのコミュニケーション論』★★ 小杉眞司 メディカルドゥ	京大遺伝カウンセラーコースを卒業した認定遺伝カウンセラーの方々が実体験をもとに執筆しています。遺伝カウンセリングの実践的な現場の様子も多く盛り込まれています。京大遺伝カウンセラーコースではこの本で遺伝カウンセリングを学んでいます。患者に寄り添う医療従事者の方にも是非読んでいただきたい1冊です。



生協ショップルネ書籍コーナーにて「研究者の本棚」関連コーナーを設置しています！
是非お立ち寄りください！

（場所：京都大学西部生協会館ルネ1階）

編集者 白井哲哉（学術研究支援室）
仲野安紗（学術研究支援室）
神谷俊郎（学術研究支援室）
大西将徳（学術研究支援室）
斎藤万里絵（学術研究支援室）
松本寛史（研究推進部研究推進課研究助成掛）
近藤玲子（研究推進部研究推進課研究助成掛）

デザイン 永田奈緒美（情報環境機構）

写真 大森貴生

発行日 2018 年 12 月 28 日

発行 学術研究支援室

研究推進部研究推進課

「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ

問合せ 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学 学術研究支援室

Tel : 075-753-5113

E-mail : kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※職名・組織名等は開催当時の名称です。